

令和6年度

普及計画書

西部農業事務所

農畜産課

担い手・園芸課

藤岡地区農業指導センター

富岡地区農業指導センター

農畜産課

担い手・園芸課

目 次

I 普及活動の方針

1 重点方針

- (1) 農業・農村の現状と問題点 1
- (2) 普及指導活動の重点方針 3

2 活動の推進方策

- (1) 活動体制 4
- (2) 活動方法 4

3 体制図・課題整理図

- (1) 組織・活動体制図 6
- (2) プロジェクト支援体制 7
- (3) 「群馬県農業農村振興計画」と「普及課題」の整理図 8

II 普及活動の計画

1 普及課題

- (1) 課題整理表 9
- (2) 重点課題
 - ア 有機農業の拡大支援 12
 - イ 榛名地域を核とした果樹産地の活性化 14
 - ウ 安中市の畑地活用によるコンニャク農家の経営改善 17
- (3) 専門課題
 - ア 共通 19
 - イ 農畜産指導係 22
 - ウ 担い手支援係 25
 - エ 園芸支援係 27
 - オ 野菜指導係 31

2 各普及関係事業計画書

- (1) 協同農業普及事業 32
- (2) がんばる新農業人応援事業 38
- (3) 女性農業者活動支援事業 40
- (4) 気象災害対策強化普及推進事業 42
- (5) グリーンな栽培体系への転換サポート事業 43

参考 1 普及活動実証ほ等一覧 44

参考 2 G A P 導入推進計画 45

I 普及活動の方針

1 重点方針

(1) 農業・農村の現状と問題点

西部地域は、県の西南部に位置し、「高崎安中地域」「多野藤岡地域」「甘楽富岡地域」の4市3町2村からなり、高速道路や新幹線等の交通網が整備され、首都圏に近く恵まれた立地条件にある。

西部管内の耕地面積(令和3年農林水産省「面積調査」)は14,357ha、総農家数(2020年農林業センサス)は12,165戸である。それぞれ県全体の22%、29%を占めている。また、農家1戸当たりの耕地面積(中山間地域を抱え)は1.2haで県平均(1.6ha)より少ない。

西部管内は、標高60mの平地から900mの山間地まで農地が分布し、各地域それぞれの自然・立地条件の特色を活かし、野菜・果樹・花き・米麦・コンニャク・畜産など多品目にわたる多彩な農業が展開され、関係機関・団体等が一体となって生産振興に努めている。

各部門に共通する問題として、農業者の高齢化、担い手の減少、労働力不足、異常気象の恒常化による病害虫の多発や農作物の品質低下、中山間地域を中心とした耕作放棄地の増加や野生鳥獣による農作物被害があり、その対策支援が重要となっている。また、世界情勢の変化による資材価格の高騰やコロナ後の生活・消費スタイルの変化が地域農業全体に影響を及ぼしてきた。

さらに、管内での特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」や「モモヒメヨコバイ」の発生、天候不順や気象災害の発生、県内畜産での特定家畜伝染病(CSF、鳥インフルエンザ)の発生など、不測の事態に対し、緊急かつ迅速な対応が求められる事案が増加している。

国では令和2年度に新たな「食料・農業・農村基本計画」を閣議決定し、「食料の安定供給の確保」「農業の持続的な発展」「農村の振興」を3つの柱に施策を展開している。

また、令和3年に「みどりの食料システム戦略」が策定され、それを受けて、令和4年6月に国の協同農業普及事業の実施についての考え方(ガイドライン)が改正された。今後、ガイドラインに示された農業のDX化や環境負荷低減に資する栽培体系の推進等、普及指導員の果たす役割は一層重要になっていく。

これら「みどりの食料システム戦略」やガイドライン等の農政の動きを踏まえつつ、群馬県農業農村振興計画2021-2025の目標の実現に向け、担い手の確保・育成のため、市町村など関係機関と連携した就農体制の整備を図る。さらに、環境負荷低減の取組とICT等の先端技術を組み合わせた、本県農業の持続的な発展に向け効果的・効率的な普及活動を展開する。

このような社会状況や課題を踏まえ、各地域での現状や問題点を明らかにし、解決に向けたベストマッチを普及活動計画へ反映していく。

ア 高崎安中地域

高崎安中地域は高崎市と安中市からなり、高崎市街地近郊の平坦地域では、広域麦作農事組合からステップアップした法人経営体への運営支援並びに飼料用米、飼料イネの導入等による水田経営の安定、耕畜連携等が求められている。また、施設園芸では、トマトやイチゴ等の果菜類、シクラメン、花壇苗等の花き類が盛んであり、一部には、環境制御技術の導入や輸出の取組が進んできている。野菜類では、ナス、ネギなど県重点推進品目及びタマネギ、チンゲンサイ、ブロッコリーなど地域推進品目の生産拡大を進めるとともに、GAP、IPM及び環境保全型農業の普及にも取り組んでいる。

榛名山南麓を中心とした中山間地域は、ナシ、ウメ、プラム、モモの生産が盛んで、県内でも有数の果樹産地が形成されている。消費者ニーズにあった高品質果実生産、新品種の導入や改植による生産性回復、6次産業化の推進、販売促進PRが課題となっている。

畜産では、生産基盤を強化するため、特定家畜伝染病対策の徹底、飼養頭数の増加やブランド力向上とともに、輸入飼料価格の高騰に伴う飼料作物の自給、域内生産による利用の拡大が喫緊の課題となっている。

また、高崎市倉渕地区では、有機野菜の組織的な生産が行われており、新規の就農希望者等への支援体制も整っていることから、担い手の確保、有機野菜の生産拡大を進める機運が高まっている。

安中市は、碓氷川、九十九川流域の水田、畑作地帯と中山間地域からなり、野菜、畜産、米麦、コンニャクなどの複合経営が中心である。野菜類は、露地ナス、ネギを重点品目に掲げて推進するとともに、タマネギ等の加工・業務用野菜の拡大やズッキーニ、プチベールなど新興品目の導入・定着に向け、重点的に取り組んでいる。令和2年には310ha規模の松義台地基盤整備事業が完了し、基幹作物のコンニャクを中心に作付されているが、近年は資材価格の高騰によるコスト高や生玉販売価格の低迷により、コンニャク農家は厳しい経営を強いられている。今後、補完作物の導入や生産コスト削減に向けた取組が急務となっている。

イ 多野藤岡地域

多野藤岡地域は、高崎市新町・吉井町、藤岡市、上野村、神流町からなり、比較的平坦な地域と山間地域とに大別される。

高崎市新町・吉井町、藤岡市の平坦地域では、米麦を中心とする水田農業、トマト・キュウリ・イチゴ・洋ラン等の施設園芸、ナス・ネギ等の露地野菜及び畜産（乳牛・肉牛・豚）が主要品目となっている。また、高速自動車道や主要幹線道路の沿線に道の駅や農産物直売所を整備し、直売向け農産物の生産も盛んにおこなわれている。しかし、担い手の高齢化が進み、農業従事者は減少傾向にあるため、新たな担い手の確保・育成、女性農業者の育成・経営能力向上等が求められている。

水田農業では、農事組合法人及び個別経営体の経営安定や体質強化が課題となっている。施設園芸や露地野菜では、安全・安心な農産物の供給、持続的な農業生産を推進していくため、ほ場管理技術、IPM技術及びGAP手法の導入、活用が求められている。これまで、イチゴやトマト、キュウリ、ナス等の果菜類では産地ビジョンの策定と、それに基づいた支援を行ってきたところであるが、さらに生産性向上に向けた支援が必要である。

一方、上野村及び神流町の奥多野地域では、狭く急傾斜な地形で、ほ場条件が悪く生産性が低いことから、農業の担い手の減少や高齢化が顕著となっている。「地域を守るやりがい・生きがい農業」の創出と地域の活性化が課題であり、多様な担い手の確保・育成、並びに地域特産物振興や加工品の開発支援が求められている。

ウ 甘楽富岡地域

甘楽富岡地域は、富岡市・下仁田町・南牧村・甘楽町からなり、標高115mから700mに耕地が広がっており、その面積の8割を畑地が占める中山間畑作地帯である。

本地域は、県内有数のコンニャク産地であるが、その生産の中心は安中市等に基盤整備された耕地（松義台地等）である。園芸部門では、地域特産の下仁田ネギ、その他、ナス、タマネギ、イチゴ、キュウリ、ニラなどの産地が形成され、JAが推進するインショップ販売を利用した、野菜の少量多品目生産が盛んである。果樹では、キウイフルーツ、リンゴ、花きでは、バラ、トルコギキョウ、花壇苗、鉢物ベゴニアなどのほか、山間の高標高

地を利用して、コギク、枝もの、山野草が生産されている。

また、古くから有機農業に取り組む農家が多い地域であり、令和4年10月20日、甘楽町が「オーガニックビレッジ宣言」を行い、県内最初のモデル地区に認定された。オーガニックビレッジの推進に伴い、有機農業者の確保や農産物の流通・販売に関わる支援が求められている。

担い手の高齢化の進展により、就農者の確保が大変重要な課題となっており、関係機関との連携をさらに強化し、担い手の確保・定着の体制を盤石なものとする必要がある。また、野菜では、気候変動や消費者ニーズに対応した安定生産技術や環境負荷低減技術の普及が求められており、コンニャクでは、越冬栽培の拡大、経営補完作物の導入による収益力強化が課題となっている。

更には、増加の一途をたどる鳥獣害や耕作放棄地への対策が急務となるだけでなく、特産物の開発・加工等、観光振興と一体となった支援策が求められている。

(2) 普及指導活動の重点方針

農業・農村を取り巻く環境は、国際情勢などを背景に、農業従事者の減少や高齢化の進行、労働力不足、資材価格等の高騰など、大きく変化している。

「群馬県農業農村振興計画 2021-2025」の基本目標である「未来に紡ぐ！豊かで成長し続ける農業・農村の確立」を目指し、「群馬県協同農業普及事業の実施に関する方針（令和3年3月）」を踏まえた、「施策の推進方策」、「西部地域農業の振興方向（地域重点プロジェクト）」等の取組を地域課題として重点化し、さらに“有機農業”を農政重点課題に位置付け、関係機関等との連携を一層強化し、効果的・効率的かつ積極的に活動を展開する。

ア 基本的な課題

- (ア) 農業の持続的な発展に関する支援
- (イ) 農村の振興に関する支援
- (ウ) 食料の安定供給の確保に関する支援

イ 高崎安中地域

- (ア) 有機農業の拡大支援
- (イ) 榛名地域を核とした果樹産地の活性化
- (ウ) 安中市の畑地活用によるコンニャク農家の経営改善

ウ 多野藤岡地域

- (ア) 多野藤岡地域農業の多様な担い手確保と育成
- (イ) 平坦野菜産地（イチゴ・露地ナス）の生産技術強化
- (ウ) 奥多野農村地域の担い手育成と農業振興
- (エ) 消費者理解による安全・安心な農業の推進

エ 甘楽富岡地域

- (ア) 環境負荷低減に関する農業の推進
- (イ) 松義台地を核とした中核的農業経営者の育成と畑作振興

2 活動の推進方策

(1) 活動体制

ア 組織体制は係制

管内全域を対象とした専門活動を効率的に展開するため、担い手支援係、園芸指導係、野菜指導係、農畜産指導係を配置する。また、経営、果樹、花き、畜産、工芸作物担当は、地区農業指導センターを含む広域活動を行う。

イ 専門分担活動とプロジェクト活動の併用方式

活動体制の基本は、専門的な課題に対応した専門活動と、地域的・総合的・広域的な課題に対応したプロジェクト活動の併用方式とし、担い手育成、経営指導等は共通課題として対応する。

ウ 地域戦略担当、施策業務担当、事務担当の設置

地域農業が抱える課題の解決に向け、効果・効率的な普及活動を展開するため地域戦略担当（次長）、国や県の施策を円滑に推進するため施策業務担当を配置する。施策業務担当は、農地有効活用、農作業安全、鳥獣害対策、グリーン化推進の4項目とする。また、課内事務の円滑化のために事務担当を配置する。

エ 市・支所担当者及びJ A担当者の設置

市・支所、J Aとの連携を図るため、旧市町村単位、J A毎に担当者を配置する。

オ プロジェクトチームの編成

地域の重点課題を解決するため、必要に応じて所属を超えたプロジェクトチームを編成する。

(2) 活動方法

普及活動に当たっては、重点課題及び専門課題を設定し、次長及び各係長が計画の策定・反省評価等の進行管理に当たる。特に、広域支援活動を行う担当者及び係長は、地区農業指導センター関係者との連絡を密にした活動を行う。

ア 専門活動

各専門担当は、専門項目を分担し管内全域を対象にした専門活動を展開する。

イ チーム活動

地域的・総合的・広域的な課題に対しては、プロジェクトチームにおいて各専門の立場から課題解決に当たり、総合力を発揮した普及活動を展開する。

ウ 市及びJ Aとの連携活動

市・支所担当者及びJ A担当者は各関係機関の窓口として、管内の農業振興を円滑に推進するため緊密な連携と連絡調整に当たる。

エ 先導的農業者との連携

多様化・専門化する課題に対し効率的に普及活動を推進するため、農業経営士、農村生活アドバイザー等を普及指導協力員に位置づけ協力を得る。

オ 所内の連絡調整

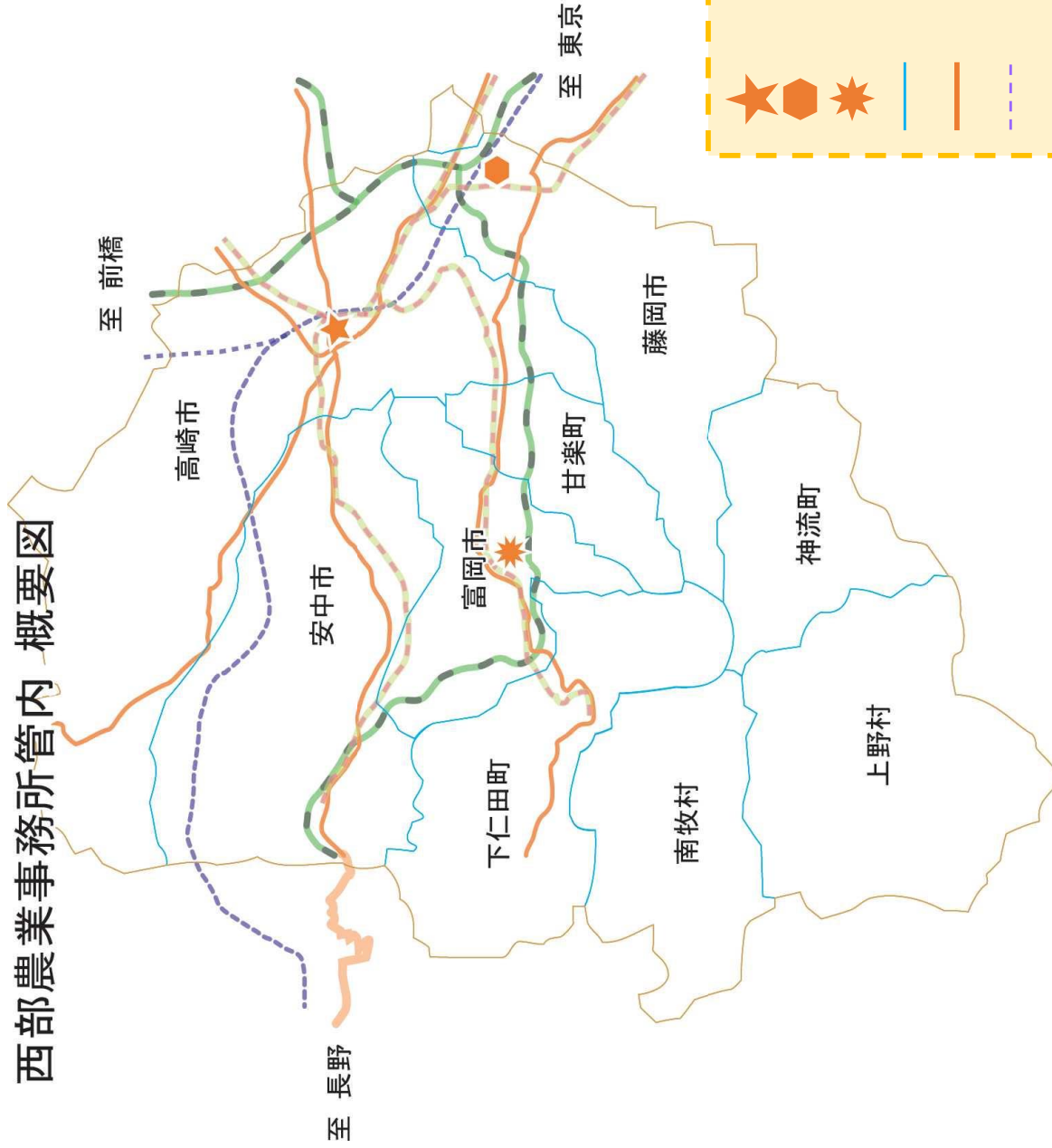
普及活動の円滑な推進と課内の連携強化を図るため、普及指導員会議、普及企画会議、各係会議等を開催するとともに、所内担当者等会議やプロジェクト会議等を通じて各課との調整を図る。

普及指導員会議は、普及指導課の広域担当が地区農業指導センターの会議に出席し、一体的な活動により総合指導体制が確保できるよう日程を調整して開催する。

カ 情報活動の強化

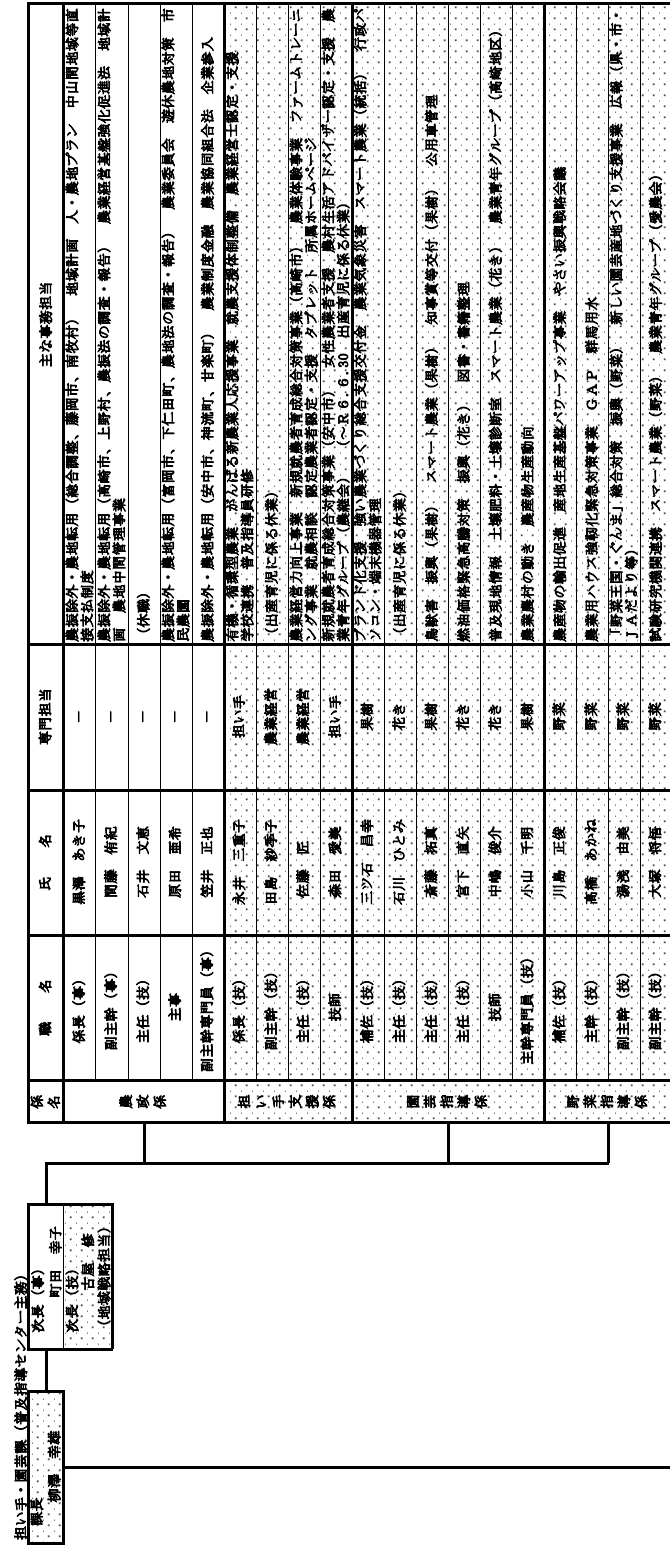
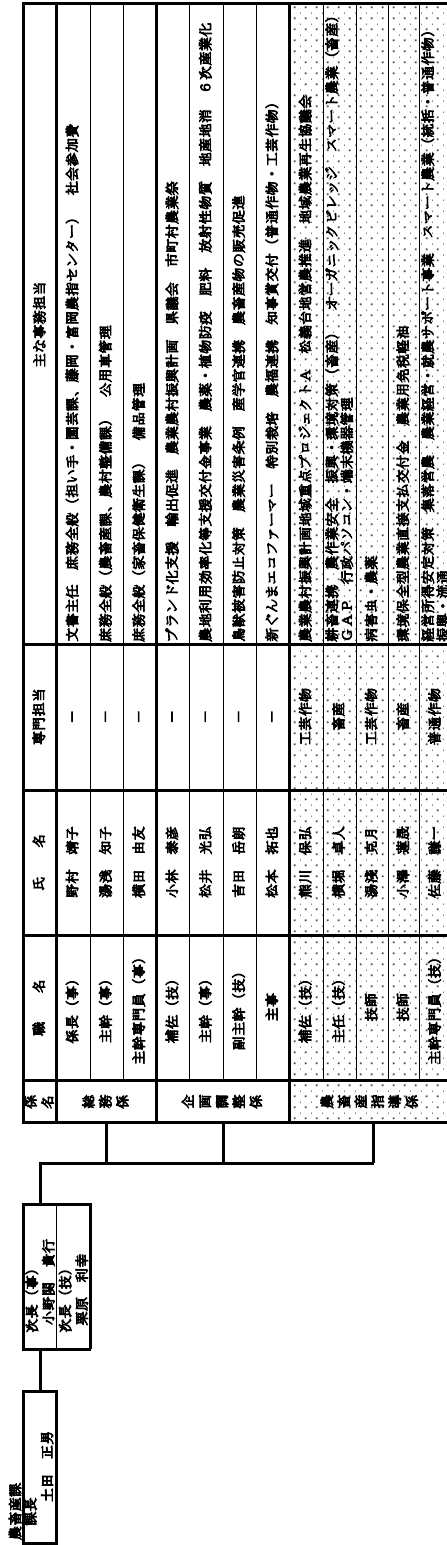
農業者等のニーズに対応するため、ICTの活用など情報の収集・保管・提供の強化と効率化を図る。

西部農業事務所管内 概要図



★	西部農業事務所担い手・園芸課
⬡	藤岡地区農業指導センター
★	富岡地区農業指導センター
—	県境・市町村境
—	主要県・国道等
- - -	上越・長野新幹線
—	関越・上信越・北関東自動車道
—	J R・私鉄線

3 体制図・課題整理図
(1) 組織・活動体制図



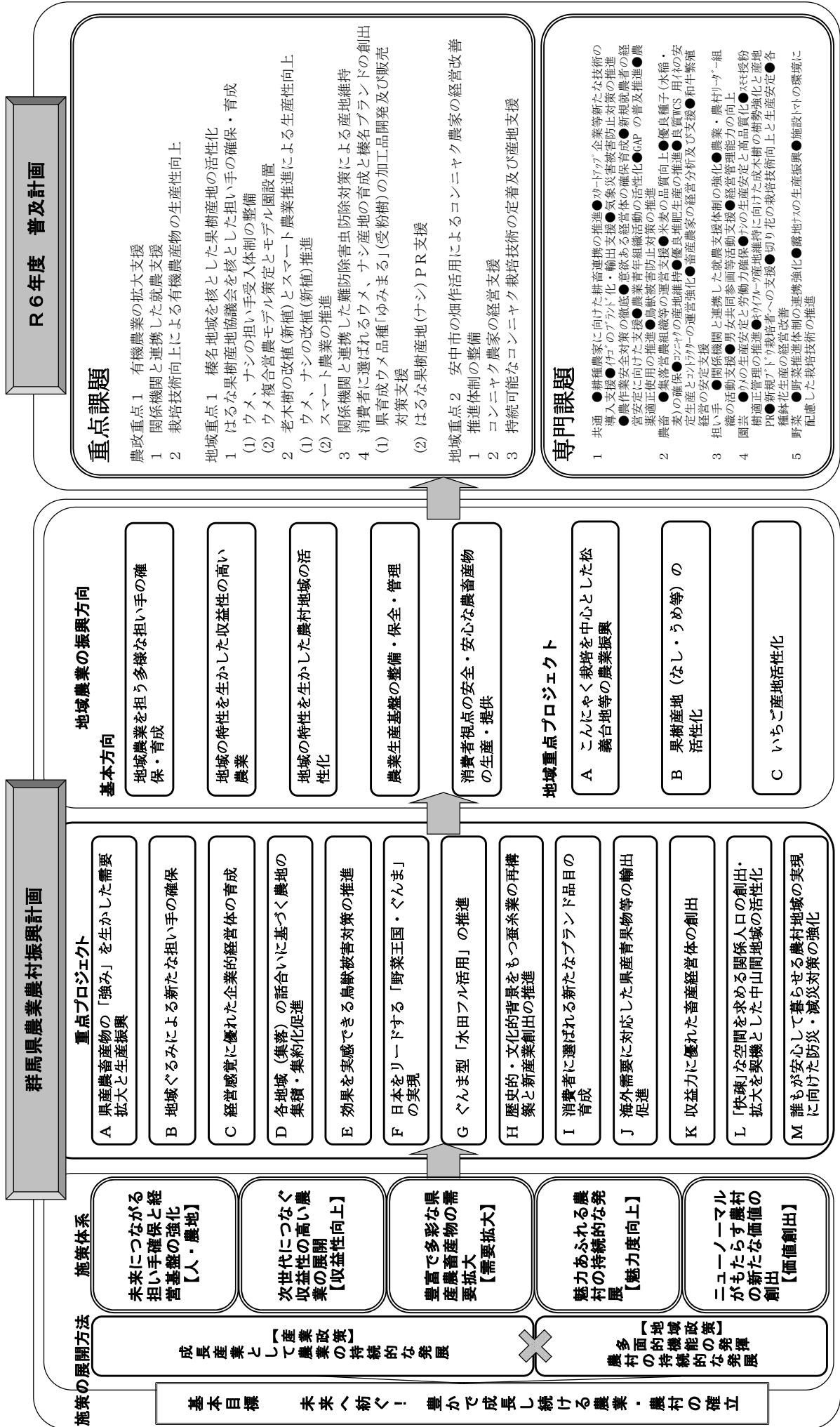
※ 網掛け部分：普及職員（普及指導員資格取得者及び未取得者）

(2) プロジェクト支援体制

プロジェクト名	内 容	関係機関	担当
<p>こんにゃく栽培を中心とした松義台地等の農業振興 (農業農村振興計画西部地域重点プロジェクト(A))</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の話し合いによる担い手への農地集積・集約の推進 ・こんにゃくの生産組織支援等による担い手の確保・育成、労働力確保 ・こんにゃくの安定生産に向けた栽培・経営支援 ・栽培に適した農業用排水路等の改善、整備等の検討・提案 	安中市 富岡市 J A 碓氷安中 J A 甘楽富岡 蚕糸特産課 富岡地区センター 農業振興課 農村整備課	○栗原 熊川 湯浅克 (以上、農畜産課) 黒澤 笠井 永井 佐藤匠 (以上、担い手・園芸課) 福島 日戸 高橋陸 (以上、富岡地区セ) 三木 松本恵 (以上、農村整備課)
<p>果樹産地(なし・うめ)の活性化 (農業農村振興計画西部地域重点プロジェクト(B))</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな担い手の確保・育成と栽培技術の向上支援 ・産地維持のための改植推進と遊休園地の発生抑制 ・新品種や新技術の導入・拡大 ・果樹産地の情報発信等による販売力強化 	高崎市 安中市 J A はぐくみ J A たかさき J A 碓氷安中 蚕糸特産課 農業振興課	○古屋 三ツ石 斎藤 小山 永井 佐藤匠 森田 (以上、担い手・園芸課)
<p>いちご産地活性化 (農業農村振興計画西部地域重点プロジェクト(C))</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いちご新規栽培者の確保・育成 ・ICT等技術導入による生産性・品質向上 ・IPM技術導入による環境に優しい農業への取組 ・GAP導入による経営改善 	高崎市 J A はぐくみ J A たかさき J A 碓氷安中 J A たのふじ J A 甘楽富岡 J A 全農ぐんま 農業技術センター 藤岡地区センター 富岡地区センター 野菜花き課 ぐんまブランド推進課	○中野 松本尚 飛田 (以上、藤岡地区セ) 川島 高橋あ 湯浅由 大塚 (以上、担い手・園芸課) 日戸 土屋 (以上、富岡地区セ)

※プロジェクトは、普及課題(支援事項等)に活動内容が含まれるもののみ記載する。

(3) 「群馬県農業農村振興計画」と「普及課題」の整理図



II 普及活動の計画

1 普及課題

(1) 課題整理表

◎は進行管理者

分類	課題名及び支援事項	担当者	国の重要政策	課題番号
重点課題	[有機農業の拡大支援] 1 関係機関と連携した就農支援 2 栽培技術向上による有機農産物の生産性向上	◎川島 永井 佐藤匠 森田 高橋 湯浅由 大塚 横堀	d d	1
	[榛名地域を核とした果樹産地の活性化] 1 はるな果樹産地協議会を核とした担い手の確保・育成 (1) ウメ、ナシの担い手受入体制の整備 (2) ウメの複合営農モデル策定とモデル園設置 2 老木樹の改植(新植)とスマート農業推進による生産性向上 (1) ウメ、ナシの改植(新植)推進 (2) スマート農業の推進 3 関係機関と連携した難防除害虫防除対策による産地維持 4 消費者に選ばれるウメ、ナシ産地の育成と榛名ブランドの創出 (1) 県育成ウメ品種「ゆみまる」(受粉樹)の加工品開発及び販売対策支援(※4, 5, 6, 22) (2) はるな果樹産地(ナシ)PR支援	◎古屋 三ツ石 斎藤 小山 川島 永井 佐藤匠 森田	b	2
	[安中市の畑作活用によるコンニャク農家の経営改善] 1 推進体制の整備 2 コンニャク農家の経営支援 3 持続可能なコンニャク栽培技術の定着及び産地支援(※3, 16, 32)	◎熊川 湯浅克 古屋 川島 佐藤匠	d	3
専門共通課題	1 耕種農家に向けた耕畜連携の推進 2 スタートアップ企業等新たな技術の導入支援 3 イチゴのブランド化・輸出支援 (1) Gアナと連携したブランド化(※14) (2) 新品種の調査、導入支援 (3) 輸出支援 (4) データ活用栽培の実践 4 気象災害被害防止対策の推進 5 農作業安全対策の徹底 6 意欲ある経営体の確保育成 7 新規就農者の経営安定に向けた支援 8 農業青年組織活動の活性化 9 GAPの普及推進 10 農薬適正使用の推進 11 鳥獣被害防止対策の推進	◎古屋 全員	c a	4
	1 集落営農組織等の運営支援 2 米麦の品質向上 (1) 水稻の品質向上(※8, 9, 10, 17, 20, 23, 24, 28) (2) 麦類の品質向上(※11, 19) 3 優良種子(水稻、麦)の確保(※11, 19)	◎熊川 横堀 湯浅克 小澤 佐藤謙		5

専 門 課 題	産 指 導 係	4 コンニャクの産地維持(※3, 16) 5 優良堆肥生産の推進 6 良質 WCS 用イネの安定生産とコントラクターの運営強化 (1) 稲 WCS の高品質生産と利用推進 (2) WCS 用イネの作付推進(※13, 18, 29) (3) コントラクターの運営強化 7 畜産農家の経営分析及び支援 8 和牛繁殖経営の安定支援(※12, 21, 25)			
	担 い 手 支 援 係	1 関係機関と連携した就農支援体制の強化 2 農業・農村リーダー組織活動支援 3 男女共同参画等活動支援 4 経営管理能力の向上	◎永井 佐藤匠 森田		6
	園 芸 技 術 係	1 ウメの生産安定と労働力確保 (1) ウメの生産安定と品質向上(※15) (2) 産官学連携による労働力確保 (3) 農福連携による新たな働き手の確保と就労化機会の創出 2 ナシの生産安定と高品質化 3 スモモ授粉樹適正管理の推進 4 キウイフルーツ産地維持に向けた成木樹の樹勢強化と産地PR 5 有機オリーブ産地づくりの推進 6 新規ブドウ栽培者への支援 7 切り花の栽培技術向上と生産安定 (1) 南牧村産地維持のための担い手確保と生産振興 (2) バラの生産性向上 (3) トルコギキョウの生産安定 (4) シンビジウムの生産安定 8 各種鉢花生産の経営改善 (1) 難防除病害虫防除によるシクラメンの生産安定 (2) コナジラミ類防除による鉢物ベコニアの生産安定 (3) 鉢物カーネーションの需要期出荷技術支援	◎三ツ石 斎藤 小山 宮下 中嶋		7
	野 菜 指 導 係	1 野菜推進体制の連携強化 2 露地ナスの生産振興 (1) 産地の拡大 (2) 若手農家の経営改善 3 施設トマトの環境に配慮した栽培技術の推進(※31)	◎川島 高橋 湯浅由 大塚 佐藤匠	d d	8
国の重要施策 a :GAP b :スマート農業 c :輸出促進 d :環境負荷低減(みどり戦略) e :水田高収益作物 転換					

〇ぐんま農業新技術・普及指導員資料に関連する技術

- ※1 ミヤコカブリダニ製材を利用したナシのハダニ類防除(H31)
- ※2 コンニャク培土同時複合作業機の開発(H30)
- ※3 アミスルブロム水和剤とムギ類全面播種被覆栽培との組み合わせによるコンニャク根腐病の防除(H31)
- ※4 ウメ新品種『ひなた丸(仮称)』の特性(H30)
- ※5 ウメ新品種『ひなた丸(仮称)』のS遺伝子型の判明による授粉樹適性の解明(H30)
- ※6 ウメ新品種『ひなた丸(仮称)』の加工適性(H30)
- ※7 秋冬どりネギ栽培におけるリン酸減肥暫定基準の実証(H30)
- ※8 水稻奨励(認定)品種「いなほっこり(仮称)」の特性(H30)
- ※9 水稻奨励(認定)品種「いなほっこり(仮称)」の基肥・追肥体系における施肥基準(H30)
- ※10 水稻品種「いなほっこり(仮称)」における積算温度と帯緑色収歩合を利用した適期収穫(H31)
- ※11 製パン性に優れる畑地向き硬質小麦奨励(認定)品種「ゆめかおり」の特性(H31)
- ※12 ゲノミック評価を活用した黒毛和種繁殖雌牛選抜・改良(R2)
- ※13 二毛作栽培における高糖分高消化性 WCS 用稲「つきすずか」の栽培技術とサイレージ品質(R2)
- ※14 イチゴ県育成品種の水分、有機酸、アミノ酸および総ポリフェノールによる分類(R2)

- ※15 ウメ「白加賀」の陥没症対策について(R2)
- ※16 コンニャク主要品種「あかぎおおだま」「みやままさり」の窒素吸収パターンとその変動(R3)
- ※17 水稲「いなほっこり」の玄米タンパク質含有量と食味性の関係(R3)
- ※18 高騰分高消化性稲 WCS と大麦 WCS を組み合わせた乳生産(R3)
- ※19 水田における小麦「ゆめかおり」の製パン適性に優れるタンパク質含有率を確保する施肥方法(R4)
- ※20 群馬県における水稲奨励（認定）品種「にじのきらめき（仮称）」の特性(R4)
- ※21 ゲノミック評価を活用した黒毛和種の24か月齢出荷技術(R4)
- ※22 ウメの本県育成品種「群馬U6号」に適したカリカリウメの加工条件(R5)
- ※23 群馬県平坦地における水稲奨励（認定）品種「にじのきらめき」の収穫適期(R5)
- ※24 普通期栽培（6月中下旬移植）における水稲奨励（認定）品種「いなほっこり」の疎植適応性(R5)
- ※25 第12回全国和牛能力共進会第8区（肥育去勢牛）出品対策と結果の検証(R5)

○最新農業技術・品種に関連する技術

- ※26 果樹の樹体ジョイント仕立てを核とした省力、低コスト栽培システム（2015）
- ※27 高能率軟弱野菜調製機(2019)
- ※28 縞葉枯病抵抗性で良質良食味米の水稲新品種「いなほっこり（中国209号）」（2018）
- ※29 縞葉枯病抵抗性で茎葉多収、高糖分のイネ WCS 専用品種「つきすずか」（2018）
- ※30 夏期高温期の湛水による玉ネギべと病の一時伝染抑制技術(2020)
- ※31 捕食性天敵タバコカスミカメをナスの周年栽培体系で利用する技術「ゴマまわし」（2020）
- ※32 コンニャク主要品種「あかぎおおだま」、「みやままさり」におけるカリ吸収量の推移(2022)

(2) 重点課題

分類：農政重点 課題番号：1

進行管理：川島

課題名	有機農業の拡大支援
支援対象	くらぶち草の会
課題設定の背景及び理由	農林水産省では、農林水産業や地域の将来も見据えた持続的な食料システムの構築に向けて「みどり食料システム戦略」を策定し、2050年までに目指す姿の一つとして有機農業の取組面積を100万haに拡大するとしている。また、群馬県でも2030年までに県内のその取組面積を3,000haまで拡大することとしている（2021年は1,942ha）。 一方、管内で組織的に有機農業を実践している「くらぶち草の会」では、新規就農者が増加しており、その生産基盤の強化が求められている。
支援事項と解決手法	1 関係機関と連携した就農支援体制の構築 くらぶち草の会と関係機関の連携による新規就農希望者の受入支援と、支援検討会等による新規就農者の定着に向けた支援を行う。 2 栽培技術向上による有機農産物の出荷量拡大 「くらぶち草の会」の出荷量の安定を図るため、各種研修会や目揃え会等で情報提供を行うとともに、土壌分析を行い、土壌の現状把握と改善の提案を行う。また、新規就農者に対する経営指導の資とするため、有機農業実践事例を作成する。

<普及指導活動年度計画（令和6年度）>

支援事項 【支援対象】	評価指標		担当
	成果指標	活動指標	
1 関係機関と連携した就農支援 【くらぶち草の会】	新規就農者数 2名	受入・定着支援検討会 2回 (受入等流れの確認(資金等)、受入者情報の共有、研修受入農家候補の検討、農業体験事業、新農業人フェアなど) 農業体験実施 (2日間コース) 1回 SNSによる発信支援 4回 (農業体験(9月)フェイスブック・インスタで2回、新農業人フェアフェイスブック、インスタで2回) 営農計画作成支援 2名 就農相談会等出展支援 1回	川島 永井 佐藤 匠 森田
2 栽培技術向上による有機農産物の生産性向上 【くらぶち草の会】	有機農業経営事例取りまとめ数 3事例 有機栽培技術取りまとめ数 1事例 契約数量達成率 (コマツナ) 100% 土壌実態事例作成 1	有機農業者経営調査 3回 有機農業者技術調査 12回 出荷会議・目揃え会 3回 情報提供 3回 BT剤等実証ほ[植防] 1箇所 土壌実態調査 ・6ほ場(ベテラン4、新規2) ×3層(0-20, 21-40, 41-60cm) ・31ほ場×1層(0-20cm)	川島 高橋 湯浅 由 大塚 佐藤 匠 熊川 横堀

	堆肥舎設置 1箇所	土壌分析結果検討会 1回 堆肥盤設置に向けた検討会 2回 エコファーマー認定申請書作成支援 1件
関連事業名：がんばる新農業人応援事業、有機土壌実態調査、畜産堆肥活用推進モデル事業		

年間スケジュール

支援事項	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 関係機関と連携した就農支援	● 受入・定着支援検討会							● 受入・定着支援検討会				
	●農業体験実施(2日間コース) SNSによる発信支援・就農相談会等出展支援 ●営農計画作成支援											
2 栽培技術向上による有機農産物の出荷量拡大	有機農業者経営調査・技術調査 出荷会議・目揃え会、情報提供(それぞれ3回)、BT剤等実証区設置 ●土壌実態調査 ●土壌分析結果検討会 堆肥舎設置に向けた支援・エコファーマー認定申請書作成支援											

分類：地域重点 課題番号：2 <普及指導活動3箇年計画>

課題名	榛名地域を核とした果樹産地の活性化							
支援対象	はるな果樹産地協議会、JAはぐくみ果樹生産者							
課題設定の背景及び理由	<p>高崎市榛名地域は、ウメ、ナシを主体とした果樹栽培が盛んであり、ウメの市場出荷（全国2位）及びナシ、モモ、スモモ等を組み合わせた複合果樹経営による観光直売の産地を形成している。</p> <p>しかし、近年は生産者の高齢化や老木樹の増加、気候変動の影響による生産量・果実品質の低下が問題になっている。また、難防除害虫である特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の被害拡大は産地衰退の危機をもたらし、防除対策が急務となっている。</p> <p>そこで、担い手の確保・育成および優良品種への改植（新植）推進、難防除害虫への対策等、生産体制の強化を図るとともに、関係機関と連携し、県育成ウメ品種「ゆみまる」（受粉樹）の加工品開発及びはるな果樹産地（ナシ）PR支援に取り組み、榛名地域を核とした西部地域の果樹産地活性化を図る。</p>							
支援事項と解決手法	<p>1 はるな果樹産地協議会（ウメ、ナシ、スモモ、モモ）を核とした担い手の確保・育成</p> <p>(1) ウメ、ナシの担い手受入体制の整備（新規就農者の受入体制の検討、研修先リスト化、園地リスト化、営農マニュアル作成）と、担い手確保に向けた農業体験や新農業人フェアへの出展支援を行う。</p> <p>(2) ウメの複合営農モデル策定とモデル園設置により、新たな担い手確保の推進を図る。</p> <p>2 老木樹の改植（新植）とスマート農業推進による生産性向上</p> <p>(1) ウメ、ナシの改植推進と併せ、気候変動に対応可能な優良品種および県育成品種導入による生産基盤の強化を図る。</p> <p>(2) 果樹栽培における作業省力化を目的としたスマート農業技術の普及に取り組み、生産性の向上を図る。</p> <p>3 関係機関と連携した難防除害虫防除対策による産地維持</p> <p>難防除害虫である特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」に対し、地域ぐるみの総合的な防除対策を推進し、被害の低減を図る。</p> <p>4 消費者に選ばれるウメ、ナシ産地の育成と榛名ブランドの創出</p> <p>(1) 県育成ウメ品種「ゆみまる」（受粉樹）の特色を生かした加工品開発及び販売対策支援を行う。</p> <p>(2) はるな果樹産地のPR戦略を関係機関と検討・支援し、産地魅力度アップに繋げる。</p>							
目標年次の姿（ビジョン）	<p>新たな担い手確保に向けた体制作り、ウメ、ナシの改植（新植）に伴う優良品種導入推進、スマート農機の推進、重要害虫対策等を関係機関と連携し、西部地域の果樹産地活性化を目指す。</p>							
	年次	R5 (現状)	R6		R7		R8	
目標			(目標)	(実績)	(目標)	(実績)	(目標)	(実績)
担い手受入体制整備(件)		0	0		0		1	
はるな果樹産地ビジョン作成		0	0		0		1	
改植（新植）面積 (a)単年	ウメ	270	50		50		50	
	ナシ	70	20		20		20	
クビアカツヤカミキリ被害率(%)		21	18		15		12	
ビジョン達成までの行程	支援事項 【支援対象】	主な活動			R6	R7	R8	
	1 はるな果樹産地協議会を核とした担い手の確保・育成 【はるな果樹産地協議会、新規就農者等】	受入体制の検討 ウメ複合モデル園設置 ウメ複合営農モデルの策定 農業体験 営農マニュアルの作成 はるな果樹産地ビジョン作成			←	←	←	←

2 老木樹の改植(新植)とスマート農業推進による生産性向上 【はるな、みさと果樹産地協議会】	改植事業推進 スマート農業技術実演会	←	→	←	→
3 関係機関と連携した難防除害虫防除対策による産地維持 【高崎市、JAはぐくみ、はるな果樹産地協議会等】	防除対策実証ほ設置 難防除害虫防除体制整備	←	→	←	→
4 消費者に選ばれるウメ、ナシ産地の育成と榛名ブランドの創出 【はるな果樹産地協議会】	「ゆみまる」出荷体制整備 産地PR戦略会議	←	→	←	→

<普及指導活動年度計画(令和6年度)>

進行管理: 古屋

支援事項 【支援対象】	評価指標		担当
	成果指標	活動指標	
1 はるな果樹産地協議会を核とした担い手の確保・育成 (1) ウメ、ナシの担い手受入体制の整備 【はるな果樹産地協議会】 (2) ウメの複合営農モデル策定とモデル園設置 【はるな果樹産地協議会】	協議会との合意形成 0 → 1 ウメ複合営農モデル園設置 0 → 1園	はるなの未来を語る会 5回 産地実態調査 2回 先進地視察研修 1回 モデル園の調査・分析 3回 営農モデル策定検討会 2回	古屋 三ツ石 川島 永井 佐藤匠 森田 斎藤 小山
2 老木樹の改植(新植)とスマート農業推進による生産性向上 (1) ウメ、ナシの改植(新植)推進 【はるな、みさと果樹産地協議会】 (2) スマート農業の推進 【はるな果樹産地協議会】	ウメ、ナシ改植(新植)面積 ウメ 50a ナシ 20a スマート農業技術支援数 3技術	改植事業説明会 2回 改植ほ場現地確認 4回 省力技術モデル園検証 2回 スマート農業技術実演会 (除草、せん定軽労省力化) 2回	古屋 三ツ石 斎藤 小山
3 関係機関と連携した難防除害虫防除対策による産地維持 【高崎市、JAはぐくみ、はるな果樹産地協議会等】	クビアカツヤカミキリ被害率 21 → 18% 新たな防除対策手法 0 → 1件 クビアカツヤカミキリ発生状況マップ 0 → 1	成虫発生予測式を活用した情報発信 1回 防除対策現地研修会 1回 クビアカ防除技術実証ほ設置 [協同農業] 1箇所 タブレットを活用した発生状況調査 随時 クビアカ防除対策会議 3回	古屋 三ツ石 斎藤 小山

<p>4 消費者に選ばれるウメ、ナシ産地の育成と榛名ブランドの創出</p> <p>(1) 県育成ウメ品種「ゆみまる」(受粉樹)の加工品開発及び販売対策支援 【JAはぐくみウメ生産者】</p> <p>(2) はるな果樹産地(ナシ)PR支援 【はるな果樹産地協議会等】</p>	<p>ウメ加工品開発 0 → 1品</p> <p>果樹産地のPRツール 0 → 1</p>	<p>加工品開発検討会 1回 試食検討会 1回 ぐんまウメ産地再生プロジェクト作業部会検討会 2回</p> <p>産地PR戦略会議 2回</p>	<p>古屋 三ツ石 斎藤 森田 小山</p>
<p>関連事業名：果樹経営支援等対策事業、がんばる新農業人応援事業、 関連プロジェクト名：農業農村振興計画 西部地域重点プロジェクトB 「果樹産地（ナシ・ウメ等）の活性化」</p>			

年間スケジュール

支援事項	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<p>1 はるな果樹産地協議会を核とした担い手の確保・育成</p> <p>(1) ウメ、ナシの担い手受入体制の整備</p> <p>(2) ウメ複合営農モデル策定とモデル園設置</p>	<p>← はるなの未来を語る会 (5回) →</p> <p>●産地実態調査 (5月, 12月)</p> <p>●モデル園設置 (5月)</p> <p>← 調査・分析 (3回) 営農モデル策定検討会 (2回) →</p>											
<p>2 老木樹の改植(新植)とスマート農業推進による生産性向上</p> <p>(1) ウメ、ナシの改植(新植)推進</p> <p>(2) スマート農業の推進</p>	<p>← ●改植事業説明会 (6月, 12月) →</p> <p>← 改植現場現地確認 (4回) →</p> <p>●打合わせ (5月)</p> <p>●実演会・検証 (7月, 11月)</p>											
<p>3 関係機関と連携した難防除害虫防除対策による産地維持</p>	<p>●発生状況マップ作成 (4月)</p> <p>●成虫発生情報発信 (5月) ●防除対策現地研修会 (6月)</p> <p>← 防除講習(3回)・タブレット活用発生状況調査(随時) →</p> <p>← 実証圃設置・調査 (5月-10月) →</p> <p>●加防除対策会議 (5月, 10月, 12月)</p>											
<p>4 消費者に選ばれるウメ、ナシ産地の育成と榛名ブランドの創出</p> <p>(1) 県育成ウメ品種「ゆみまる」(受粉樹)の加工品開発及び販売対策支援</p> <p>(2) はるな果樹産地(ナシ)PR支援</p>	<p>●加工品開発検討会 (5月)</p> <p>●加工作業部会検討会 (5月)</p> <p>●産地PR戦略会議 (6月)</p> <p>●試食検討会 (11月)</p> <p>●加工作業部会検討会 (11月)</p> <p>●産地PR戦略会議 (12月)</p>											

課題名	安中市の畑地活用によるコンニャク農家の経営改善																																													
支援対象	JA碓氷安中蒟蒻生産部会																																													
課題設定の背景及び理由	<p>安中市では、基盤整備事業により大区画ほ場が整備され、コンニャクを中心とした一大畑作地帯が形成されている。しかし、近年は高齢化の進展に伴い離農者が増加し、コンニャク作付面積は減少が続いている。さらに、世界情勢の変化による資材価格の高騰や、コンニャクの需要減退に伴う生玉販売価格の低迷により、コンニャクの販売価格は再生産価格を大きく割り込み、コンニャク農家は厳しい経営を強いられている。今後、離農の加速に伴う耕作放棄地の急速な拡大が危惧されている。</p> <p>また、資材高騰対策をはじめとするコスト削減や、新技術や補完作物の導入に対する経営評価を行うなど、所得向上に向けた対策を講じることが喫緊の課題となっている。</p>																																													
支援事項と解決手法	<p>1 推進体制の整備 コンニャクを巡る課題の解決及び耕作放棄地の解消について協議、合意形成を図るため、県、市、土地改良区、JAをメンバーとするプロジェクトチームを編成する。</p> <p>2 コンニャク農家の経営支援 コンニャクを基幹品目とする農家の所得向上を図るため、コンニャク経営の現状分析と課題の洗い出しを行うとともに、「コンニャク+野菜複合経営」のシミュレーションモデルを策定し、農家に導入する。</p> <p>3 持続可能なコンニャク栽培技術の定着及び産地支援 コンニャク産地の維持及び環境負荷・資材費等の低減を図るため、組織活動支援や実証ほ場の設置を通じて、ほ場越冬栽培技術や堆肥活用等を中心とした環境負荷低減栽培技術を推進する。また、土壌消毒代替農薬（オラクル顆粒水和剤）による病害防除について、経営面からも技術の評価、優位性を明らかにし、普及推進を図ることで持続可能なコンニャク栽培を目指す。</p>																																													
目標年次の姿（ビジョン）	<p>コンニャク農家の複合化に向けた支援を行うと共に、持続可能なコンニャク栽培技術の推進を図る。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年次</th> <th>R5</th> <th colspan="2">R6</th> <th colspan="2">R7</th> <th colspan="2">R8</th> </tr> <tr> <th>(現状)</th> <th>(目標)</th> <th>(実績)</th> <th>(目標)</th> <th>(実績)</th> <th>(目標)</th> <th>(実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>推進体制の整備</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>補完作物導入農家(戸)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td>5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>越冬栽培面積(ha)</td> <td>31</td> <td>32</td> <td></td> <td>33</td> <td></td> <td>34</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							年次	R5	R6		R7		R8		(現状)	(目標)	(実績)	(目標)	(実績)	(目標)	(実績)	推進体制の整備	0	0		1		1		補完作物導入農家(戸)	0	0		2		5		越冬栽培面積(ha)	31	32		33		34	
年次	R5	R6		R7		R8																																								
	(現状)	(目標)	(実績)	(目標)	(実績)	(目標)	(実績)																																							
推進体制の整備	0	0		1		1																																								
補完作物導入農家(戸)	0	0		2		5																																								
越冬栽培面積(ha)	31	32		33		34																																								
ビジョン達成までの行程	支援事項【支援対象】	主な活動			R6	R7	R8																																							
	1 推進体制の整備【安中市、JA碓氷安中、安中市農業委員会事務局、松義台地土地改良区】	安中市営農連絡調整会議の開催 畑地活用打合せ会議			←		→																																							
	2 コンニャク農家の経営支援【JA 碓氷安中蒟蒻生産部会】	経営診断・評価 補完作物の導入			←	→																																								
	3 持続可能なコンニャク栽培技術の定着及び産地支援【JA碓氷安中蒟蒻生産部会】	環境負荷低減栽培技術支援 クロピク代替実証ほ場設置			←		→																																							

支援事項 【支援対象】	評価指標		担当
	成果指標	活動指標	
1 推進体制の整備 【安中市、JA碓氷安中、安中市農業委員会事務局、松義台地土地改良区】	コンニャクの安定生産に向けた合意形成 1	関係機関との調整会議の開催 3回 畑地活用打合せ会議 5回 地域重点プロジェクトA会議 2回	熊川 湯淺克 古屋
2 コンニャク農家の経営支援 【JA碓氷安中蒟蒻生産部会】	経営診断農家戸数 0→3戸 複合経営モデル 1	経営調査 3回 補完作物導入アンケート調査 1回 補完作物導入研修会 1回	熊川 湯淺克 川島 佐藤匠
3 持続可能なコンニャク栽培技術の定着及び産地支援 【JA碓氷安中蒟蒻生産部会】	ほ場越冬栽培面積 31→32ha コンニャク病害10%以上のほ場割合 27→15%	化成肥料低減実証ほ場 [協同農業] 1箇所 ほ場越冬栽培推進研修会 1回 ほ場越冬栽培生玉流通に係る関係者打ち合わせ 2回 クルビ [®] クリン代替実証ほ場 [グリサボ] 1箇所 タブレットを活用した病害虫等防除指導 5回	熊川 湯淺克
関連事業名：グリーンな栽培体系への転換サポート 関連プロジェクト名：農業農村振興計画 西部地域重点プロジェクトA「こんにゃく栽培を中心とした松義台地等の農業振興」			

年間スケジュール

支援事項	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 推進体制の整備・強化		●連絡調整会議			●連絡調整会議							●連絡調整会議
		●畑地活用打合	●畑地活用打合			●畑地活用打合	●畑地活用打合	●畑地活用打合	●畑地活用打合			●畑地活用打合
				●プロジェクトA会議							●プロジェクトA会議	
2 コンニャク農家の経営支援		補完作物アンケート調査 ↔										●補完作物導入研修会
												←経営調査(コスト削減実態把握)・複合経営モデル→
3 持続可能なコンニャク栽培技術の定着及び産地支援					●ほ場越冬栽培推進研修会							
												←試験ほ等の情報提供→
												←作況ほ・実証ほ・設置・調査(タブレット活用)→
												←グリサボ実証ほの設置、生育調査、栽培管理等情報提供→

(3) 専門課題

分類：専門、共通 課題番号：4

支援事項 【支援対象】	評価指標		担当
	成果指標	活動指標	
1 耕種農家に向けた耕畜連携の推進 【耕種農家】 【重点指導農家】	新規堆肥利用戸数 3戸	堆肥活用実態調査 45戸 堆肥販売リスト紹介 随時 堆肥の活用周知 随時	全員
2 スタートアップ企業等新たな技術の導入支援 【管内生産者】	現地実証試験のマッチング 1箇所	マッチング会のPR 3回 現地実証試験のマッチング支援 5回	古屋 永井 三ツ石 川島 熊川
3 イチゴのブランド化・輸出支援 【管内イチゴ生産者】			川島 高橋 湯浅由 大塚
(1) Gアナと連携したブランド化	単収の向上 4.5→5.0t/10a	葉柄中の硝酸イオン分析 4戸 生産工程管理に基づく現地研修会 2回	
(2) 新品種の調査、導入支援	新品種育苗特性把握 2品種	新品種特性調査実証ほ[協同農業] 1箇所 情報提供 2回	
(3) 輸出支援	本輸出農家戸数 0→5戸	輸出促進対策支援 5回 技術研修会 3回	
(4) データ活用栽培の実践	データ活用農家戸数 2戸	環境制御実証ほの設置 1箇所 データ活用勉強会の実施 1回	
4 気象災害被害防止対策の推進 【施設栽培等生産組織】	被害発生件数 0件	市町村・JA等担当者会議 2回 (気象情報等の伝達体制協力) ハウス被害防止対策講習会 8回 JA広報等による周知 3回 セーフティネット加入推進活動 随時	全員
5 農作業安全対策の徹底 【全生産者】 【農業機械士等】	農作業死亡事故件数 0件	農作業安全講習会 2回 講習会等による注意喚起 50回 JA広報等による周知 3回 先進地視察研修会 1回	全員
6 意欲ある経営体の確保育成 【認定農業者】 【農業経営・就農支援センター重点支援農業者】	経営改善計画作成農家戸数(更新+新規) 50戸 新規重点支援農業者戸数 2戸 専門家派遣の満足度割合 70%以上	経営改善計画作成支援 7回 サポート事業活用農業者の掘り起こし 3回 スペシャリスト派遣 4回 伴走支援 20回	全員

7 新規就農者の経営安定に向けた支援 【新規就農者等】	フォローアップ対象農家の自己評価向上戸数 15戸 研修会延べ参加者 40人	タブレットを活用した巡回指導等、経営相談 60回 フォローアップ農家検討会 2回 農業基礎研修会の開催 4回	永井 佐藤匠 森田
8 農業青年組織活動の活性化 【高崎地区農業青年クラブ】 【群馬県央農継会】 【倉淵愛農会】	新規加入者数 2名 実績発表課題 1課題	タブレットを活用した活動支援 30回 3組織合同会議の開催 2回 実績発表支援 5回	永井 森田 中嶋 大塚
9 GAPの普及推進 【管内生産者・法人等】	認証取得産地数 2 認証レベル産地数(イチゴ) 4	管理基準書に基づくGAP指導 10回	高橋 斎藤 横堀
10 農薬適正使用の推進 【全生産者】 【直売所出荷者等】	農薬基準値超過事案発生件数 0件	講習会等による指導 80回	湯浅克 斎藤 大塚
11 鳥獣被害防止対策の推進 【高崎市、安中市、発生区域内外生産者等】	被害金額(高崎市、安中市) 27,466(R5)→25,500千円(単年)	市広報等による注意喚起 1回 各種講習会等情報提供 10回 高崎市鳥獣被害防止対策協議会 1回 猟友会・捕獲隊意見交換会 1回	斎藤 三ツ石
<p>関連事業名：農業経営・就農サポート推進事業、GAPの普及推進、気象災害対策強化普及推進事業、ぐんまAgri×NETSUGEN共創事業、ニューノーマルに対応した県産農畜産物等PR事業、がんばる新農業人応援事業、ぐんま農業イノベーション推進事業</p> <p>関連プロジェクト名：農業農村振興計画 西部地域重点プロジェクトC「いちご産地活性化」</p>			

年間スケジュール

支援事項	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 耕種農家に向けた耕畜連携の推進	← 堆肥活用実態調査 →											●堆肥活用実績確認
	← 堆肥の活用周知・堆肥販売リストの紹介 →											
2 スタートアップ企業等新たな技術の導入支援						●マッチング会PR						
							← 企業と農業者、生産組織とのマッチング支援 →					
3 イチゴのブランド化・輸出支援 (1) Gアナと連携したブランド化						●現地研修会						
							●現地研修会					
	← 葉柄中の硝酸イオン分析 →											

(2) 新品種の調査、導入支援	●情報提供 新品種育苗特性把握実証ほ設置・調査	●情報提供
(3) イチゴの輸出支援	●技術研修会 輸出促進対策支援	●技術研修会 ●技術研修会
(4) データ活用栽培の実践	●データ活用勉強会 環境制御実証ほ設置・調査	
4 気象災害被害防止対策の推進	●県担当者会議 ●市、JA担当者会議 農作物等被害発生前後の技術対策指導、関係機関との連絡体制	●早霜期間対応 ●晩霜期間対応 ●次年度担当者会議
	ハウス被害防止講習会、JA広報等情報提供	
5 農作業安全対策の徹底	●注意喚起 講習会等による注意喚起・講習会	●注意喚起 ●研修会 ●広報
6 意欲ある経営体の確保育成 (農業経営・就農支援センター)	●掘り起こし 伴走支援・スペシャリスト派遣	●掘り起こし ●掘り起こし
7 新規就農者の経営安定に向けた支援	●検討会 ●研修会 ●研修会 ●研修会 ●研修会 タブレットを活用した巡回指導等、経営相談	●検討会
8 農業青年組織活動の活性化	組織活動支援・3組織合同会議(通年) ●合同行事 ●実績発表 実績発表支援	
9 GAPの普及推進	●トマトGAP認証審査 ●果樹GAP認証審査 管理基準書に基づくGAP指導	
10 農薬適正使用の推進	農薬適正使用の推進 ●説明会等の実績調査 ●説明会等の実績調査 ●説明会等の実績調査	
11 鳥獣被害防止対策の推進	●注意喚起 ●高崎市連絡会議 ●アンケート現状把握 各種講習会等による情報提供	●猟友会・捕獲隊意見交換会

支援事項 【支援対象】	評価指標		担当
	成果指標	活動指標	
1 集落営農組織等の運営支援 【(農)たかさき、(農)あらなみ、(農)浜川、(農)くりさき、(農)はぐくみ、(農)いそべファーム、(農)小日向、ふるや集落営農組合、鷺宮集落営農組合】	(農)たかさき組織ビジョン作成 1 新規構成員確保人数 2名	運営支援 10回 巡回指導 15回 栽培情報提供 5回	熊川 佐藤謙
2 米麦の品質向上 (1) 水稻の品質向上 【水稻生産者】	米1等比率 59%以上 (5年平均 58.6%) 特別栽培米基準(農薬・肥料)超過者数 0人	育苗講習会 6回 栽培講習会(特裁米、スマート技術含む) 8回 農産物認証審査委員会 2回 稲作情報提供(収穫適期、病虫害防除等) 5回 刈りしん調査 3回 化学肥料低減実証ほ設置[協同農業] 1箇所 栽培講習会(資料提供含む) 4回	佐藤謙
(2) 麦類の品質向上 【麦類生産者】	麦1等比率 16%以上 (5年平均 16.0%) Aランク比率 62%以上 (5年平均 61.1%)	麦作情報提供(収穫適期、赤かび病防除等) 2回 刈りしん調査 3回 JAたかさき めぎせ麦1等!生育情報等HP更新(収穫適期、赤かび病防除等) 3回 Google mapによる麦生育状況の共有(JAたかさきTAC)・情報更新 2回	佐藤謙
3 優良種子(水稻、麦)の確保 【JAはぐくみ水稻採種圃部会】 【JAたかさき麦採種生産者】	水稻種子契約数量達成率 100% 麦種子契約数量達成率 100%	栽培情報提供 2回 栽培管理・収穫適期指導 5回 栽培における検査 5回	佐藤謙
4 コンニャクの産地維持 【高崎市倉渕地区コンニャク栽培者】 【藤岡地区こんにゃく研究部会】 【上野村コンニャク栽培者】 【神流町農業研究会】	コンニャク栽培面積 12.5→12.5ha (倉渕・藤岡・上野・神流)	栽培管理情報提供 4回 神流町農業研究会現地研修会 1回 複合経営実施農家調査 2回 土壌消毒環境調査 2回 新病害発生状況調査 2回	熊川 湯浅克
5 優良堆肥生産の推進 【畜産農家】	酪農堆肥特殊肥料登録に向けた働きかけ戸数 1戸 堆肥リスト作成新規登録戸数 1戸	特殊肥料説明会 3回 堆肥分析戸数 10戸 堆肥分析農家に対するリスト登録の働きかけ 5回	横堀 小澤

<p>6 良質 WCS 用イネの安定生産とコントラクターの運営強化</p> <p>(1) 稲 WCS の高品質生産と利用推進 【高崎 WCS 用イネ栽培者】 【高崎 WCS 用イネ利用畜産農家】</p> <p>(2) WCS 用イネの作付推進 【甘楽富岡 WCS 用イネ栽培者】 【甘楽富岡 WCS 用イネ利用畜産農家】</p> <p>(3) コントラクターの運営強化 【高崎市農業公社】 【ツルタファーミング】</p>	<p>稲 WCS の品質に関するクレーム件数 0 件 新規利用畜産農家戸数 1 戸</p> <p>WCS 用イネ栽培面積 甘楽 31.3 → 34.9ha 富岡 11.8 → 10.6ha</p> <p>計画的収穫 100→100%</p>	<p>出穂期予測調査 1 回 稲こうじ病発生調査 1 回 稲こうじ病対策技術情報提供 2 回 雑草対策巡回指導 2 回 技術情報提供 2 回 イネ WCS 品質確認 3 回 新規利用農家 WCS 保管・給与指導及び嗜好性調査 2 回</p> <p>つきことか栽培適正実証ほ設置[協同農業] 1 箇所 技術情報提供 2 回 実証ほ現地検討会 1 回 サイレージ品質検討会 1 回 出穂期予測調査 1 回 稲こうじ病発生調査 1 回 稲こうじ病対策技術情報提供 1 回 タブレットを活用した栽培管理指導 3 回</p> <p>タブレットを活用した巡回指導 5 回</p> <p>運営会議の開催 1 回 収穫作業の巡回指導 5 回</p>	
<p>7 畜産農家の経営分析及び支援 【酪農家】 【和牛繁殖農家】</p>	<p>酪農家または和牛繁殖農家の経営分析戸数 1 戸</p>	<p>経営分析農家(重点支援対象者)の選定 1 戸 担い手支援スペシャリスト派遣 2 回 タブレットを活用した経営調査 5 回 分析結果情報提供 1 回 経営アンケート調査 1 回</p>	<p>横堀 小澤</p>
<p>8 和牛繁殖経営の安定支援 【渋川家畜市場出荷者(高崎・安中・藤岡・甘楽・富岡)】</p>	<p>平均単価以上割合 【高崎・安中】 39→45% 【藤岡】 54→55% 【甘楽・富岡】 49→50%</p>	<p>育種価情報提供 34 戸 飼養管理技術情報提供 1 回</p>	<p>横堀 小澤</p>
<p>関連事業名：</p>			

年間スケジュール

支援事項	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 集落営農組織等の運営支援	<p>【法人たかさき】</p> <p>●理事会 ●総会</p> <p>●理事会</p> <p>●理事会 ●理事会 ●理事会</p> <p>← 組織検討 →</p> <p>【他法人】</p> <p>← 巡回指導 →</p> <p>【ふるや集落営農組合】</p> <p>●総会</p> <p>← 巡回指導 →</p>											
2 米麦の品質向上 (1) 水稻の品質向上	<p>●育苗講習会</p> <p>●中期栽培講習会 ●成熟期予測情報提供 ●特別栽培米講習会</p> <p>← 実証ほ設置・調査 →</p> <p>●特裁認証審査委員会 ●認証審査委員会</p>											
(2) 麦類の品質向上	<p>●出穂期調査 ●成熟期予測情報提供 ●前期栽培講習会 ●中期栽培講習会</p> <p>●麦作情報(赤かび病防除)</p> <p>●麦作情報(追肥)</p> <p>JAたかさき “めざせ麦1等” 情報提供</p> <p>●赤かび病防除 ●適期収穫 ●追肥</p>											
3 優良種子(水稻、麦)の確保	<p>【麦】</p> <p>●ほ場検査 ●ほ場検査 ●生産物検査 ●ほ場巡回</p> <p>【水稻】</p> <p>●ほ場巡回 ●ほ場検査 ●ほ場検査</p>											
4 コンニャクの産地維持	<p>●経営・栽培等講習会</p> <p>●神流町農業研究会現地研修会</p> <p>← 栽培管理情報提供 →</p> <p>●土壌消毒環境調査</p> <p>← 複合経営実施農家調査 →</p>											
5 優良堆肥生産の推進	<p>●特殊肥料説明会</p> <p>← 堆肥分析及び登録に向けた働きかけ →</p>											
6 良質WCS用イネの安定生産とコントラクターの運営強化	<p>●出穂調査 ●雑草指導 ●現地検討 ●情報提供 ●品質検分</p> <p>← 育苗・栽培管理等の巡回指導 →</p>											
7 畜産農家の経営分析及び支援	<p>●農家選定 ●SP派遣 ●SP派遣 ●情報提供</p> <p>← 経営調査・巡回・状況確認及びアンケート調査 →</p>											
8 和牛繁殖経営の安定支援	<p>●情報整理 ●情報提供</p> <p>← 育種価情報提供 →</p>											

支援事項 【支援対象】	評価指標		担当
	成果指標	活動指標	
1 関係機関と連携した就農支援体制の強化 【高崎市、安中市、JAたかさき、JAはぐくみ、JA碓氷安中】	新規就農者(45歳未満)数 10人 (雇用就農除く) 認定新規就農者 5人 就農相談マニュアル作成 1 受入農家リスト作成 1 家族経営協定新規締結戸数 2人	就農相談の実施 60回 (タブレットを活用した就農相談 30回) 担い手担当者会議 3回 営農計画作成支援 10回 家族経営協定の推進 6回	永井 佐藤匠 森田
2 農業・農村リーダー組織の活動支援 【高崎地区農業経営士協議会】 【西部農村生活アドバイザーの会】 【青年農業士】	新規就農者研修会参加者数 15人 経営事例研修会参加者数 15人	組織活動運営支援(経) 4回 農業基礎研修会の企画・運営(経・アド) 1回 組織活動運営支援(アド) 4回 経営事例研修会(経・アド) 2回	永井 森田
3 男女共同参画等活動支援 【若手女性農業者】 【西部農村女性会議】	講座延べ参加者数 20人 (女性) 男女共同参画フォーラム参加者数 60人 女性農業委員 7→7人 JA女性理事 9→9人	タブレットを活用した講座意見聴取・巡回 10回 女性講座の開催 3回 (仲間づくり1回、技術研修2回) 他講座等情報提供 3回 男女共同参画フォーラムの開催 1回 女性会議の活動運営支援 6回 登用要請活動支援 2回	森田
4 経営管理能力の向上 【新規就農者】 【認定農業者】	複式農業簿記基礎講座出席率 85%以上 実践講座新規参加者数 2人 経営分析による経営改善着手戸数 3戸	複式農業簿記基礎講座(西部・藤岡・富岡地区合同開催) 2会場×7回 複式農業簿記実践講座 6回 実態調査、経営分析支援回数 2回	佐藤匠
関連事業名：女性農業者活動支援事業			

年間スケジュール

支援事項	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 関係機関と連携した就農支援体制の強化	<p style="text-align: center;">← 就農相談の実施・営農計画作成支援・家族経営協定の推進 →</p> <p>●担当者会議 (4月) ●担当者会議 (9月) ●担当者会議 (1月)</p>											
2 農業・農村リーダー組織の活動支援	<p style="text-align: center;">← 組織活動運営支援 →</p> <p>●農業基礎研修会 (7月) ●経営事例研修会 (10月)</p>											
3 男女共同参画等活動支援	<p>講座意見聴取巡回・情報提供 (4月~6月) 巡回情報提供 (9月~10月) 巡回情報提供 (11月~12月)</p> <p>●講座 (10月) ●講座 (11月) ●講座 (12月)</p> <p>●フォーラム (1月)</p> <p>登用要請活動 (11月~12月)</p>											
4 経営管理能力の向上	<p>●農業基礎研修会 (7月) ●実態調査 (8月)</p> <p>農業簿記実践講座 (9月~10月) 農業簿記基礎講座 (11月~12月)</p> <p>経営分析の実施 (4月~9月) 経営分析の実施 (10月~12月)</p>											

支援事項 【支援対象】	評価指標		担当
	成果指標	活動指標	
1 ウメの生産安定と労働力確保 (1) ウメの生産安定と品質向上 【管内5JAウメ部会】 (2) 産学官連携による労働力確保 【秋間梅林観光協会】 【高崎健康福祉大学】 (3) 農福連携による新たな働き手の確保と就労機会の創出 【就労継続支援A・B型事業所】 【JAはぐくみウメ部会】	販売量(3年平均) 442→450t 出荷選外品割合 10%以下 モモヒメヨコバイ防除実施率 70→75% 労働力サポート体制 0→1 農福連携マッチング農家戸数 0→2戸	各種栽培管理講習会 10回 ヨコバイ類防除実証ほ [植防協会] 1箇所 活動計画会議 2回 労働力確保検討会 2回 福祉事業所とのワークショップ 1回 生産者向け説明会 1回 事業所向け作業動画の作成 (マニュアル) 1	三ツ石 斎藤 小山
2 ナシの生産安定と高品質化 【JAはぐくみナシ部会】 【JAたかさきナシ部会】 【藤岡市園芸協会ナシ分科会】	温暖化に対応した優良品種の選定 0→1品種	優良品種講習会 3回 優良品種試食検討会 1回 アンケート実施 1回 地域適応性調査 3回	三ツ石 斎藤 小山
3 スモモ授粉樹適正管理の推進 【JAはぐくみはるなプラム部】	授粉樹適正管理農家戸数 0→10戸	栽培管理検討会 1回 防除講習会 1回	三ツ石 斎藤 小山
4 キウイフルーツ産地維持に向けた成木樹の樹勢強化と産地PR 【JA甘楽富岡キウイフルーツ生産部】 【ジャパンキウイ株式会社】	フルメット液剤導入農家戸数 10→20戸 適期収穫・出荷達成率 80%以上 産地PR実施組織数 1組織	果実肥大促進剤実証ほ [植防協会] 1箇所 栽培管理・せん定講習会 2回 重点農家指導 10回 産地PR活動 1回	三ツ石 小山 斎藤
5 有機オリーブ産地づくりの推進 【有機オリーブ栽培農家】	有機オリーブ栽培農家戸数 0→4戸	基礎栽培講習会 1回 病害虫対策講習会 1回 有機栽培講習会 2回 オリーブ有機協議会(仮)検討会 3回	三ツ石 小山 斎藤
6 新規ブドウ栽培者への支援 【管内ブドウ生産者】	シャインマスカット糖度予測 アプリ使用農家戸数 0→5戸	栽培管理講習会 1回 タブレットを活用した栽培管理指導 3回 糖度予測アプリ活用検討会 1回	三ツ石 斎藤 小山

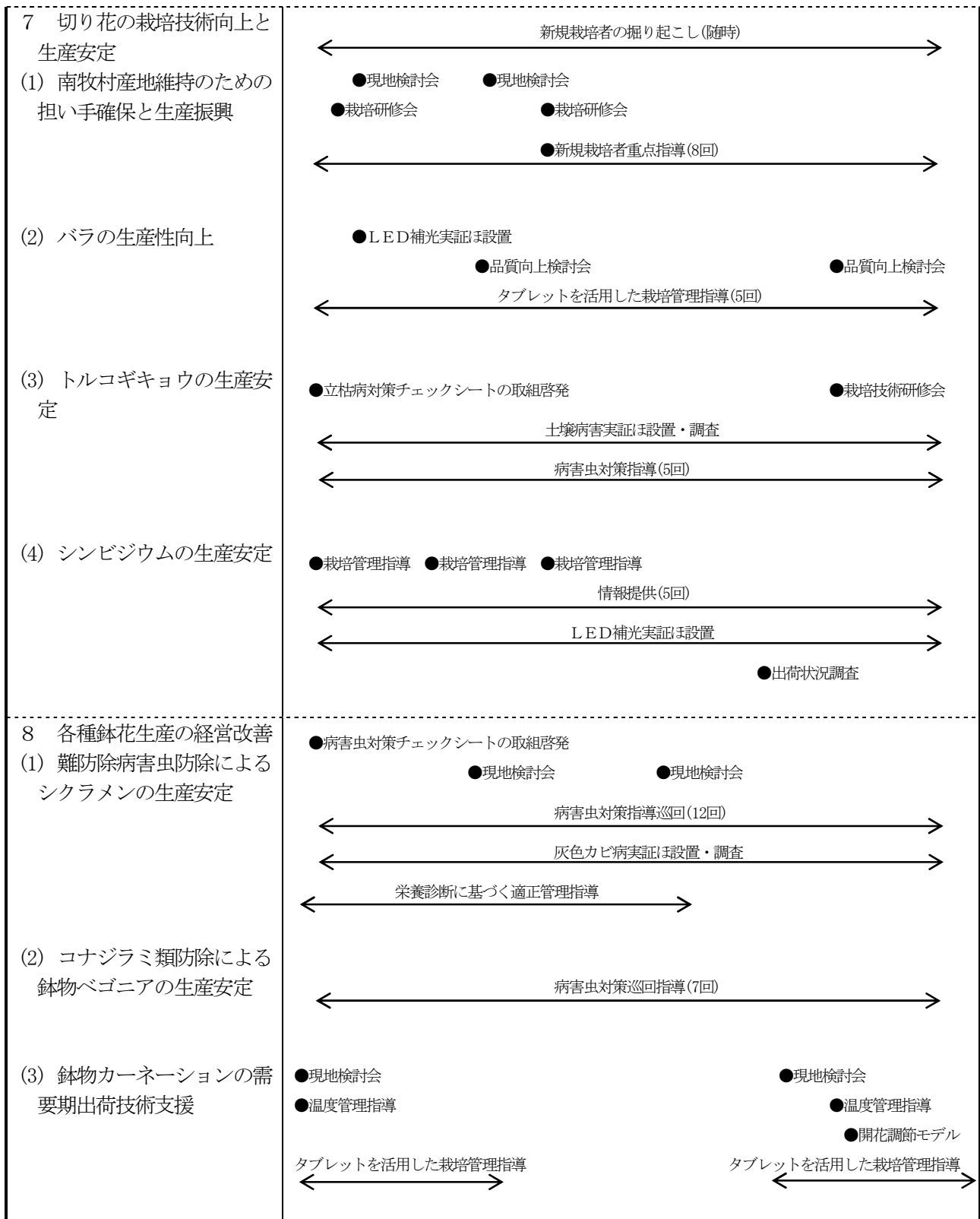
<p>7 切り花の栽培技術向上と生産安定</p> <p>(1) 南牧村産地維持のための担い手確保と生産振興 【南牧村花卉生産組合】</p> <p>(2) バラの生産性向上 【JA甘楽富岡バラ部会】</p> <p>(3) トルコギキョウの生産安定 【JA甘楽富岡切り花部会】</p> <p>(4) シンビジウムの生産安定 【藤岡市洋蘭組合】 【上州の蘭2011】</p>	<p>新規栽培者の確保 (R1～累計) 5→6名 新規導入品目 1品目</p> <p>出荷量 49→52千箱 A品率 70→80%</p> <p>土壌病害発生割合 30→15%以下</p> <p>需要期 (10～12月) 出荷量 43→50千本 A品率 80→85%</p>	<p>新規栽培者の掘り起こし 随時 栽培研修会・現地検討会等 4回 新規栽培者重点指導 8回</p> <p>LED補光増収技術実証ほ設置 [イノベーション] 1箇所 品質向上 (ボリューム増加) のための検討会 2回 タブレットを活用した環境制御指導 5回</p> <p>土壌病害実証ほ設置 [協同農業] 1箇所 栽培技術研修会 1回 立枯病対策チェックシートの取組啓発 5戸×1回 病害虫対策指導 5回</p> <p>LED補光苗生育促進実証ほ設置 [協同農業] 1箇所 品質向上 (花枯れ防止) のための栽培管理指導 3回 情報提供 5回 出荷状況調査 1回</p>	<p>宮下 中嶋</p>
<p>8 各種鉢花生産の経営改善</p> <p>(1) 難防除病害虫防除によるシクラメンの生産安定 【管内シクラメン生産者】</p> <p>(2) コナジラミ類防除による鉢物ベゴニアの生産安定 【管内鉢物ベゴニア生産者】</p>	<p>病害虫ロス率10%以下の農家戸数 2→4戸</p> <p>モデル農家のA品率向上 25→50%</p> <p>コナジラミ類被害による出荷ロス10%以下の農家戸数 1→3戸</p>	<p>アザミウマ類発生予察に基づく防除指導 3回 病害虫対策指導巡回 12回 病害虫対策チェックシートの取組啓発 8戸×1回 現地検討会 2回 灰色カビ病対策実証ほ設置 [植防協会] 1箇所</p> <p>栄養診断モデル農家設置 1箇所 栄養診断に基づく適正管理指導 10回</p> <p>病害虫対策巡回指導 7回 コナジラミ類発生予察に基づく防除指導 3回</p>	<p>中嶋 宮下</p>

(3) 鉢物カーネーションの需要期出荷技術支援 【管内鉢物カーネーション生産者】	鉢物カーネーション適期出荷	現地検討会	2回
	95%以上の農家戸数 1→2戸	温度管理指導	5回
		開花調節モデル	1箇所
		タブレットを活用した栽培管理指導	3回

関連事業名：ぐんま農業イノベーション推進事業、病虫害防除対策現地実証事業（植防協会）、GAPの普及推進

年間スケジュール

支援事項	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 ウメの生産安定と労働力確保 (1) ウメの生産安定と高品質化 (2) 産学官連携による労働力確保 (3) 農福連携による新たな働き手の確保と就労機会の創出	<p>各種栽培管理講習会(10回)</p> <p>ヨコパイ実証は設置・調査</p> <p>●活動計画会議(全体) ●活動計画会議(全体)</p> <p>●労働力確保検討会 ●労働力確保検討会</p> <p>●福祉事業者とのワークショップ</p> <p>●生産者向け説明会</p> <p>事業者向け作業動画(マニュアル)の作成</p>											
2 ナシの生産安定と高品質化	<p>●優良品種講習会 ●優良品種講習会 ●優良品種講習会</p> <p>●優良品種試食検討会、アンケート実施</p> <p>地域適応性調査(3回)</p>											
3 スモモ授粉樹適正管理の推進	<p>●栽培管理検討会 ●防除講習会</p>											
4 キウイフルーツ産地維持に向けた成木樹の樹勢強化と産地PR	<p>●栽培管理講習会 ●収穫前糖度検査(5回)</p> <p>●フルメット液剤実証は設置 ●目揃え会</p> <p>●せん定講習会</p> <p>重点農家指導(10回)・産地PR活動</p>											
5 有機オリーブ産地づくりの推進	<p>●基礎栽培講習会 ●病害虫対策講習会</p> <p>●有機栽培講習会 ●有機栽培講習会</p> <p>オリーブ有機協議会(仮)検討会(3回)</p>											
6 新規ブドウ栽培者への支援	<p>●栽培管理講習会 ●糖度予測アプリ活用検討会</p> <p>タブレットを活用した栽培管理指導(3回)</p>											



分類：専門、野菜指導係 課題番号：8

支援事項 【支援対象】	評価指標		担当
	成果指標	活動指標	
1 野菜推進体制の連携強化 【高崎市、安中市、JAたかさき、JAはぐくみ、JA碓氷安中】	合意形成（推進方向） 1	野菜振興プロジェクト会議 2回	川島 高橋 湯浅由 大塚
2 露地ナスの生産振興 【JAたかさき、JAはぐくみ、JA碓氷安中、管内露地ナス生産者】			川島 高橋 湯浅由 大塚
(1) 産地の拡大	栽培面積 12.7→14.0ha 3JA出荷量 972→1,070 t	露地ナスの明るい未来に向けて検討会(西部3普及) 2回 現地研修会 2回 実績検討会 1回	大塚 佐藤匠
(2) 若手農家の経営改善	経営改善取組農家戸数 5戸 生産工程管理に基づく栽培指導農家戸数 15戸	実証ほ設置（JAと連携） 整枝方法改善 1箇所 天敵製剤 1箇所 マルチ内への灌水チューブ設置 1箇所 現地研修会 3回 実績検討会 1回	
3 施設トマトの環境に配慮した栽培技術の推進 【JA たかさきトマト生産部会】	天敵製剤利用技術習得農家戸数 4戸 黄化葉巻病発生率 5→1%	減農薬、省力化の実証ほ [グリサポ] 4箇所 天敵製剤利用及び管理技術研修会 2回 管理技術指導 10回	川島 大塚
関連事業名：GAPの普及推進、グリーンな栽培体系への転換サポート、がんばる新農業人応援事業			

年間スケジュール

支援事項	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 野菜推進体制の連携強化	●野菜振興プロジェクト会議			●野菜振興プロジェクト会議								
2 露地ナスの生産拡大												
(1) 産地の拡大	●露地ナスの明るい未来検討会			●露地ナスの明るい未来検討会								
	●現地研修会			●現地研修会			●実績検討会					
(2) 若手農家の経営改善	●現地研修会			●現地研修会			●現地研修会			●実績検討会		
	← 実証ほ設置(3箇所) →											
3 施設トマトの環境に配慮した栽培技術の推進												
	●天敵製剤利用・管理技術研修会			●天敵製剤利用・管理技術研修会								
	← 減農薬、省力化の実証ほ設置(4箇所)、管理技術指導 →											

2 各普及関係事業計画

(1) 協同農業普及事業実施計画書

1 普及指導員の活動

(1) 調査研究（実証調査、実験研究、資料調査、実態調査等）の実施

課 題 名	調 査 研 究 内 容	参加普及指導員数
別紙に作成		19人
課題数 計 19課題		

(2) 実証ほの設置、実証モデル農業者等の設定

	課 題 名	実 証 内 容	設置箇所数
実証ほ	鶏糞利用による水稲栽培における肥料コスト低減の検討	水稲において基肥に鶏糞を施用し、生育状況に応じて化学肥料で追肥を行う栽培試験を行い、生育や収量を確認し、コスト低減の検討を行う。	1箇所
	コンニャク栽培における堆肥活用によるコスト低減	発酵鶏糞を組み合わせた施肥により化成肥料を削減するとともに経済性を試算し、低コスト栽培を推進するための資とする。	1箇所
	水不足条件下での土壌改良資材の効果と高糖分高消化性イネの収量性確認	リン酸吸収を促進する土壌改良資材の活用と高糖分高消化性WCS用イネの収量性を確認し、既存の晩生品種（モグモグあおば）による慣行栽培との比較調査を実施する。	1箇所
	クビアカツヤカミキリ産卵後の樹体洗浄による幼虫食入防止技術の検討	栃木県が開発した紫外線（UVA）照射による卵検出技術を活用し、高圧洗浄機を用いた樹体洗浄の物理的な卵の洗い落としによる幼虫食入防止効果を検討する。	1箇所
	シンビジウム栽培におけるLED補光による苗の生育促進効果の検証	シンビジウムは、苗の充実状態が切り花品質および収量に与える影響が大きいいため、秋冬期にLED灯で補光し、寡日照期の苗の生育促進効果を検証する。	1箇所
	トルコギキョウ栽培における低濃度エタノール土壌還元消毒による土壌病害防除効果の検証	トルコギキョウ立枯病の対策として、従来の消毒方法よりも深い層まで処理することができ、また環境負荷の低い低濃度エタノールを用いた土壌還元消毒によるトルコギキョウ立枯病の防除効果について検証する。	1箇所
	県育成イチゴ新品種の特性調査（育苗期）証	農業技術センターで開発されたイチゴ新品種「RG1」、「RG3」について、現地での栽培特性を把握するために実証ほを設置し、新品種導入に向けた指導の資とする。	1箇所

	課題数 計 7 課題		
実証モデル農業者等	—		
	課題数 計 1 課題		

注 実証ほ、実証モデル農業者等には、

- ① 重点指導の中で特に普及指導活動の拠点として解決策の実証を試みるために設置するもの
- ② 普及指導活動を通じて既にあげられた一定の成果を周囲に波及させるために設置するものの両方を含む。また、個別農業者のほか、法人、集落も含む。

(3) 農業者に対する講習会・研修会の開催

	対 象	講習会・研修会の名称	主 要 な 内 容	開催回数	延人数
講 習 会	認定農業者・新規就農者等	複式簿記基礎講座	伝票利用による複式農業簿記の記帳方法	14回	140人
		複式簿記実践講座	システムを活用した簿記記帳の実践	6回	20人
	農業機械士会	農作業安全講習会	大型トラクター、作業機等の取扱い	2回	20人
	米麦栽培農家 (集落営農組織含む)	水稻・麦の栽培講習会	肥培管理、病虫害防除、適期収穫等	18回	600人
	野菜生産農家	野菜栽培講習会	品種、肥培管理、病虫害防除、土づくり、農薬適正使用等	50回	1,000人
	花き栽培農家	花き栽培・出荷講習会	肥培管理、病虫害防除、栄養診断、流通販売、新技術等	20回	245人
	果樹栽培農家	果樹栽培講習会	肥培・着果管理、病虫害防除、剪定等	100回	2,000人
	畜産農家	家畜飼養管理・飼料作物講習会	飼養管理、良質飼料生産、経営診断等	2回	20人
	コンニャク・タラノメ栽培農家	コンニャク・タラノメ栽培講習会	種芋選別、病虫害防除、土づくり等	8回	80人
			計	計	
			220回	4,125人	
研 修 会	イチゴ栽培農家	イチゴ研修会	輸出の取組、栽培管理等	5回	30人
	コンニャク栽培農家	こんにゃく冬期研修会	事例発表、栽培管理等	1回	20人
	認定農業者	農業経営研修会	税務管理等に関する研修会	1回	20人
			計	計	
			7回	70人	

注 パソコンを用いた講習会・研修会（簿記関連、経営診断関連、インターネット活用、ホームページ作成等）については、その旨を記述する。

(4) 新規就農促進のための交流会、研修会等の開催

	対 象	交流会・研修会等の名称	主 要 な 内 容	開催回数	延人数
交流会	—	—	—	一回 計 一回	一人 計 一人
研修会	新規就農者・新規参入者	ウメ基礎・経営講習会	新規就農者(定年帰農を含む)を対象	2回	10人
	新規就農者・新規参入者	露地花き説明会	今後の露地切り花産地の維持・継続に向け、栽培志向者の確保を目的に現地説明会を開催	2回 計 4回	2人 計 12人
その他	—	—	—	一回 計 一回	一回 計 一回

注 就農後のフォローアップのものも含む。

(5) 農業改良普及推進協議会の開催

	開催箇所数	年間開催回数	備 考
高崎地区農業経営士協議会情報交換会	2箇所 計 2箇所	2回 計 2回	構成員：農業経営士、農村生活アドバイザー 協議事項：普及計画の検討及び普及事業推進、農業振興プランの検討
高崎・安中農業振興会議	1箇所 計 1箇所	2回 計 2回	構成員：市農政主務課、農協営農担当課職員等 協議事項：市農業振興事業計画及び推進、地域農業振興等の検討

注1 協議会の範囲が上記以外の場合欄外に注記すること。

注2 備考の欄には、主な構成員、主な協議事項等について記入。

(6) 産休等改良普及員代替職員の設置数 — 人

(7) 普及情報協力者の設置

区 分	設置人数	備 考
1. 普及課題収集者		
農業関係	32人	うち、農業経営士17人 青年農業士15人
生活関係	11人	うち、農村生活アドバイザー11人
その他課題		

2. その他情報収集者 (課題収集者以外)	7人	うち、気象災害情報農家7人

注1 普及課題収集者とは、日頃より普及課題となりうるような情報を提供してくれる人をいう。

2 その他情報収集者とは、気象災害情報、新規就農情報、地域の話題等の情報を提供してくれる人をいう。

3 備考には、内数として農業経営士、青年農業士、農村生活アドバイザーの数を記入すること。

(8) 普及指導協力委員の活動

区 分	委嘱人数
農 業 者	28人
民間（農業関連）	人
民間（農業関連以外）	人

(別 紙)

普及指導員調査研究活動計画総括表

所属名 西部農業事務所担い手・園芸課

普及指導員名	課 題 名	内容の要約（目的及び方法）
柳澤 幸雄	普及指導計画の重点3課題解決に関する効果的な進行管理	重点3課題の効率的かつ効果的な進捗管理を行い、課題の年度別成果目標の達成に向けた進行管理を行う。
古屋 修	スタートアップ企業との連携による農業新技術の実証	農業分野の課題解決に資するスタートアップ企業と産地とのマッチングに取り組み、革新的農業技術及び資材又はサービスの現地実証を行う。
熊川 保弘	持続可能なコンニャク栽培技術の定着	コンニャク生産における環境負荷及び資材費の低減を図るため、ほ場越冬栽培の普及拡大を図るとともに、発酵鶏糞堆肥を活用した栽培実証を行う。
横堀 卓人	微生物資材を活用した畑地でのWCS用イネ水稻直播栽培実証	微生物資材を活用して、畑地で高糖分高消化性品種「つきことか」の栽培適性実証。また既存品種との生育・収量比較を実施する。水不足解消と作付面積の増加、適期収穫に繋げる。
湯浅 克月	コンニャク経営者所得向上に向けた複合作物導入の検討	コンニャク農家の経営診断を実施することで、現状や問題点を把握するとともに、「コンニャク＋野菜複合経営」のシミュレーションモデルを策定し、研修会を通じて提案する。
小澤 蓮晟	堆肥施用時における生育及び収量比較栽培実証	肥料や資材価格が高騰する中、堆肥を施用することによる有機質の補給及び化学肥料の減少によるコスト削減が可能となることから、実証ほを設置して生育及び収量の比較を行う。
佐藤 謙一	鶏糞利用による水稻栽培における肥料コスト低減の検討	水稻の基肥に鶏糞を施用し、生育状況に応じて化学肥料で追肥を行う栽培試験を行い、生育や収量を確認し、コスト低減の検討を行う。
永井 三重子	新規就農希望者に対する就農支援体制の強化	新規就農希望者の受入体制の強化を図るため、市担当課や農業委員会事務局、JA等の関係機関で就農サポート体制の一層の連携強化を図るため、就農支援ガイドブックの作成や農業研修受入農家リスト化の整備を進める。
佐藤 匠	新規就農者から基幹農家までの経営発展段階に応じた経営管理力強化支援	簿記記帳実施への誘導から、簿記記帳による経営評価と経営改善実践までの段階に応じた連続支援により、個別農家の経営管理力強化を図る。県の調査研究活動で作成した「財務分析シート」を活用し、法人経営体を含めた経営改善支援を行う。
森田 愛美	若手女性農業者の仲間作りと活動支援	若手女性農業者を対象に女性農業者の資質向上を図るべく、全3回の生き生き女性あぐり講座を開催する。参加者同士で交流を深め、横のつながりを強化する。

普及指導員名	課 題 名	内容の要約（目的及び方法）
三ツ石 昌幸	クビアカツヤカミキリ産卵後の樹体洗浄による幼虫食入防止技術の検討	栃木県が開発した紫外線（UVA）照射による卵検出技術を活用し、高圧洗浄機を用いた樹体洗浄の物理的な卵の洗い落としによる幼虫食入防止効果を検討する。
斎藤 拓真	ウメ新害虫「モモヒメヨコバイ」に対する防除対策	管内ウメ園を中心に被害が拡大している新害虫「モモヒメヨコバイ」の発生消長及び新たに登録拡大された薬剤の効果を確認し、今後の防除対策指導に活用する。
宮下 直矢	トルコギキョウ栽培における低濃度エタノール土壌還元消毒による土壌病害防除効果の検証	トルコギキョウ立枯病の対策として、従来の消毒方法よりも深い層まで処理することができ、また環境負荷の低い低濃度エタノールを用いた土壌還元消毒によるトルコギキョウ立枯病の防除効果について検証する。
中嶋 俊介	ミギワ 10 フロアブル剤処理によるシクラメン灰色かび病の防除効果の検証	シクラメンでは秋に灰色かび病が発生しやすく、品質に影響を及ぼすため、防除対策が必要である。そこで、登録拡大された新規作用機構（DHODH 阻害）を持つ薬剤散布試験を実施し、今後の防除指導へと繋げる。
小山 千明	フルメット液剤処理によるキウイフルーツの生産安定	フルメット液剤実証ほを設置し、果実肥大促進効果と処理作業の効率化を検証する。結果は、講習会等の指導資料として活用する。
川島 正俊	「野菜王国・ぐんま」推進計画における重点推進品目と地域推進品目の振興	「野菜王国・ぐんま」推進計画における重点推進品目と地域推進品目について、関係機関と連携し、計画的かつ効率的に振興を行う。
高橋 あかね	「野菜王国・ぐんま」推進計画における重点推進品目である「ナス」および「ネギ類」の生産安定	「野菜王国・ぐんま」推進計画における重点推進品目である「ナス」および「ネギ（上州ねぎ・下仁田ネギ）」の生産安定のため、栽培技術向上、生理障害対策、省力化等の支援を行う。
湯浅 由美	露地ナスの効率的な生産に向けた誘引枝数の検討	露地ナスの実証ほを設置し、坪当たり誘引枝数を変えて作業性や収量性を比較することで、効率的な生産に向けた整枝方法の検討を行う。
大塚 将悟	天敵昆虫、コナジラミ忌避剤入、ドローンでの遮光資材散布によるグリーンな栽培体系の検証	天敵昆虫（タバコカスミカメムシ）とコナジラミ忌避剤の併用により、化学農薬使用量を低減したグリーンな栽培体系を確立するとともに、ドローンを利用した遮光資材散布による省力化、生産性向上技術について検証する。

(2) がんばる新農業人応援事業実施計画書

1 事業実施の基本方針

西部農業事務所管内では、毎年多くの新規就農者が営農を開始している。しかし、経営を安定させ軌道に乗せるには、農業技術の習得を始め、営農地域への溶け込み、資金の確保など課題も多い。

そこで、高崎市及び安中市において、市担当課や農業委員会事務局、JA等の関係機関が連携し、就農支援体制を強化する。また、新規就農者の農業技術、経営能力の向上を図るため、農業基礎研修会を開催する。さらに経営の早期健全化と地域での定着を促進するため、フォローアップ支援体制を強化し重点的支援に取り組むとともに、農業青年組織への加入を呼びかけるなど、同年代のネットワーク化を推進する。

◎目指すべき姿

取組事項	現 状【令和5年度】	目指すべき姿【令和6年度】
就農支援体制の充実強化	<ul style="list-style-type: none"> ・数多い就農相談の要望に対し、関係機関が連携して対応している。 ・産地、関係機関が連携した就農支援体制を3組織で整備しているが、くらぶち草の会以外は十分に機能していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・産地、関係機関が連携した就農希望者受入体制の強化を図り、新規就農希望者を支援する。
新規就農者の定着支援	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者を対象とした農業基礎研修会、農業複式簿記基礎講座を開催し、農業経営の早期安定を支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普及指導員3名程度の地域班（フォローアップチーム）を編成し、毎月、巡回日を決めてより重点的な巡回相談を展開する。 ・栽培技術と経営管理能力の向上による経営の早期安定を支援するとともに、生産者同士のネットワーク化を推進する。

2 事業内容

(1) データを活用した新規就農者に対する経営確立支援

【基本的な考え方】

・営農支援システムの活用と現状のフォローアップ活動を見直し、複数名のチームによる巡回相談、ヒヤリング補助シートなどの活用、経営指標や栽培歴、作型表のデータベース化など、専門外担当がより指導しやすい体制を整備することで、対象者の栽培技術と経営管理能力の向上による経営の早期安定を支援する。

・タブレットの活用など、ビジュアルで訴求しやすい手法により、病虫害診断や技術指導、経営分析を効率的に実施する。

① 重点指導対象農家等への個別支援

対象	対象人数
重点指導対象農家	45人
うち、フォローアップ対象農家	15人

実績報告時、別に定める様式による名簿を添付する。

② 新規就農者向け研修会・講座等の開催計画

開催時期	対象人数	活動内容
R6年10月	20人程度	農業基礎講座 就農3年目までの新規就農者研修者他 先輩農業者の経営を学ぶ
11月	10人程度	農業機械安全使用（農林大学校）
11月～12月	10人程度	県外視察研修会 (女性農業者活動支援事業と合同開催)

(2) 総合的な就農支援体制の強化

<p>【基本的な考え方】 新規就農希望者の受入体制を強化するため、高崎市、安中市において市担当課や農業委員会事務局、JA等の関係機関をメンバーとした担い手担当者会議を開催し、就農相談マニュアル（西部版）や農業研修受入農家リストの整備を進める。また、新規就農者の経営状況について情報共有を図るとともに、具体的な就農支援策を検討し、円滑な事業の推進を図る。 特にくらぶち草の会については、重点支援対象に位置づけ、産地組織と関係機関の担い手担当者による会議を開催し、就農支援体制の強化を図る。</p>
--

総合的な就農支援体制の強化に係る会議、研修会等の開催計画

開催時期	構成員・人数	検討内容
随時(3回)	担い手担当者会議 (高崎市・安中市)・27人	・就農相談体制の確認 ・研修受入先リストの作成 ・就農相談マニュアル（西部版）の作成
11月、2月	くらぶち草の会、 高崎市・7人	・新規就農希望者の受入体制について

(3) 新規就農者同士や地域農業者とのネットワーク化

<p>【基本的な考え方】 新規就農者を対象とした交流会を開催し、地域への溶け込みを支援する。また、農業青年クラブへの加入を推進する。</p>
--

交流会等の開催計画

開催時期	対象人数	活動内容
R6年10月	20人程度	農業基礎研修会の第1回講座として、先輩農業者の経営を学ぶ研修を実施し、就農3年目までの新規就農者と農業経営士、青年農業士、農村生活アドバイザーとの交流会を開催する。

(3) 女性農業者活動支援事業実施計画

1 事業実施方針

農業・農村の多様な担い手として農業経営や農産加工に携わり、積極的に経営参画する女性農業者が増えているが、その一方で、農業の補助的な役割を担っているという意識も根強く、職業人としての自立意識を醸成することが重要な課題となっている。

また、西部管内は面積が広く、その中で女性農業者は点在しているため、女性農業者同士が交流する機会が少なく、特に若い世代でその傾向は顕著である。

そこで、女性農業者の主体的な経営参画や男女共同参画推進の環境づくりを目指し、女性農業者同士の交流の場や学習の機会を設け、女性ネットワーク活動の促進と若手女性農業者のリーダー育成に取り組む。

2 男女共同参画推進目標

目標項目	現 状 (令和5年度)	目 標 (令和6年度)	実績値 (年度)	備 考
・家族経営協定締結数	151戸	151戸	戸	
・女性(共同)認定農業者数	18人	20人	人	
・農村女性起業数	33起業	33起業	起業	

注1) 家族経営協定締結数、女性(共同)認定農業者数、農村女性起業数、市町村ビジョンの策定目標値を設定し、その他男女共同参画推進に係る目標項目については地域の実情に応じ設定のこと。

注2) 各数値の基準日は、3月末日とする。ただし、それ以外の基準日を用いる場合は、数値の下欄に基準年月日を記載すること。

3 事業実施計画

(1) 女性農業者等の経営参画・社会参画の促進及び男女共同参画推進の環境づくり

ア 男女共同参画推進対策検討会の開催計画

開催時期	構成員とその所属 (専門分野)	検 討 会 内 容	備 考
5～12月 の間に3回	西部農村女性会議役員(各組織代表) JAたかさき女性会長 JAはぐくみ女性組織連絡協議会長 JA碓氷安中女性部長 高崎地区生活研究グループ連絡協議会長 西部農村アドバイザーの会長 管内女性農業委員 高崎市農林課及び農業委員会事務局 安中市農林課及び農業委員会事務局 西部普及指導課 職員	令和6年度の活動検討 ・フォーラムの開催について ・農業委員・JA理事等への女性登 用要請活動について	

注1) 先進地視察については、視察先を備考欄に記載のこと。

イ 女性の社会参画、経営参画促進のための研修会等の開催計画

開催時期	対象者・人数 (うち男性数)	講師とその所属 (専門分野)	内 容	備 考
2月	西部農村女性会議、若手女性農業者、農業経営士、青年農業士、認定農業者等 60人(うち男性10人)	講師は役員会で検討。 農村女性会議で検討した女性農業者が興味ある分野	西部地区農村女性フォーラム (講演会内容は役員会で検討)	
1月～2月	若手女性農業者 5人以上	管内女性農業者	第3回生き生き女性めぐり講座 (調理講習会)	

ウ 意見交換会の実施計画

開催時期	対象者・人数	内 容	備 考

エ 異業種女性・都市住民等との交流会実施計画

開催時期	対象者・人数 (うち男性数)	内 容	備 考

(2) 次代へ向けた若手女性農業者育成・対策

ア 若手女性農業者等養成講座の開催計画

開催時期	対象者・人数 (うち男性数)	内 容	備 考
10月～2月	管内女性農業者 5名以上(うち男性0人)	第1回生き生き女性めぐり講座 (メディア戦略研修)	
10月～2月	管内女性農業者、新規就農者等 10名以上(うち男性5人)	第2回生き生き女性めぐり講座 (先進農家県外視察研修)	

イ 若手女性農業者と地域リーダーとの意見交換会・交流会の開催計画

開催時期	参加者・人数 (うち男性数)	内 容	備 考

(4) 気象災害対策強化普及推進 事業計画書

1 事業実施の基本方針

近年、猛暑の影響で果肉先行や果実の褐変症状など栽培が難しく、3月、4月は凍霜害、降ひょう被害など異常気象に見舞われるなど、果樹栽培への影響が懸念されています。管内の果樹栽培の特徴は、多品目多品種を導入し、消費者ニーズへの対応や所得増大を目的に収穫期間の延長・販路拡充を目指しています。しかし、果樹では気候変動に対して作期の調節の難しさや気温の上昇、度重なる気象災害など非常に大きなリスクを背負っています。そこで、榛名地域でのナシ、スモモ、ウメの気象災害と高温が果実生産に及ぼす影響について、効果的な防止対策に地域全体で取組み、普及の資とします。

2 目標及び導入しようとする新技術

導入しようとする気象災害対策技術の普及率	現 状 令和5年	目 標 令和6年
果樹の樹上散水による凍霜害防止対策導入農家	2戸	3戸
ウメ群馬U6号「ゆみまる」の収穫適期収穫判定	1箇所	予測式導入2箇所

3 事業内容

(1) 気象災害対策技術の普及推進

ア 技術対策検討会

実施時期	対象人数	対象地域 (作物)	検 討 内 容
4月～6月	80人	榛名 (ナシ、スモモ)	摘蕾・摘果栽培講習会、対象農家で樹上散水装置設置後の比較調査、防霜ファンの導入推進
5月～6月	20人	榛名(ウメ)	気象条件に適した予測式を用いた収穫期との関係

イ 先進地調査等の実施

実施時期	対象地域 (作物)	調 査 内 容
随時	榛名(ナシ、スモモ、ウメ)	県農業技術センター、農研機構果樹研究所情報交換会等 群馬用水機関との凍霜害比較調査及び果実調査、技術交換会等開催

ウ 現地実証ほ・調査ほの設置

実施時期	対象地域 (作物)	活 動 内 容
—	—	

※ 実証・調査ほを設置する場合には「協同農業普及事業実証ほ設置、実証モデル農業者設定要領」の別記様式により、計画書及び実績書を作成し提出すること。

(2) 技術研修会・講習会の開催

開催時期	対象人数	研 修 内 容
4月～9月	80人	生産部会への技術対策と関係機関との連携強化、広報掲載
10月～11月	3JA	栽培講習会や、主要会議等通して大雪被害対策を周知
11月～2月	50人	ナシ、スモモの樹上散水による凍霜害防止策の成果と費用対効果

(5) グリーンな栽培体系への転換サポート実施計画書

1 課題名

天敵昆虫、コナジラミ忌避剤入、ドローンでの遮光資材散布によるグリーンな栽培体系の検証
(3年計画の2年目)

2 目的

高崎市木部地区は、施設トマトの産地である。近年、タバココナジラミによる黄化葉巻病対策として防虫ネットや化学農薬を使用しているが、対策に苦慮している。また、夏季の高温によるトマトの生育不良が問題となっている。

そこで、天敵昆虫(タバコカスミカメムシ)とコナジラミ忌避剤の併用により、化学農薬使用量を低減したグリーンな栽培体系を確立するとともに、ドローンを利用した遮光資材散布による省力化、生産性向上技術について検証する。

3 設置場所 高崎市木部町

4 耕種概要

- (1) 供試作物 施設トマト
- (2) 品種 穂木：麗容、カレン 台木：マグネット、グランシールド
- (3) 作型 促成長期
 - ・定植期 8月下旬
 - ・収穫期 11月下旬～6月下旬
- (4) 試験期間 令和6年8月～令和7年3月
- (5) 管理方法 農家慣行

5 試験方法

- (1) 20a×4箇所 1連制(反復なし)
- (2) 試験内容

区名	内容
試験区	天敵・コナジラミ忌避剤導入+ドローンによる遮光剤および除去剤散布
対照区	天敵・コナジラミ忌避剤・遮光剤散布なし

6 調査項目

- (1) タバコカスミカメムシ定着、コナジラミ類発生数(8月～、2回/月)
- (2) 農薬散布回数
- (3) ドローンによる遮光剤及び除去剤散布量、時間
- (4) ハウス内温度
- (5) トマト生育・黄化葉巻病発生程度

7 現地検討会、講習会、研修会等の開催

- (1) 時期 令和5年実績検討会及び取り組み計画検討会 令和6年7月
天敵、忌避剤利用技術検討会 令和6年8月
令和6年実績検討会 令和7年8月
- (2) 回数 3回
- (3) 対象者 管内トマト生産者
- (4) 人数 20名

参考 1 令和 6 年度普及活動実証ほ等一覧

No.	課題名	事業名または実施主体	対象作物	担当者	箇所数
1	鶏糞利用による水稲栽培における肥料コスト低減の検討	協同農業普及事業	水稲	佐藤謙	1
2	水不足条件下での土壌改良資材の効果と高糖分高消化性イネの収量性確認	協同農業普及事業	飼料イネ	横堀	1
3	コンニャク栽培における化成肥料軽減によるコスト低減（2年目）	協同農業普及事業	コンニャク	湯浅	1
4	コンニャク栽培における化成農薬使用量の削減	グリーンな栽培体系への転換サポート事業	コンニャク	湯浅	1
5	クビアアカツヤカミキリ産卵後の樹体洗浄による幼虫食入防止技術の検討	協同農業普及事業	モモ	斎藤	1
6	ウメ新害虫「モモヒメヨコバイ」に対する防除対策（2年目）	病虫害防除対策現地実証事業	ウメ	斎藤	1
7	フルメット液剤によるキウイフルーツの品質向上技術	病虫害防除対策現地実証事業	キウイフルーツ	小山	1
8	トルコギキョウ栽培における低濃度エタノール土壌還元消毒による土壌病害防除効果の検証	協同農業普及事業	トルコギキョウ	宮下	1
9	シンビジウム栽培におけるLED補光による苗の生育促進効果の検証	協同農業普及事業	シンビジウム	宮下	1
10	LED補光による秋冬期のバラ増収技術の検討	ぐんま農業イノベーション推進事業	バラ	宮下	1
11	ミギワ10フロアブル剤処理によるシクラメン灰色かび病の防除効果の検証	病虫害防除対策現地実証事業	シクラメン	中嶋	1
12	天敵薬剤等の利用による化学農薬の使用量低減及び省力化	グリーンな栽培体系への転換サポート事業	トマト	大塚	1
13	県育成イチゴ新品種の特性調査（育苗期）	協同農業普及事業	イチゴ	大塚	1
14	BT剤によるチョウ目害虫の防除効果の検証	病虫害防除対策現地実証事業	コマツナ	高橋	1
15	主要農作物作況ほ 水稲	協同農業普及事業	イネ	佐藤謙	1
16	主要農作物作況ほ 麦	協同農業普及事業	ムギ	佐藤謙	1
17	主要農作物作況ほ コンニャク	協同農業普及事業	コンニャク	湯浅	2
18	ナン有望系統実証ほ	農業技術センター	ナシ	斎藤	2

○実証ほとは、その地域における新技術を現地導入する際に効果を実証するほ場（一般的な実証ほ）のほか、展示ほ（農業者に向けて栽培技術を確認してもらおうほ場）や試験ほ、作況ほ等も含む。

○協同農業普及事業、協同農業普及事業関連予算、県単事業、その他団体等予算等で設置・運用した実証ほの箇所数を記入する。

※「協同農業普及事業関連予算」：ぐんま新農業イノベーション支援、ジャパンフラワー強化プロジェクト推進、グリーンな栽培体系への転換サポート、中山間地農業推進対策等

※「県単事業」：気象災害対策強化普及推進事業、農業技術センター関連事業（適応性試験等）、耕畜連携・資源循環型農業推進事業、農業農村振興計画推進費、鳥獣害に強い集落づくり支援事業、農村整備関連事業等

※「その他団体等予算」：全国農業システム化研究会事業、米麦大豆振興協会現地実証ほ設置事業、JA中央会現地実証ほ設置事業、JA予算、病虫害防除対策現地実証事業（植物防疫協会）、協議会・研究会予算等

※上記には、報償費や需要費、使賃料等が伴わない予備試験的な実証ほも含む。

○実証ほの箇所数のカウント方法は、「品目」「技術体系」「実施箇所」等でカウントを行う。

※品種比較は一つの品目に対する実証と捉えカウントする。（同園地において違う品種を実証する場合は区別してカウントしない。）また、対照区と試験区は通常セットとして考えられるためこれらを一つのものとしてカウントする。

参考2 令和6年度GAP導入推進計画

OGAPの普及推進の基本方針

品目別チェックリストによるリスクの洗い出し研修会、管理基準書に基づくGAP指導等により、「認証レベル産地数を8→10産地」とする。

番号	第三者認証および取引先の認証取得レベルに相当する組織	組織名	構成農家数	GAP認証農家数	品目	GAP導入状況	令和5年度GAP導入実績	①取組の状況		②農場点検の合意		③農場点検履歴PDCaサイクルの実施		国際水準GAPの取組	いつ頃から取組始めたか	GAP導入報告時期	第三者認証等取得状況(GAI、GAP、イオンGAP)	現状の組織の状況(把握している範囲で記入してください。)	支援内容
								取組実行(7/年以上)(F1以上)	取組を待たず(7/未満)	合意済み(F2以上)(F1)	合意していない(F2以下)	実施済み(F3以上)(F2以下)	実施していない(F2以下)						
1		有限会社ファームクラブ	1		イチゴ・トマト・ミニトマト等	5	5	○	○	○	○	○	○	○	H23	H24	JGAP	・イチゴ輸出支援 ・生産工程管理に基づく栽培支援	
2		JAはぐくみ	54		露地ナス	3	3	○	○	○	○	○	○	○	H24	H25		・標準通り使用及び栽培管理に関するチェックポイントの活用普及 ・消費者情報提供し、消費者を因る(リスク洗い出し改善講習会)	
3		JA陸奥安中	63		露地ナス	3	3	○	○	○	○	○	○	○	H25	H26		・標準通り使用及び栽培管理に関するチェックポイントの活用普及 ・生産者に情報提供し、改善を因る(リスク洗い出し講習会)	
4		JAはぐくみ(法人はぐくみ)	33		麦類	3	3	○	○	○	○	○	○	○	H24	H27		・GAPの理解向上 ・チェックリストの配布・回収	
5		JA陸奥安中	100		ホウレンソウ	3	3	○	○	○	○	○	○	○	H27	H28		・標準通り使用及び栽培管理に関するチェック項目の啓発 ・生産者に情報提供し、改善を因る(リスク洗い出し改善講習会)	
6		山富士産業	1		ホウレンソウ	5	5	○	○	○	○	○	○	○	H27	H29	GLOBALGAP	・ノウハウでGLOBALGAP ・認証取得(H28.3)	
7		倉井いちご園	1		施設イチゴ	5	5	○	○	○	○	○	○	○	H30	H30	JGAP	・イチゴ輸出支援 ・生産工程管理に基づく栽培支援	
8		羽鳥治彦	1		小麦	3	3	○	○	○	○	○	○	○	H25	H30		・R4.12.26 JGAP更新審査認証取得 ・R5.12.15 JGAP更新審査認証取得	
9		(株)トマルみさと農場	1		採卵鶏	5	5	○	○	○	○	○	○	○	H30	H30	JGAP	・R4年でのJAたかき大規模種別組合解散 ・GAPの理解向上 ・チェックリストの配布・回収	
10		JAはぐくみ契約栽培ホウレンソウ	39		長ネギ	4	4	○	○	○	○	○	○	○	H24	R1		・グローバルGAP認証に準じた内容で工程管理を行い、販売出荷時の基準を遵守し取り回す	
11		ワタミアーム・豊洲農場	1		キャベツ、キウイモ、シヨウガ	5	5	○	○	○	○	○	○	○	H30	R1	JGAP	・豊洲産はキャベツ、ハウサイ、ダイコン、サニーレタス、グリーンリーフでJGAP認証取得(R1.6.21)更新なし	
12		株式会社トマル 開野農場	1		採卵鶏・鶏卵	5	5	○	○	○	○	○	○	○	R1	R1	JGAP	・日本GAP協会HPIに難航なく、更新はしていない模様	
13		STRAWBERRY Garden TOKIWA	1		施設イチゴ	3	3	○	○	○	○	○	○	○	R2	R2		・R2.12.タイ向け輸出ごん急施設衛生検査認証済み ・R3.12.タイ向け輸出ごん急施設衛生検査認証済み	
14		しずの菊園(高崎市)	1		施設イチゴ	3	3	○	○	○	○	○	○	○	R2	R2		・R2.12.タイ向け輸出ごん急施設衛生検査認証済み ・R3.12.タイ向け輸出ごん急施設衛生検査認証済み	
15		のぶさわ農園(高崎市)	1		施設イチゴ	3	3	○	○	○	○	○	○	○	R2	R2		・R2.12.タイ向け輸出ごん急施設衛生検査認証済み ・R3.12.タイ向け輸出ごん急施設衛生検査認証済み	
15		しみず農園(安中市)	1		施設イチゴ	1	1	○	○	○	○	○	○	○	R2	R2		・R2.12.タイ向け輸出ごん急施設衛生検査認証済み ・R3.12.タイ向け輸出ごん急施設衛生検査認証済み	
15		西山農園(安中市)	1		施設イチゴ	1	1	○	○	○	○	○	○	○	R2	R2		・R2.12.タイ向け輸出ごん急施設衛生検査認証済み ・R3.12.タイ向け輸出ごん急施設衛生検査認証済み	
16	○	大久保農園	1		施設トマト	3	3	○	○	○	○	○	○	○	R2	R2		・第三者認証GAPに向けた取得支援	
17		柳澤今朝孝(安中市)	1		葉菜類	3	3	○	○	○	○	○	○	○	H30	R2		・第三者認証は取得しないが、認証GAP取得レベルの産地として、R4年度及び計画の取組目標でかつ	
18		JA陸奥安中(いそべファーム)	8		小麦	2	2	○	○	○	○	○	○	○	H26	R3		・GAPの理解向上 ・チェックリストの配布・回収	
19		JAたかきトマト部会	14		トマト	2	2	○	○	○	○	○	○	○	H23			・標準通り使用及び栽培管理に関するチェックポイントの活用啓発 ・JGAP管理基準に基づいた巡回指導等	

参考2 令和6年度GAP導入推進計画

OGAPの普及推進の基本方針
 品目別チャックリストによるリスクの洗い出し研修会、管理基準書に基づくGAP指導等により、「認証レベル産地数を8→10産地」とする。

番号	第三者認証および取り戻し認証取得し得る組織	組織名	GAP実践農家数	GAP実践農家数	品目	GAP導入状況	令和5年度GAP導入実績	①取組の状況		②農場点検の合意		③農場点検済PDOCAサイクルの実施		国際水準GAPの取組	いつ頃から取組始めたか	GAP導入報告時期	第三者認証等取得状況(GAP、JGAP、PG)	現在の組織の状況(把握している範囲で記入してください。)	支援内容
								取組実行(70%以上)	計画を後(70%以上)	合意済み(F2以上)	合意済み(F1)	実施済み(F2以上)	実施済み(F1以下)						
20		JAはぐくみ梅部会	383		ウメ	2	2	○	○	○	○	○		H24				・チャックリストの配布 ・集計後の改善指導	
21		JAたかさき(法人たかさき認定農業者)	300		麦類	2	2	○	○	○	○	○		H25				・GAPの理解向上 ・チャックリストの配布・回収 ・GAPを活用した栽培管理指導	
22		JAたかさき	23		露地ナス	2	2	○	○	○	○	○		H26				・標準通り使用及び栽培管理に関するチャックリストの活用指導 ・チャックリストの配布 ・集計後の改善指導	
23		JA確水安中	50		ウメ	2	2	○	○	○	○	○		H26				・集計後の改善指導	
24		JA確水安中	151		オクラ、ニガウリ、ズッキーニ、フチガエール、ブロッコリー、ロマネスコ、インゲン、タマネギ	2	2	○	○	○	○	○		H27				・標準通り使用及び栽培管理に関するリスク洗い出し改善講習会 ・生産者に情報提供し、改善を図る	
25		国府野菜本舗	1		国分にんじん、ハクサイ、タマネギ その他	2	2	○	○	○	○	○		R2				・R2 JGAP指導員資格取得	
26		特定非営利活動法人ソーシャルハウス	1		リーフレタス、ペピーローフ、からし菜、ターサイ、ルッコラ、ロマネスコ	5	5	○	○	○	○	○		R2			JGAP	・R2 JGAP認証取得 ・R4 JGAP更新無し	
27		株式会社三ツアーム	1		施設トマト	1	1	○	○	○	○	○		H28				・JGAP認証取得に向けた巡回指導	
28		株式会社 COPAN	1		サツマイモ	1	2	○	○	○	○	○		R5				・R5 JGAP指導員資格取得	
29	○	やあさ農園	1		ウメ	1	3	○	○	○	○	○		R5				・有価農業実践者 ・R6/2/27.28 GH研修会開催	
30		JA確水安中販売部会	22		多種の野菜類	1	1	○	○	○	○	○		R6				・GAPを活用した栽培管理指導 ・JA全農くんまでチャックリスト(案)作成	

GAP導入チャックリスト(令和3年度から)

- 1: 取組を行う予定の組織
- 2: 農場点検済導入の合意形成
- 3: 農場点検済導入の実施(現状でカウント)
- 4: 農場点検済導入の計画(過去取組済のカウント)
- 5: 農場点検済導入の組織(過去取組済のカウント)

※養産GAPについては、養の組織(過去取組済のカウント)は含めない。

※栽培物(キノコ)は含めない。

※①～③の○の位置について

- ①取組の状況について
 - ・GAP手法の導入を完了した組織
 - ・GAP手法の導入を完了した組織(取組を保留中(F 無し))
 - ・GAP手法の導入を完了した組織(取組を保留中(F 無し))
- ②農場点検済導入の合意形成
 - ・チャックリストに基づき、農場点検済導入の合意形成している(チャックリストを配布、回収、改善点の洗い出し)組織(含意済み(F2以上))
 - ・チャックリストに基づき、農場点検済導入の合意形成している(チャックリストを配布、回収、改善点の洗い出し)組織(含意済み(F2以上))
 - ・農場点検済導入、PDOCAサイクルの実施
 - ・チャックリスト等により、改善点を洗い出し、改善に活用している(チャックリストを配布、回収、改善点の洗い出し、改善に活用)
 - ・洗い出した改善点をまた改善に活用していない(一部無し)
- ③農場点検済導入
 - ・農場点検済導入の実施
 - ・農場点検済導入の実施(取組を保留中(F 無し))
 - ・農場点検済導入の実施(取組を保留中(F 無し))

藤岡地区農業指導センター

目 次

I 普及活動の方針

1 重点方針	
(1) 農業・農村の現状と問題点	1
(2) 普及指導活動の重点方針	3
2 活動の推進方策	
(1) 活動体制	4
(2) 活動方法	4
3 体制図・課題整理図	
(1) 組織・活動体制図	5
(2) プロジェクト支援体制	6
(3) 「群馬県農業農村振興計画」と「普及課題」の整理図	7

II 普及活動の計画

1 普及課題	
(1) 課題整理表	8
(2) 農政重点課題	
多野藤岡地域の有機農業および環境負荷低減農業の推進	10
(3) 地域重点課題	
露地ナス及び促成イチゴ産地の担い手育成	12
(3) 専門課題	
3 共通	15
4 担い手支援係	16
5 生産指導係	17
6 農畜産係	18
7 園芸指導係	20
2 各普及関係事業計画書	
(1) 協同農業普及事業	22
(2) がんばる新農業人応援事業	26
(3) 女性農業者活動支援事業	27
(4) 気象災害対策強化普及推進事業	31
(5) グリーンな栽培体系への転換サポート事業	32
参考1 普及活動実証ほ等一覧	34
参考2 G A P 導入推進計画	35

I 普及活動の方針

1 重点方針

(1) 農業・農村の現状と問題点

西部地域は、県の西南部に位置し、「高崎安中地域」「多野藤岡地域」「甘楽富岡地域」の4市3町2村からなり、高速道路や新幹線等の交通網が整備され、首都圏に近く恵まれた立地条件にある。

西部管内の耕地面積(令和3年農林水産省「面積調査」)は14,357ha、総農家数(2020年農林業センサス)は12,165戸である。それぞれ県全体の22%、29%を占めている。また、農家1戸当たりの耕地面積(中山間地域を抱え)は1.2haで県平均(1.6ha)より少ない。

西部管内は、標高60mの平地から900mの山間地まで農地が分布し、各地域それぞれの自然・立地条件の特色を活かし、野菜・果樹・花き・米麦・コンニャク・畜産など多品目にわたる多彩な農業が展開され、関係機関・団体等が一体となって生産振興に努めている。

各部門に共通する問題として、農業者の高齢化、担い手の減少、労働力不足、異常気象の恒常化による病害虫の多発や農作物の品質低下、中山間地域を中心とした耕作放棄地の増加や野生鳥獣による農作物被害があり、その対策支援が重要となっている。また、世界情勢の変化による資材価格の高騰やコロナ後の生活・消費スタイルの変化が地域農業全体に影響を及ぼしてきた。

さらに、管内での特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」や「モモヒメヨコバイ」の発生、天候不順や気象災害の発生、県内畜産での特定家畜伝染病(CSF、鳥インフルエンザ)の発生など、不測の事態に対し、緊急かつ迅速な対応が求められる事案が増加している。

国では令和2年度に新たな「食料・農業・農村基本計画」を閣議決定し、「食料の安定供給の確保」「農業の持続的な発展」「農村の振興」を3つの柱に施策を展開している。

また、令和3年に「みどりの食料システム戦略」が策定され、それを受けて、令和4年6月に国の協同農業普及事業の実施についての考え方(ガイドライン)が改正された。今後、ガイドラインに示された農業のDX化や環境負荷低減に資する栽培体系の推進等、普及指導員の果たす役割は一層重要になっていく。

これら「みどりの食料システム戦略」やガイドライン等の農政の動きを踏まえつつ、群馬県農業農村振興計画2021-2025の目標の実現に向け、担い手の確保・育成のため、市町村など関係機関と連携した就農体制の整備を図る。さらに、環境負荷低減の取組とICT等の先端技術を組み合わせた、本県農業の持続的な発展に向け効果的・効率的な普及活動を展開する。

このような社会状況や課題を踏まえ、各地域での現状や問題点を明らかにし、解決に向けたベストマッチを普及活動計画へ反映していく。

ア 高崎安中地域

高崎安中地域は高崎市と安中市からなり、高崎市街地近郊の平坦地域では、広域麦作農事組合からステップアップした法人経営体への運営支援並びに飼料用米、飼料イネの導入等による水田経営の安定、耕畜連携等が求められている。また、施設園芸では、トマトやイチゴ等の果菜類、シクラメン、花壇苗等の花き類が盛んであり、一部には、環境制御技術の導入や輸出の取組が進んできている。野菜類では、ナス、ネギなど県重点推進品目及びタマネギ、チンゲンサイ、ブロッコリーなど地域推進品目の生産拡大を進めるとともに、GAP、IPM及び環境保全型農業の普及にも取り組んでいる。

榛名山南麓を中心とした中山間地域は、ナシ、ウメ、プラム、モモの生産が盛んで、県内でも有数の果樹産地が形成されている。消費者ニーズにあった高品質果実生産、新品種の導入や改植による生産性回復、6次産業化の推進、販売促進PRが課題となっている。

畜産では、生産基盤を強化するため、特定家畜伝染病対策の徹底、飼養頭数の増加やブランド力向上とともに、輸入飼料価格の高騰に伴う飼料作物の自給、域内生産による利用の拡大が喫緊の課題となっている。

また、高崎市倉渕地区では、有機野菜の組織的な生産が行われており、新規の就農希望者等への支援体制も整っていることから、担い手の確保、有機野菜の生産拡大を進める機運が高まっている。

安中市は、碓氷川、九十九川流域の水田、畑作地帯と中山間地域からなり、野菜、畜産、米麦、コンニャクなどの複合経営が中心である。野菜類は、露地ナス、ネギを重点品目に掲げて推進するとともに、タマネギ等の加工・業務用野菜の拡大やズッキーニ、プチベールなど新興品目の導入・定着に向け、重点的に取り組んでいる。令和2年には310ha規模の松義台地基盤整備事業が完了し、基幹作物のコンニャクを中心に作付されているが、近年は資材価格の高騰によるコスト高や生玉販売価格の低迷により、コンニャク農家は厳しい経営を強いられている。今後、補完作物の導入や生産コスト削減に向けた取組が急務となっている。

イ 多野藤岡地域

多野藤岡地域は、高崎市新町・吉井町、藤岡市、上野村、神流町からなり、比較的平坦な地域と山間地域とに大別される。

高崎市新町・吉井町、藤岡市の平坦地域では、米麦を中心とする水田農業、トマト・キュウリ・イチゴ・洋ラン等の施設園芸、ナス・ネギ等の露地野菜及び畜産（乳牛・肉牛・豚）が主要品目となっている。また、高速自動車道や主要幹線道路の沿線に道の駅や農産物直売所を整備し、直売向け農産物の生産も盛んにおこなわれている。しかし、担い手の高齢化が進み、農業従事者の減少や資材価格等の高騰により、新たな担い手の確保・育成、経営能力向上等が求められている。

水田農業では、農事組合法人及び個別経営体の経営安定や体質強化が課題となっている。施設園芸や露地野菜では、持続可能な農業生産や安全・安心な農産物の供給を推進していくため、高度なほ場管理技術、環境負荷低減技術の活用及びGAP手法の導入が求められており、さらに生産性向上に向けた支援が必要である。

一方、上野村及び神流町の奥多野地域では、狭く急傾斜な地形で、ほ場条件が悪く生産性が低いことから、農業の担い手の減少や高齢化が顕著となっている。地域農業の活性化が課題であり、多様な担い手の確保・育成、並びに地域特産物振興が求められている。

ウ 甘楽富岡地域

甘楽富岡地域は、富岡市・下仁田町・南牧村・甘楽町からなり、標高115mから700mに耕地が広がり、耕地面積の約8割を畑地が占める中山間畑作地帯である。県内有数のコンニャク生産地であるが、その生産は、隣接する安中市等の基盤整備された耕地（松義台地など）への出耕作が中心となっている。園芸部門においては、伝統野菜である下仁田ネギやナス、タマネギ等の露地野菜のほか、施設野菜のイチゴ、キュウリ、ニラなどの産地を形成している。JAが進めたインショップ販売方式により、野菜類の少量多品目生産が盛んであることが特徴として挙げられる。果樹では、キウイフルーツやリンゴ、花きではバラ、鉢物などのほか、山間地の特性を生かした露地切り花や山野草の生産が行われている。

担い手の確保については重要な課題であり、関係機関での新規就農（参入）者を確保す

るための体制を強化し、管内農業後継者の他、農業未経験の就農希望者の就農・定着を支援し、多様な担い手確保に努める。野菜等の生産振興については、気候変動への対応と消費者ニーズに応える品質・安定生産技術の普及、持続的かつ省力化技術の確立によるブランド力強化及び産地振興、コンニャク生産では省力・低コスト化のための越冬栽培の推進、並びに経営補完作物導入による収益力強化が課題である。また、地域農業を推進する上で、集落ぐるみによる鳥獣害対策や耕作放棄地対策への取り組みが急務である。さらに中山間地域の振興においては、特産物の生産振興・加工品の開発や改良など、地域の起業グループ等と連携しつつ、道の駅(直売所など)を中心とした観光と一体になった地域振興への支援が求められている。

(2) 普及指導活動の重点方針

農業・農村を取り巻く環境は、国際情勢などを背景に、農業従事者の減少や高齢化の進行、労働力不足、資材価格等の高騰など、大きく変化している。

「群馬県農業農村振興計画 2021-2025」の基本目標である「未来に紡ぐ！豊かで成長し続ける農業・農村の確立」を目指し、「群馬県協同農業普及事業の実施に関する方針(令和3年3月)」を踏まえた、「施策の推進方策」、「西部地域農業の振興方向(地域重点プロジェクト)」等の取組を地域課題として重点化し、さらに“有機農業”を農政重点課題に位置付け、関係機関等との連携を一層強化し、効果的・効率的かつ積極的に活動を展開する。

ア 基本的な課題

- (ア) 農業の持続的な発展に関する支援
- (イ) 農村の振興に関する支援
- (ウ) 食料の安定供給の確保に関する支援

イ 高崎安中地域

- (ア) 榛名地域を核とした果樹産地の活性化
- (イ) 安中市の畑地活用によるコンニャク農家の経営改善
- (ウ) 有機農業の拡大支援

ウ 多野藤岡地域

- (ア) 多野藤岡地域の有機農業および環境負荷低減農業の推進
- (イ) 多野藤岡地域の露地ナス及びイチゴの担い手育成による産地の活性化
- (ウ) 奥多野農村地域の担い手育成と農業振興

エ 甘楽富岡地域

- (ア) 地域農業・農村の多様な担い手の確保・育成
- (イ) コンニャク経営における新技術等導入による産地振興
- (ウ) ブランド農産物(下仁田ネギ)の産地強化
- (エ) ICT利用によるイチゴ産地の活性化

2 活動の推進方策

(1) 活動体制

ア 組織体制は係制

管内全域を対象とした専門活動を効率的に展開するため、担い手支援係、園芸指導係、野菜指導係、農畜産指導係を配置する。また、経営、果樹、花き、畜産、工芸作物担当は、地区農業指導センターを含む広域活動を行う。

イ 専門分担活動とプロジェクト活動の併用方式

活動体制の基本は、専門的な課題に対応した専門活動と、地域的・総合的・広域的な課題に対応したプロジェクト活動の併用方式とし、担い手育成、経営指導等は共通課題として対応する。

ウ 地域戦略担当、施策業務担当、事務担当の設置

地域農業が抱える課題の解決に向け、効果・効率的な普及活動を展開するため地域戦略担当（次長）を配置する。また、課内事務の円滑化のために事務担当を配置する。

エ 市・支所担当者及びJ A担当者の設置

市・支所、J Aとの連携を図るため、旧市町村単位、J A毎に担当者を配置する。

オ プロジェクトチームの編成

地域の重点課題を解決するため、必要に応じて所属を超えたプロジェクトチームを編成する。

(2) 活動方法

普及活動に当たっては、重点課題及び専門課題を設定し、次長及び各係長が計画の策定・反省評価等の進行管理に当たる。特に、広域支援活動を行う担当者及び係長は、地区農業指導センター関係者との連絡を密にした活動を行う。

ア 専門活動

各専門担当は、専門項目を分担し管内全域を対象にした専門活動を展開する。

イ チーム活動

地域的・総合的・広域的な課題に対しては、プロジェクトチームにおいて各専門の立場から課題解決に当たり、総合力を発揮した普及活動を展開する。

ウ 市及びJ Aとの連携活動

市・支所担当者及びJ A担当者は各関係機関の窓口として、管内の農業振興を円滑に推進するため緊密な連携と連絡調整に当たる。

エ 先導的農業者との連携

多様化・専門化する課題に対し効率的に普及活動を推進するため、農業経営士、農村生活アドバイザー等を普及指導協力員に位置づけ協力を得る。

オ 所内の連絡調整

普及活動の円滑な推進と課内の連携強化を図るため、普及指導員会議、普及企画会議、各係会議等を開催するとともに、所内担当者等会議やプロジェクト会議等を通じて各課との調整を図る。

普及指導員会議は、普及指導課の広域担当が地区農業指導センターの会議に出席し、一体的な活動により総合指導体制が確保できるよう日程を調整して開催する。

カ 情報活動の強化

農業者等のニーズに対応するため、ICTの活用など情報の収集・保管・提供の強化と効率化を図る。

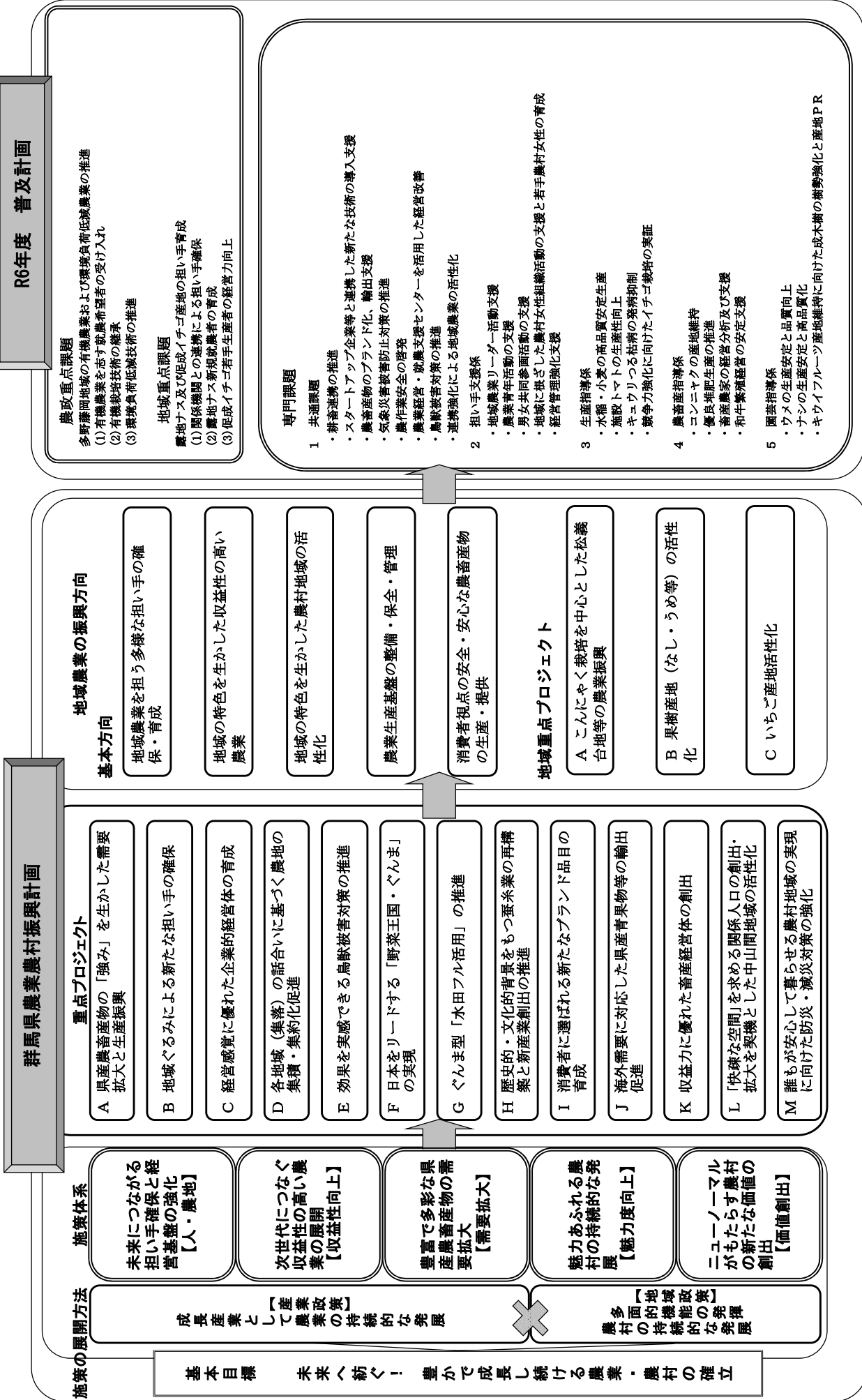
3 体制図・課題整理図
 (1) 組織・活動体制図

センター長 平井 一幸	次長兼担 手係長 中野 葉子 (地域戦略担当)	担 い 手 支 援 係	係名	職 名	氏 名	専門担当	主な事務担当
			主任	清水 雄貴	担い手 (野菜)	農業経営士、青年農業士、農業青年、GAP、鳥獣害、PC管理担 当、公用車管理	
			技師	遠藤 小夏	担い手	がんばる新農業人応援事業、就農相談、農村生活アドバイザー、農 村女性組織、女性起業、HP・JA広報	
		生 産 指 導 係	主幹専門員	高野 美智代	担い手	新規就農者育成総合対策、就農相談、農村女性組織、男女共同参 画、6次産業化、グリーンツーリズム、事務用品・切手管理	
			係長	松本 尚子	普通作物 野菜	有機・循環型農業、農業気象災害、ハウス強靱化、人・農地、集落 営農、環境負荷低減、GAP	
			副主幹	飛田 雄佑	野菜 (担い手)	病害虫・農薬、グリサボ事業、認定農業者・経営基盤強化、制度資 金・農業金融	
			技師	瀬下 純央	普通作物	作況ほ、経営所得安定対策、有機、特裁、農業機械・農作業安全、 スマート農業	
主幹専門員	須田 匡彦	野菜	農業気象災害、環境負荷低減、普及現地情報、生産動向、農業農村 の動き、土壌肥料・土壌分析室				

西部農業事務所				
課名	係名	職名	氏名	専門担当
農畜産課	農畜産指導係	補佐	熊川 保弘	工芸作物
		主幹	湯浅 克月	工芸作物
		技師	横堀 卓人	畜産
		技師	小澤 蓮晟	畜産
		主幹専門員	佐藤 謙一	作物
担い手・園芸課	担い手支援係	係長	永井 三重子	担い手
		技師	森田 愛美	担い手
		主任	佐藤 匠	農業経営
	園芸指導係	補佐	三ツ石 昌幸	果樹
		主任	宮下 直矢	花き
		主任	石川ひとみ	花き
		主任	齋藤 拓真	果樹
		技師	中嶋 俊介	花き
		主幹専門員	小山 千明	果樹

(2) プロジェクト支援体制

プロジェクト名	内 容	関係機関	担当
<p>有機農業および環境負荷低減農業の推進 (群馬県農業農村振興計画 B)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・有機農業を志す就農者に対して、受け入れ農家とのマッチングを行い就農支援。 ・有機栽培事例を調査し、有機農業者等への技術継承に活用。 ・施設園芸栽培において、肥料や農薬の削減技術を導入、環境にやさしい農業を推進。水田農業での堆肥の活用を促進。 	<p>藤岡市 高崎市 上野村 藤岡市農業委員会 高崎市農業委員会 J A たのふじ</p>	<p>○中野 清水 遠藤 高野 松本 飛田 瀬下 須田</p>
<p>地域ぐるみによる新たな担い手の確保 (群馬県農業農村振興計画 B、F)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携した就農相談を実施。新規参入者等の円滑な就農をサポートし定着を図る。 ・露地ナス新規栽培者募集や就農相談会で、積極的に就農者を確保。J A と連携して手厚くサポート。経営安定のための検討を継続。 ・促成イチゴ若手生産者のマネジメントスキル向上。気候変動に対応、所得を維持のための栽期間を通じた肥培管理の実証。 	<p>藤岡市 高崎市 J A たのふじ J A 全農ぐんま</p>	<p>○松本 中野 飛田 遠藤 高野 清水 瀬下 須田</p>
<p>いちご産地活性化 (群馬県農業農村振興計画 F、業農村振興計画地域重点プロジェクト C)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いちご新規栽培者の確保・育成 ・I C T 等技術導入による生産性・品質向上 ・I P M 技術導入による環境に優しい農業への取組 ・G A P 導入による経営改善 	<p>藤岡市 J A たのふじ J A 全農ぐんま 技術支援課 農業技術センター 担い手・園芸課 富岡地区センター ぐんまブランド推進課</p>	<p>○中野 松本 飛田 須田</p>



II 普及活動の計画

1 普及課題

(1) 課題整理表

◎は進行管理者

分類	課題名及び支援事項	担当	国の重要政策	課題番号
農政重点課題	[多野藤岡地域の有機農業および環境負荷低減農業の推進] 1 有機農業を志す就農希望者の受け入れ 2 有機栽培技術の継承 3 環境負荷低減技術の推進 (1) 環境にやさしい病害虫防除 (2) 堆肥の有効活用 (3) 環境と調和のとれた栽培（施設トマト）	◎中野 飛田 遠藤 高野 松本 清水 瀬下 須田	d d d d d	1
地域重点課題	[露地ナス及び促成イチゴ産地の担い手育成] 1 関係機関との連携による担い手確保 (1) 新規就農者の確保 (2) 就農者の定着促進 2 露地ナス新規栽培者の育成 (1) 新規栽培者の確保 (2) 栽培技術の早期習得 (3) コスト削減と省力化の両立 3 促成イチゴ若手生産者の経営力向上 (1) 経営者視点の養成 (2) 生産技術の高度化 (3) 生産技術の高度化	◎松本 中野 飛田 遠藤 高野 清水 瀬下 須田	b d d	2
共通	1 耕畜連携の推進 2 スタートアップ企業等と連携した新たな技術の導入支援 (1) スタートアップ企業等との連携 (2) スマート農業技術の推進 3 農畜産物のブランド化、輸出支援 (1) 農産物のブランド化 (2) 農産物の輸出支援 4 気象災害被害防止対策の推進 (1) ハウス被害防止対策の周知 (2) 水稻高温登熟品種の評価 5 農作業安全の啓発 6 農業経営・就農支援センターを活用した経営改善 7 鳥獣被害対策の推進 8 連携強化による地域農業の活性化	◎中野 飛田 遠藤 高野 松本 清水 瀬下 須田	d b c	3
専門課題	担い手支援係 1 地域農業リーダー活動支援 (1) 地域の担い手の活動支援 (2) 地域リーダーの候補者の確保 2 農業青年活動の支援 3 男女共同参画活動の支援 4 地域に根ざした農村女性組織活動の支援と若手農村女性の育成 5 経営管理強化支援	◎中野 飛田 清水 遠藤 高野		4

生産指導係	1 水稲・小麦の高品質安定生産 (1) 優良種子の確保 (2) 米麦の品質向上	◎松本 飛田 瀬下 須田	a	5
	2 施設トマトの生産性向上 (1) GAP手法を活用した生産環境の改善 (2) 長期どり栽培における草勢維持			
	3 キュウリつる枯病の発病抑制			
	4 イチゴ新品種の地域適応性の確認 (1) イチゴ新品種育苗期の特性把握 (2) データを活用した栽培管理の見直し検証			
園芸指導係	1 キウイフルーツの生産安定と産地PR支援	◎三ツ石 齋藤 石川 宮下 中嶋 小山	b	6
	2 スモモの生産安定			
	3 シンビジウム生産安定			
	4 中山間地の切り花の産地振興と担い手支援			
	5 生産組織による花きの消費拡大・販売対策支援			
	6 各種鉢花・花壇苗生産経営の改善 (1) シクラメンの総合的品質向上対策 (2) 鉢物カーネーションの安定出荷と品質の向上			
農畜生産指導係	1 コンニャクの産地維持	◎熊川 湯浅 横堀 佐藤	e	7
	2 タラノメの産地維持			
	3 WCS用イネの作付け推進			
	4 和牛繁殖経営の安定支援			
国の重要政策 a:GAP b:スマート農業 c:輸出促進 d:環境負荷低減(みどり戦略) e:水田高収益作物転換				

(2) 重点課題

分類：農政重点課題 課題番号：1

課題名	多野藤岡地域の有機農業および環境負荷低減農業の推進
支援対象	農業者（法人含む）、JA各部会、任意組織、市町村等
課題設定の背景及び理由	多野藤岡地域は県内の中では有機農業が盛んで、比較的有機栽培面積が多い地域である。当地域の農業者は環境に配慮した農業への関心が高く、組織、個人ともに様々な取組が行われている。これからは、持続可能な農業への取り組みはさらに重要になってきており、有機農業に関心がある就農希望者への対応や、地域農業の担い手を対象に環境負荷低減技術をさらに広めていく必要がある。
支援事項と解決手法	<p>1 有機農業を志す就農希望者の受け入れ 有機農業の推進を図るため、有機農業を志す就農者に対して、受け入れ農家とのマッチングを行い、就農支援を行う。</p> <p>2 有機栽培技術の継承 有機栽培事例を調査し、指導技術の向上及び技術指導の体制を整え、有機農業者等への技術継承に活用する。</p> <p>3 環境負荷低減技術の推進 トマトやイチゴなどの施設園芸栽培において、肥料や農薬の削減技術を導入し、環境に配慮した持続可能な農業を推進する。 また水田農業においても、たい肥の活用を推進するため、たい肥混合複合肥料の利用について検討する。</p>

<普及指導活動年度計画（令和6年度）>

進行管理：中野

支援事項 【支援対象】	評価指標		担当
	成果指標	活動指標	
1 有機農業を志す就農希望者の受け入れ 【就農希望者等】	有機農業希望者 1名	有機農業に関する就農担当者会議 2回 有機農業就農相談 3回	中野 遠藤 高野
2 有機栽培技術の継承 【有機農業者・有機農業志向者等】	有機栽培事例 2品目	事例作成検討会 1回 有機栽培事例調査 2回 調査結果検討会 1回	松本 瀬下 遠藤
3 環境負荷低減技術の推進 (1) 環境に配慮した病害虫防除 【イチゴ生産者】	キルパー古株枯死技術導入 生産者数 0→5戸	イチゴ土壌消毒代替実証ほ [グリサポ] 1箇所	飛田
(2) たい肥の有効活用 【小麦生産者】	小麦収量 350kg以上/10a	小麦たい肥混合複合肥料試験 2箇所	瀬下
(3) 環境と調和のとれた施設栽培 【JAトマト生産販売組合】	施設トマト施肥改善（基肥削減）生産者数 5戸	環境負荷低減検討会 2回 施設トマト施肥相談会 1回	須田
<p>関連事業名：就農促進対策、グリーンな栽培体系への転換サポート 関連プロジェクト名：担い手育成・確保、野菜振興、農業農村振興計画プロジェクトB、C、F 農業農村振興計画西部地域振興プロジェクトC</p>			

年間スケジュール

支援事項	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 有機農業を志す就農希望者の受け入れ		●担当者会議 ●有機農業就農相談（随時）			●担当者会議							
2 有機栽培技術の継承		●作成検討会			●事例調査			●事例調査				●調査結果検討会
3 環境負荷低減技術の推進												●マニュアル作成
(1) 環境に配慮した病害虫防除				↔	●イチゴ実証ほ設置●調査							
(2) たい肥の有効活用				←	●小麦実証ほ設置●調査	●検討会						
(3) 環境と調和のとれた施設栽培					●検討会 ●相談会			●検討会				

課題名	露地ナス及び促成イチゴ産地の担い手育成							
支援対象	就農希望者、新規就農者、露地ナス生産者、促成イチゴ生産者							
課題設定の背景及び理由	<p>多野藤岡地域は、露地ナス及び促成イチゴの産地であり、地域農業生産の核となっている。しかし、この2品目の担い手および生産量は減少の一途を辿っており、新規就農者の確保や若手生産者の育成が、最大の課題である。</p> <p>当地域の新規就農者は露地ナス栽培を選択する場合がほとんどであるが、昨今の資材高騰の影響で所得率が低下している。新規就農者が定着するには、技術の早期習得とともにコスト削減、経営の安定化が急務となっている。</p> <p>一方、当イチゴ産地は、高齢化に伴い一部で若手生産者への世代交代が進んだが、技術水準や経営感覚に違いがある。また、新規・異業種参入の他、大規模化を目指す経営体も出現するなど、生産者が多種多様化しており、若い担い手を中心とする経営力の向上が、産地の存続を左右する局面を迎えている。</p>							
支援事項と解決手法	<p>1 関係機関との連携による担い手確保 市町村、JAと連携したワンストップ就農相談を実施し、新規参入者等の円滑な就農をサポートする。新規就農者に対しては、農業基礎講座やフォローアップ巡回等を通して地域への定着を図り、離農することがないように伴走支援を行う。</p> <p>2 露地ナス新規就農者の育成 新規栽培者の募集や就農相談会での推奨など、積極的に就農者の確保を行う。露地ナス栽培で営農を開始した新規就農者にはJAと連携して手厚くサポートするとともに、早期の技術習得がなされるよう栽培2年目以降も重点的に指導する。</p> <p>併せて、露地ナス経営の体質強化に向けた検討が急務であることから、実証ほや調査を実施しながら、経営安定のための検討を継続していく。</p> <p>3 促成イチゴ若手生産者の経営力向上 当地域の促成イチゴ経営は家族労働が主であるが、若手生産者の中には雇用労力を活用した大規模化を目指す経営体があり、人材確保や労務管理などマネジメントスキルが求められるようになる。そのため、若手生産者向け研修会などを通して経営者視点を養成していく。</p> <p>さらに、近年の猛暑に代表される気候変動に対応しつつ、収量だけでなく所得を維持するため、夏期高温下での健苗の確保、花芽の適期分化、栽培期間を通じた肥培管理の適正化に向けた生産方式について、継続的に実証していくことが重要である。</p>							
目標年次の姿（ビジョン）	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との連携を密にし、新規参入者の円滑な就農をサポートすることによって、多野藤岡地域の新規就農者を確保できている。 就農後は、特に当地域の農業生産の核となる露地ナス及び促成イチゴ栽培を営む担い手を中心に支援して、地域への定着や経営が安定させることができ、収益性が改善され、意欲ある担い手の経営安定につながり、多野藤岡地域の農業が活性化する。 新規就農者だけでなく、経営継承後まもない若手生産者等に対しても、技術の習得、生産技術の高度化、規模拡大に伴うマネジメントスキルの向上等、必要な課題について重点化した普及活動を展開し定着や経営が安定している。 							
	年次	R5	R6		R7		R8	
目標		(現状)	(目標)	(実績)	(目標)	(実績)	(目標)	(実績)
露地ナス新規就農者数(人)		3	3		6		9	
※累計								
促成イチゴ大規模経営体の育成(戸)		3	3		4		5	
※30a以上・累計								

ビジョン 達成まで の行程	支援事項 【支援対象】	主な活動	R6	R7	R8
	1 関係機関との連携による担い 手確保 【就農希望者、新規就農者、市町 村、JA】	担当者会議	←		→
		就農相談	←		→
		農業基礎講座	←		→
		フォローアップ支援	←		→
	2 露地ナス新規栽培者の育成 【新規就農者、新規栽培者、JA ナス部会等】	相談会等での栽培者募集	←		→
		新規栽培者講習会・研修会	←		→
		講習会・現地研修会	←		→
		天敵活用実証ほ 経営改善の検討	←		→
	3 促成イチゴ若手生産者の経営 力向上 【若手生産者、JA苺生産者協議 会等】	若手生産者向け研修会	←		→
大規模経営体の育成			←	→	
生産技術の高度化		←		→	
効率的な生産方式の導入		←		→	

<普及指導活動年度計画（令和6年度）>

進行管理：松本

支援事項 【支援対象】	評価指標		担当		
	成果指標	活動指標			
1 関係機関との連携による担い 手確保【就農希望者、新規就農 者、市町村、JA】 (1) 新規就農者の確保	新規就農者（独立・自営） 10人※ ※直近5か年(R1～5)の平均	担い手担当者会議	3回	遠藤 高野 中野	
		就農相談（延べ）	20回		
		新規就農実態調査	1回		
	(2) 就農者の定着促進	フォローアップ農家定着率 100% 農業基礎講座参加人数（延べ） 15人	フォローアップ巡回	14回 (7戸×2回)	遠藤 高野
			フォローアップ農家支援検 討会	2回	
			サポートチーム巡回	2回	
2 露地ナス新規栽培者の育成 【新規就農者、新規栽培者、JA ナス部会等】 (1) 新規栽培者の確保	露地ナス新規栽培者 5人 うち新規就農者3人	新規栽培者相談会	1回	清水 遠藤	
		新規栽培者講習会	6回		
		動画を利用した講習会	2回		
	(2) 栽培技術の早期習得	栽培3年目（5人）の収量 平均7 t/10a	講習会・研修会	6回	清水 飛田
			現地研修会	2回	
			重点巡回指導	3回	
(3) 新技術導入による経営改善	新たな天敵利用技術 1事例 天敵製剤利用農家 8戸	露地ナス土着天敵実証ほ [協同]	1箇所	清水 飛田	
		コスト比較調査	2回		

3 促成イチゴ若手生産者の経営力向上 【若手生産者、J A 苺生産者協議会等】	(1) 経営者視点の養成	若手生産者向け研修会参加者 10人	経営向上検討会 (西部重点P J) 2回 若手生産者向け研修会 1回 若手生産者巡回 5回 J A 現地研修会 1回	飛田 中野
	(2) 生産技術の高度化	育苗期における天敵製剤導入 25戸→27戸 健苗が確保できた生産者 30戸	育苗期巡回指導 10回 モデル肥培管理体系の硝酸イオン濃度調査 5戸	飛田 須田
	(3) 効率的な生産方式の導入	肥料コスト削減生産者 21戸→23戸	J A 施肥相談会 1回 追肥体系を検討するための栄養診断 5戸	飛田 須田
		省力技術導入生産者 のべ5戸	かん水資材相談対応 5回	
関連事業名：がんばる新農業人応援事業、就農促進対策、ぐんま農業イノベーション推進事業 関連プロジェクト名：担い手育成・確保、野菜振興、農業農村振興計画重点プロジェクトF、農業農村振興計画西部地域重点プロジェクトC				

年間スケジュール

支援事項	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 関係機関との連携による担い手確保	●担当者会議 (4月) ●担当者会議 (9月) ●担当者会議 (12月) ← 就農相談 → ← 新規就農者実態調査 → ← フォローアップ巡回 → フォローアップ検討会 ● (7月) フォローアップ検討会 ● (11月) ●サポートチーム巡回 (7月) サポートチーム巡回 ● (11月) ●農業基礎講座 ● (10月) ● (11月)											
2 露地ナス新規栽培者の育成	← 就農相談での栽培推奨 → ●新規栽培者の募集 (11月) ●新規栽培者講習会 (4月) ● (5月) ● (6月) ● (7月) ● (8月) ●新規栽培者相談会 (12月) ← 土着天敵実証ほ →											
3 促成イチゴ若手生産者の経営力向上	●検討会 (西部重点P J) (7月) ●検討会 (西部重点P J) (11月) ●若手生産者向け研修会 (9月) ← 育苗指導・硝酸イオン濃度調査 → ●施肥相談会 (7月) ●現地研修会 (11月) ← 栄養診断 → ← 個別相談対応 →											

(3) 専門課題

分類：専門、共通 課題番号：3

支援事項 【支援対象】	評価指標		担当
	成果指標	活動指標	
1 耕畜連携の推進 【耕種農家】	たい肥の活用周知 70人	露地ナス土づくり講習会 2回 直売所講習会 1回	清水 松本
2 スタートアップ企業等と連携 した新たな技術の導入 【全生産者】 (1) スタートアップ企業等との 連携 (2) スマート農業の推進	マッチング生産者 1戸 ドローン防除講習会参加者 20人	マッチング会のPR 2回 マッチング会への参加 1回 水稲除草剤実証ほ 1箇所 [協同農業] ネギドローン防除講習会 1回	中野 瀬下 飛田
3 農畜産物のブランド化、輸出 支援 【全生産者】 (1) 農産物のブランド化 (2) 農産物の輸出支援	Gアナ品目の支援数 1品目 輸出に向けた課題の洗い出し 1品目 販路拡大情報提供組織数 2組織	イチゴ品質向上支援 2戸 イチゴ栄養診断 5戸 輸出を検討する農業者の情報 収集 2回 輸出促進セミナー等の情報提 供 2回 産直ECサイト説明会 1回	中野 飛田 中野 瀬下
4 気象災害被害防止対策の推進 (1) ハウス被害防止対策の周知 【施設園芸農家】 (2) 水稲高温登熟品種の評価 【水稲生産者】	被害発生件数 0件 高温登熟品種1等比率 90%以上	被害防止対策情報提供 3回 セーフティネット加入推進 随時 高温登熟品種試験 1箇所 栽培指導 2回	松本 瀬下
5 農作業安全の啓発 【全生産者】	農作業死亡事故 0件	講習会等での注意喚起 30回 広報による啓発 1回 農業機械研修会 1回	瀬下
6 農業経営・就農支援センター を活用した経営改善 【群馬県農業経営・就農支援セン ター重点指導農業者】	経営戦略実践農業者 3人	支援会議 3回 伴走支援 12回 (4人×3回)	中野 飛田 瀬下
7 鳥獣被害対策の推進 【被害農家、市町村】	アライグマ対策ほ場 1か所	市町村との連携 3回 広報による啓発 1回	清水
8 連携強化による地域農業の活 性化 【市町村、JA】	関係機関との連絡調整による 合意形成 1	農業振興会議 4回	中野

関連事業名：ニューノーマルに対応した県産農畜産物等PR事業、ぐんまAgri×NETSUGEN共創事業、農業経営・就農サポート推進事業、園芸産地における事業継続強化対策、農業農村振興計画重点プロジェクトC、F、G

支援事項 【支援対象】	評価指標		担当
	成果指標	活動指標	
1 地域農業リーダー活動支援 【農業経営士会、アドバイザーの会、青年農業士】 (1)地域の担い手の活動支援	交流会等参加者人数 20人	合同役員会 1回 合同研修会 1回 新規就農者との交流会 1回	中野 清水 遠藤 高野
(2)地域農業リーダーの候補者の確保	農村生活アドバイザー認定 1人	農村生活アドバイザー認定に向けての支援 3回	
2 農業青年活動の支援 【若鮎クラブ】	新クラブ員の確保 1人	活動検討 2回 新クラブ員の勧誘 2回	清水 遠藤
	研修会等参加者数 延べ5人	タブレット端末を利用した研修等の情報提供 8回	
3 男女共同参画活動の支援 【多野藤岡農村女性ネットワーク】	男女共同参画研修会参加者 20人	組織活動運営支援 3回 男女共同参画研修会 1回	遠藤 高野
4 地域に根ざした農村女性組織活動の支援と若手農村女性の育成 【奥多野生活研究グループ連絡協議会、アグリジェンヌ藤岡、チームひまわり、若手農村女性】	食育活動 2校	組織活動運営支援 5回	遠藤 高野
	交流会参加者 延べ10人	地産地消・伝統食等伝承講習会 3回	
	農村生活アドバイザー候補の育成 2人	タブレットを活用した開催連絡と資料提供 10回	
西部と共通 5 経営管理能力の向上 【新規就農者】	複式農業簿記基礎講座出席率 85%以上	複式農業簿記基礎講座 (西部・藤岡・富岡地区合同開催) 2会場×7回	佐藤

関連事業名：がんばる新農業人応援事業、女性農業者活動支援、就農促進対策
 関連プロジェクト名：産地における新規就農受け入れ体制構築、農業・農村男女共同参画プロジェクト会議

分類：専門、生産指導係 課題番号：5

支援事項 【支援対象】	評価指標		担当
	成果指標	活動指標	
1 水稲・小麦の高品質安定生産 (1) 優良種子の確保 【米麦種子生産者・JA採種圃部会】 (2) 米麦の品質向上 【米麦生産者】	種子契約数量達成率 小麦 83.8%→100% 水稲 85.9%→100% 新規小麦種子生産者0→1戸 小麦1等Aランク比率 41.8%※以上 水稲1等比率 94.8%※以上 ※直近5か年(R1~5)地域平均	圃場審査 4回(2回×2) 雑草防除指導 4回 小麦栽培講習会 1回 水稲栽培講習会 2回 麦作情報 2回 稲作情報 2回 水田farmo設置 1箇所	瀬下 松本
2 施設トマトの生産性向上 【JAトマト生産販売組合】 (1) GAP手法を活用した生産環境の改善 (2) 長期どり栽培における草勢維持	ふじ娘GAP実践生産者 12→18戸 適正湿度管理生産者 7→12戸	GAPチェックシートの見直し 1回 チェックシートに基づく巡回指導 3回 講習会 2回 タブレット端末を活用した管理指導 6回	須田 飛田
3 キュウリつる枯病の発病抑制 【JA吉井施設園芸部会】	つる枯病枯死株発生割合 5%未満 促成栽培 10戸→5戸 抑制栽培 5戸→3戸	つる枯病防除体系の提案 2回 防除指導 6回	須田 飛田
4 競争力強化に向けたイチゴ栽培の実証 【イチゴ生産者】 (1) 新品種の地域適応性の確認 (2) データを活用した栽培管理の導入	育苗期の特性把握 2品種 環境制御・データ活用経営体 1戸	新品種育苗実証ほ 1箇所 [協同農業] 新品種育苗指導 4回 環境制御・データ活用勉強会の実施 1回	飛田 飛田 須田
関連事業名：主要農作物種子生産、経営所得安定対策、ぐんま農業イノベーション推進 関連プロジェクト名：野菜振興、農業農村振興計画重点プロジェクトF、農業農村振興計画西部地域振興プロジェクトC			

分類：専門、農畜産指導係（農畜産課）

課題番号：5

支援事項 【支援対象】	評価指標		担当
	成果指標	活動指標	
1 コンニャクの産地維持 【藤岡地区こんにゃく研究部会】 【上野村コンニャク栽培者】 【神流町農業研究会】	コンニャク栽培面積 11.5→11.5ha (倉淵・藤岡・上野・神流)	栽培管理情報提供 3回 神流町農業研究会現地研修 会 1回 複合経営実施農家調査 2回 土壌消毒環境調査 2回 新病害発生状況調査 2回	熊川 湯淺
2 優良堆肥生産の推進 【畜産農家】	酪農堆肥特殊肥料登録に向け た働きかけ戸数 1戸 堆肥リスト作成新規登録戸数 1戸	特殊肥料説明会 3回 堆肥分析戸数 10戸 堆肥分析農家に対するリス ト登録の働きかけ 5回	横堀
3 畜産農家の経営分析及び支援 【酪農家】 【和牛繁殖農家】	酪農家または和牛繁殖農家の 経営分析戸数 1戸	経営分析農家(重点支援対象 者)の選定 1戸 担い手支援スペシャリスト 派遣 2回 タブレットを活用した経営 調査 5回 分析結果情報提供 1回 経営アンケート調査 1回	横堀
4 和牛繁殖経営の安定支援 【渋川家畜市場出荷者】	平均単価以上割合 54→55%	育種価情報提供 4戸 飼養管理技術情報提供 1回	横堀
関連事業名：			

年間スケジュール

支援事項	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 コンニャクの産地維持	<p>●経営・栽培等講習会</p> <p>●神流町農業研究会現地研修会</p> <p>← 栽培管理情報提供 →</p> <p>●土壌消毒環境調査</p> <p>← 複合経営実施農家調査 →</p>											
2 優良堆肥生産の推進	<p>●特殊肥料説明会</p> <p>← 堆肥分析及び登録に向けた働きかけ →</p>											
3 畜産農家の経営分析及び支援	<p>●農家選定</p> <p>●SP派遣</p> <p>●SP派遣 ●情報提供</p> <p>← 経営調査・巡回・状況確認及びアンケート調査 →</p>											
4 和牛繁殖経営の安定支援	<p>●情報整理</p> <p>●情報提供</p> <p>← 育種価情報提供 →</p>											

支援事項 【支援対象】	評価指標		担当
	成果指標	活動指標	
1 ウメの生産安定と品質向上 【管内5JAウメ部会】	販売量(3年平均) 442→450t 出荷選外品割合 10%以下 モモヒメヨコバイ防除実施率 70→75%	各種栽培管理講習会 10回 ヨコバイ類防除実証ほ [植防協会] 1箇所	三ツ石 斎藤 小山
2 ナシの生産安定と高品質化 【藤岡市園芸協会ナシ分科会】	温暖化に対応した優良品種の 選定 0→1品種	優良品種講習会 3回 優良品種試食検討会 1回 アンケート実施 1回 地域適応性調査 3回	三ツ石 斎藤 小山
3 キウイフルーツ産地維持に向 けた成木樹の樹勢強化と産地PR 【ジャパンキウイ株式会社】	フルメット液剤導入農家戸数 10→20戸 適期収穫・出荷達成率 80%以上 産地PR実施組織数 1組織	果実肥大促進剤実証ほ [植防協会] 1箇所 栽培管理・せん定講習会 2回 重点農家指導 10回 産地PR活動 1回	三ツ石 小山 斎藤
4 シンビジウムの生産安定 【藤岡市洋蘭組合】 【上州の蘭2011】	需要期（10～12月）出荷量 43→50万本 A品率 80→85%	LED補光苗生育促進実証ほ設 置 [協同農業] 1箇所 品質向上（花枯れ防止）のた めの栽培管理指導 3回 情報提供 5回 出荷状況調査 1回	宮下 中嶋
5 各種鉢花生産の経営改善 (1) 難防除病害虫防除によるシク ラメンの生産安定 【管内シクラメン生産者】	病害虫ロス率10%以下の農家 戸数 0→1戸 モデル農家のA品率向上 25→50%	アザミウマ発生子察に基づく 防除指導 3回 病害虫対策指導巡回 10回 病害虫対策チェックシートの 取組啓発 3戸×1回 現地検討会 2回 灰色カビ病対策実証ほ設置 [植防協会] 1箇所 栄養診断モデル農家設置 1箇所 栄養診断に基づく適正管理指 導 10回	宮下 中嶋
(2) 鉢物カーネーションの需要期 出荷技術支援 【管内鉢物カーネーション生産 者】	鉢物カーネーション適期出荷 95%以上の農家戸数 1→2戸	現地検討会 2回 温度管理指導 5回 開花調節モデル 1箇所 タブレットを活用した栽培管 理指導 3回	

関連事業名：病害虫防除対策現地実証事業（植防協会）、GAPの普及推進

年間スケジュール

支援事項	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 ウメの生産安定と品質向上	<p>各種栽培管理講習会(10回)</p> <p>ヨコバイ実証は設置・調査</p>											
2 ナシの生産安定と高品質化	<p>●優良品種講習会 ●優良品種講習会 ●優良品種講習会</p> <p>●優良品種試食検討会、アンケート実施</p> <p>地域適応性調査(3回)</p>											
3 キウイフルーツ産地維持に向けた成木樹の樹勢強化と産地PR	<p>●栽培管理講習会 ●収穫前糖度検査(5回)</p> <p>●フルメット液剤実証は設置 ●目揃え会 ●せん定講習会</p> <p>重点農家指導(10回)・産地PR活動</p>											
4 シンビジウムの生産安定	<p>●栽培管理指導 ●栽培管理指導 ●栽培管理指導</p> <p>情報提供(5回)</p> <p>LED補光実証は設置</p> <p>●出荷状況調査</p>											
5 各種鉢花生産の経営改善 (1) 難防除病害虫防除によるシクラメンの生産安定	<p>●病害虫対策チェックシートの取組啓発</p> <p>●現地検討会 ●現地検討会</p> <p>病害虫対策指導巡回(10回)</p> <p>灰色カビ病実証は設置・調査</p> <p>栄養診断に基づく適正管理指導</p>											
(2) 鉢物カーネーションの需要期出荷技術支援	<p>●現地検討会 ●現地検討会</p> <p>●温度管理指導 ●温度管理指導</p> <p>●開花調節モデル</p> <p>タブレットを活用した栽培管理指導</p> <p>タブレットを活用した栽培管理指導</p>											

(協同農業普及事業)

令和6年度 事業実施計画書

1 普及指導員の活動

(1) 調査研究（実証調査、実験研究、資料調査、実態調査等）の実施

課 題 名	調 査 研 究 内 容	参加普及指導員数
別紙のとおり	別紙のとおり	9人
課題数 計 9課題		

(2) 実証ほの設置、実証モデル農業者等の設定

	課 題 名	実 証 内 容	設置箇所数
実証ほ	水稻除草剤のドローン散布による雑草防除の省力化の検討	管内の水稻栽培は、担い手の減少による高齢化、経営体当たりの経営規模拡大が進み、作業時間や労力の増加が問題となっている。 そこでドローンによる除草剤散布での作業の効率化・省力化が可能であるか調査し、普及の資とする。	1箇所
	群馬県育成イチゴ品種「RG1」および「RG3」における品種特性（親株増殖）品種把握について	群馬県育成品種「RG1」および「RG3」については、令和8年度に品種登録される予定であり、それに合わせて県内で本格的な栽培が開始される見込みである。 しかし、各品種の栽培特性は、まだまだ不明な点が多く、本格栽培前に把握する必要がある。そこで、藤岡地区において親株増殖状況を調査し、品種特性を把握する。	1箇所
	露地ナス栽培における天敵を活用した防除方法の確立	露地ナスは栽培期間が長く、病害虫薬剤抵抗性の発達が懸念されている。土着天敵の利用やカブリダニを用いた天敵製剤は薬剤抵抗性害虫への防除効果が高く、化学農薬の防除回数を低減し、環境にやさしい栽培技術として生育期に利用されている。 そこで、天敵製剤を定植後に放飼し、防除水準に基づいた防除を行い、天敵の定着とハダニ類の発生状況を確認する。	1箇所
	課題数 計 3課題		

実証モデル農業者等	—	—	箇所 —
	課題数 計 一課題		

注 実証は、実証モデル農業者等には、

- ① 重点指導の中で特に普及指導活動の拠点として解決策の実証を試みるために設置するもの
- ② 普及指導活動を通じて既にあげられた一定の成果を周囲に波及させるために設置するものの両方を含む。また、個別農業者のほか、法人、集落も含む。

(3) 農業者に対する講習会・研修会の開催

	対 象	講習会・研修会の名称	主 要 な 内 容	開催回数	延人数
講習会	米麦作農業者、野菜栽培農業者、農業法人、認定農業者	水稻・麦栽培講習会	安定生産栽培技術等	12回	1,000人
		野菜栽培講習会	新技術・新規作物の栽培技術等	50	1,500
		農薬安全使用講習会	農薬の適正利用等	1	70
		計	63回	計2,570人	
研修会	米麦作農業者、野菜栽培農業者、農業法人、認定農業者等、農業経営士、農村生活アドバイザー	GAP推進研修会	情報提供	4回	100人
		農村地域リーダー研修会	地域の農業課題、担い手	1	10
		計	5回	110人	

注 パソコンを用いた講習会・研修会（簿記関連、経営診断関連、インターネット活用、ホームページ作成等）については、その旨を記述する。

(4) 新規就農促進のための交流会、研修会等の開催

	対 象	交流会・研修会等の名称	主 要 な 内 容	開催回数	延人数
交流会	農業経営士、農村生活アドバイザー、農業青年、新規就農者等	意見・情報交換会	農業経営に関する意見・情報交換	1回	10人
		計	1回	計10人	
研修会	農業経営士、農村生活アドバイザー、農業青年、新規就農者、就農希望者、新規栽培者等	農業青年講習会	先進事例等視察	1回	5人
			栽培管理指導、巡回指導等	6	56
		計	7回	計61人	

その他	就農希望者、農業者、市町村、JA 担当者	就農相談会	就農希望者に対する相談、就農支援情報提供、経営・技術相談	1回	10人
				計 1回	計 10人

注 就農後のフォローアップのものも含む。

(5) 農業改良普及推進協議会の開催

	開催箇所数	年間開催回数	備考
普及指導センター段階	箇所 計 箇所	回 計 回	
市町村段階	4箇所 計 4箇所	4回 計 4回	JA 野菜振興会議 構成員：市町村農政主務課、農業委員会事務局、JA 営農担当課等 内容：地域農業振興に係る普及指導計画に係る検討意見交換、情報交換等

注1 協議会の範囲が上記以外の場合欄外に注記すること。

注2 備考の欄には、主な構成員、主な協議事項等について記入。

(6) 産休等改良普及員代替職員の設置数 _____ 人

(7) 普及情報協力者の設置

区分	設置人数	備考
1 普及課題収集者		
農業関係	18人	うち、農業経営士10人
生活関係		青年農業士 8人
その他課題	7人	うち、農村生活アドバイザー7人
2 その他情報収集者 (課題収集者以外)	4人	うち、気象災害情報農家4人

注1 普及課題収集者とは、日頃より普及課題となりうるような情報を提供してくれる人をいう。

2 その他情報収集者とは、気象災害情報、新規就農情報、地域の話題等の情報を提供してくれる人をいう。

3 備考には、内数として農業経営士、青年農業士、農村生活アドバイザーの数を記入すること。

(8) 普及指導協力委員の活動

区 分	委嘱人数
農 業 者	14 人
民間（農業関連）	人
民間（農業関連以外）	人

(2) 令和6年度がんばる新農業人応援事業実施計画書

1 事業実施の基本方針

藤岡地区農業指導センターでは、関係機関と連携し、定期的な巡回や個別相談による経営課題の把握と解決の提示、研修会による栽培技術の指導及び経営管理能力の向上支援により、新規就農者が早期に経営を安定させられるよう支援している。

特に管内では、初期投資の少ない露地ナス栽培に取り組む新規就農者が増加しているが、昨今の資材高騰の煽りで所得率が低下している。新規就農者が定着するには、技術の早期習得とともにコスト削減、経営の安定化が急務となっている。

◎目指すべき姿

取組事項	現 状【5年度】	目指すべき姿【8年度】
新規栽培者の確保 栽培技術の早期習得 コスト削減と省力化 の両立	多野藤岡地域は、露地ナス及び促成イチゴの産地であり、地域農業生産の核となっている。 当地域の新規就農者は露地ナス栽培を選択する場合がほとんどであるが、昨今の資材高騰の煽りで所得率が低下している。新規就農者が定着するには、技術の早期習得とともにコスト削減、経営の安定化が急務となっている。	露地ナス新規就農者の新規栽培者の募集や就農相談会での推奨など、積極的な就農者の確保を行う。露地ナス栽培で営農を開始した新規就農者にはJAと連携して手厚くサポートするとともに、地域での就農支援体制の強化や新規就農者同士や、地域農業者とのネットワーク化をはかっていく。 併せて、露地ナス経営の体質強化に向けた検討が急務であることから、実証ほや調査を実施しながら、経営安定のための検討を継続していく。

2 事業内容

(1) データを活用した新規就農者に対する経営確立支援

<p>【基本的な考え方】（【対象の変化及び成果】）</p> <p>担い手担当者会議等により、市町村やJA等の関係機関の担当者と担い手の課題を共有化する。また、新規就農者育成と指導の効率化のため、クラウド版営農支援カルテ（電子カルテ）の整備を検討する。新規就農者を含めた若手農家のネットワーク化のため、Line等を活用した動きを支援する。このため、農業指導センターはタブレットを活用した情報発信を行いネットワーク化の支援を行い、情報交換による経営の安定化をはかっていく。</p>

① 重点指導対象農家等への個別支援

対象	対象人数
重点指導対象農家	21

うち、フォローアップ対象農家	7
----------------	---

実績報告時、別に定める様式による名簿を添付する。

② 新規就農者向け研修会・講座等の開催計画

開催時期	対象人数	活動内容
11月	15人	農業経営士の圃場の見学（土作りについて）
12月	15人	農業機械の使用方法について

(2) 総合的な就農支援体制の強化

<p>【基本的な考え方】（【対象の変化及び成果】）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営全体の相談を受けられるよう市、JAとの連携体制を整え、ワンストップ窓口による就農相談体制をさらに強化する。 ・露地ナス栽培1年目、2年目の生産者の、JAと連携した定期的な巡回指導を継続実施する。
--

総合的な就農支援体制の強化に係る会議、研修会等の開催計画

開催時期	構成員・人数	検討内容
5月	会議 市、JA	・新規就農者への就農支援について
9月	会議 市、JA	・新規就農者の所得確保のための複合モデルの提示

(3) 新規就農者同士や地域農業者とのネットワーク化

<p>【基本的な考え方】（【対象の変化及び成果】）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管内は農外からの参入者も多いことから、JA等と連携して生産部会での積極的な活動を促すとともに、若い新規就農者は農業青年組織への加入を進める。
--

交流会等の開催計画

開催時期	対象人数	活動内容
11月	15人	・ベテラン農家と就農して間もない農家との意見交換会を開催

(3) 女性農業者活動支援事業実施計画書

1 事業実施方針（点検評価）

管内では、多野藤岡農村女性ネットワークが組織され、農村生活研究グループ（藤岡市、奥多野地域）、農村生活アドバイザー、JA女性会等の女性組織と、女性農業委員・推進委員で構成されている。若手農村女性の組織は、「アグリジェンヌ」、農村女性と非農家で構成されている「チームひまわり」がある。さらに、組織に属さない若手農村女性もいる。

令和6年度は、女性農業者の経営参画、社会参画の促進及び男女共同参画社会推進の環境づくりを目指し、男女共同参画フォーラムや研修会を開催する。次代へ向けた若手農業者育成するため、養成講座や地域リーダーとの意見交換・交流会を開催する。

2 男女共同参画推進目標

目標項目	現 状 (5年度)	目 標 (6年度)	実績値 (年度)	備 考
・家族経営協定締結数	73戸	75戸		
・女性認定農業者の育成	9人	9人		
・農村女性起業数 (農村女性起業調査より)	26組織	26組織		

注1) 家族経営協定締結数、女性(共同)認定農業者数、農村女性起業数、市町村ビジョンの策定目標値を設定し、その他男女共同参画推進に係る目標項目については地域の実情に応じ設定のこと。

注2) 各数値の基準日は、3月末日とする。ただし、それ以外の基準日を用いる場合は、数値の下欄に基準年月日を記載すること。

3 事業実施計画

(1) 女性農業者等の経営参画・社会参画の促進及び男女共同参画推進の環境づくり

ア 男女共同参画推進対策検討会の開催計画

開催時期	構成員とその所属 (専門分野)	検 討 会 内 容	備 考
4月～3月	多野藤岡農村女性ネットワーク役員 (奥多野生活研究グループ連絡協議会 ・藤岡市さくら会・多野藤岡農村生活アドバイザーの会 ・JA たのふじ女性会・JA たのふじ理	総会並びに役員会で以下について検討する ・今年度活動計画について ・多野藤岡男女共同参画研修会の開催について 定期総会開催：1回 役員会開催：3回	

	事・藤岡市農業委員会・神流町農業委員会) 関係機関 (藤岡市農林課・藤岡市農業委員会事務局・高崎市吉井支所産業化・神流町産業建設課・上野村振興課・JA たのふじ総務課)		
--	---	--	--

注1) 先進地視察については、視察先を備考欄に記載のこと。

イ 女性の社会参画、経営参画促進のための研修会等の開催計画

開催時期	対象者・人数 (うち男性数)	講師とその所属 (専門分野)	内 容	備 考
1月	農村女性ネットワーク会員、農業農業委員、若手農村女性、関係機関・25人(1人)	日本防災士会群馬県支部	多野藤岡男女共同参画フォーラム ・災害時における対策、女性の役割について	

ウ 意見交換会の実施計画

開催時期	対象者・人数	内 容	備 考

エ 異業種女性・都市住民等との交流会実施計画

開催時期	対象者・人数 (うち男性数)	内 容	備 考
9月～10月	チームひまわりメンバー、近隣住民・5人	チームひまわり(芋ほり)遊休農地で栽培したサツマイモの収穫体験を行い、メンバーの親睦を深めるとともに地域住民と交流を行う。	

(2) 次代へ向けた若手女性農業者育成・対策

ア 若手女性農業者等養成講座の開催計画

開催時期	対象者・人数 (うち男性数)	内 容	備 考
5月～10月	若手女性農業者 等・10人	若手農村女性等養成講座 若手女性農業者の仲間づくりと農村リーダー の養成のための講座を開催する。	講師：1名

イ 若手女性農業者と地域リーダーとの意見交換会・交流会の開催計画

開催時期	参加者・人数 (うち男性数)	内 容	備 考
9月～11月	農村生活アドバイザ ーの会、農 業経営士会、若 手農村女性、若 鮎クラブ・10 人(5人)	農村生活アドバイザーと農業経営士の地域リー ダーと、若手農業者の交流と意見交換を行う場と して合同研修会を行う。	講師：アド バイザー経 験者等1名

(4) 令和6年度 気象災害対策強化普及推進 事業計画書

1 事業実施の基本方針

令和5年夏の猛暑では、水稻の高温障害が発生するとともに、露地野菜などでも一部で渇水による生育不良や収量低下がみられた。

また猛暑だけでなく、強風、降雪などの気象災害により、農業施設への被害の危険性は年々高まっており、施設園芸の農業用ハウスについては気象変動に対応するための補強など強化対策を図る。

2 目標及び導入しようとする新技術

導入しようとする気象災害対策技術の普及率	現 状 過去5年平均	目 標 令和6年度
水稻の適切な栽培による1等比率	76.6%	94.8%

3 事業内容

(1) 気象災害対策技術の普及推進

ア 技術対策検討会

実施時期	対象人数	対象地域 (作物)	検 討 内 容
7月	20人	水稻	適正な水管理
3月	20人	水稻	高温登熟対策

イ 先進地調査等の実施

実施時期	対象地域 (作物)	調 査 内 容
—		

ウ 現地実証ほ・調査ほの設置

実施時期	対象地域 (作物)	活 動 内 容
—		

※ 実証・調査ほを設置する場合には「協同農業普及事業実証ほ設置、実証モデル農業者設定要領」の別記様式により、計画書及び実績書を作成し提出すること。

(2) 技術研修会・講習会の開催

開催時期	対象人数	研 修 内 容
4月	50人	露地ナス栽培講習会（雹害対策含む）
8月	40人	小麦栽培講習会（適期収穫含む）
9～11月	15人	トマト栽培講習会（ハウス強化対策含む）
11月	20人	キュウリ栽培講習会（ハウス強化対策含む）
12月	30人	イチゴ栽培講習会（ハウス強化含む）

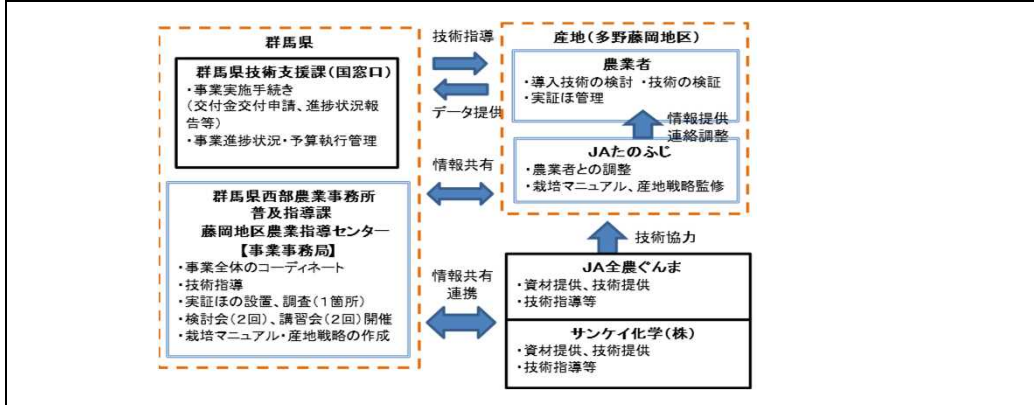
(5)令和5年度 グリーンな栽培体系への転換サポート実施計画書

第1 事業内容

1 事業の目的

藤岡地区の促成イチゴは、栽培戸数約70戸、栽培面積約10haの県内有数の産地である。歴史の長い産地であるため、連作障害対策が必須であり、特にネグサレセンチュウの被害は土壌消毒による防除対策以外の方法がない。本事業では、簡易な土壌処理による防除効果、省力化、化学農薬成分の削減について検証を行うとともに、栽培マニュアルを作成し、グリーンな栽培体系の普及を図る。

2 事業の実施体制



3 事業の概要

(1) 取組概要

取組内容	実施時期	回数	対象者・人数	備考
〈 検討会の開催 〉	5月、12月	2回	県、JA、生産者、 資材メーカー10名	
検討会(農業処理方法等の確認)	5月	1回	県、JA、生産者、メーカー10名	
検討会(実証結果の検討)	12月	1回	県、JA、生産者、メーカー10名	
〈 グリーンな栽培体系の検証 〉	6～11月	4回	県、JA、生産者、 資材メーカー10名	1か所で実証
病害虫調査	6月、7月	2回	-	
作業時間調査	6月	1回	農業者2名	
農薬成分調査	6月、7月	1回	-	
〈 栽培マニュアル・産地戦略の策定 〉	12～1月	1回	県、JA、生産者、 資材メーカー10名	マニュアル作成
〈 情報発信 〉	3月	1回	管内イチゴ生産者 50名	マニュアル配布
マニュアルの配布	3月	1回	管内イチゴ生産者	
〈 消費者理解の醸成 〉				

(2)グリーンな栽培体系の検証内容

区分	作業段階	新たに取り入れる技術とその効果	検証内容等
<input checked="" type="checkbox"/> 環境にやさしい栽培技術 <input checked="" type="checkbox"/> 省力化に資する技術	栽培終了後の土壌消毒処理 (定植前準備)	(取り入れる技術) 前作栽培終了後、既存の液肥混入機を活用して希釈したキルバーをマルチ内に散布する。 (環境負荷低減／省力化の効果の見込み) ・作業工程の削減(8回→3回) ・作業人数の削減(2～3人→1人) ・劇物農薬から普通物農薬への転換 (地域の慣行) ハウス内での毒物・劇物農薬(ディ・トラパック油剤等)のかん注処理及び処理後、複数人数による全面被覆処理	【温室内の農薬成分調査】 処理期間中の農薬有効成分を検知管で測定する。 【害虫調査】 処理前後の土壌中のネグサレセンチュウ数をベルマン法により計測する。 【作業時間調査】 処理に要した作業時間を調査する。
<input type="checkbox"/> 環境にやさしい栽培技術 <input type="checkbox"/> 省力化に資する技術		(取り入れる技術) (環境負荷低減／省力化の効果の見込み) (地域の慣行)	
<input type="checkbox"/> 環境にやさしい栽培技術 <input type="checkbox"/> 省力化に資する技術		(取り入れる技術) (環境負荷低減／省力化の効果の見込み) (地域の慣行)	

参考 1 普及活動実証ほ等一覧

	課題名	事業名又は実施主体	対象作物	担当者	箇所数
1	水稲除草剤のドローン散布による雑草防除の省力化の検討	協同農業普及事業	水稲	瀬下	1箇所
2	群馬県育成イチゴ品種「RG1」および「RG3」における品種特性(親株増殖)品種把握について	協同農業普及事業	イチゴ	飛田	1箇所
3	露地ナス栽培における天敵を活用した防除方法の確立	協同農業普及事業	ナス	清水	1箇所
4	主要農産物作況ほ(水稲)	主要農産物作況ほ	水稲	瀬下	1箇所
5	キルパー処理によるイチゴ古株枯死	グリサポ	イチゴ	飛田	1箇所

○実証ほとは、その地域における新技術を現地導入する際に効果を実証するほ場(一般的な実証ほ)のほかに、展示ほ(農業者に向けて栽培技術を確認してもらうほ場)や試験ほ、作況ほ等も含む。

○協同農業普及事業、協同農業普及事業関連予算、県単事業、その他団体等予算等で設置・運用した実証ほの箇所数を記入する。

※「協同農業普及事業関連予算」：中山間地ルネッサンス推進事業、ぐんま農業イノベーション推進事業等

※「県単事業」：気象災害対策強化普及推進事業、農業技術センター関連事業(適応性試験等)、耕畜連携・資源循環型農業推進事業、農業農村振興計画推進費、鳥獣害に強い集落づくり支援事業、農村整備課関連事業等

※「その他団体等予算」：全国農業システム化研究会事業、米麦大豆振興協会現地実証ほ設置事業、JA群馬中央会現地実証ほ設置事業、JA予算、植物防疫協会事業、協議会・研究会予算等

なお、その他団体等予算で行う場合は、主たる設置者に普及が関与し、運用や結果とりまとめ・公表主体に普及組織の名称が入るような場合は対象とする。

※上記には、報償費や必要費、使賃料等が伴わない予備試験的な実証ほも含む。

○実証ほの箇所数のカウント方法は、「品目」「技術体系」「実施箇所」等でカウントを行う。

※品種比較は一つの品目に対する実証と捉えカウントする。(同園地において違う品種を実証する場合は区別してカウントしない。)また、対照区と試験区は通常セットとして考えられるためこれらを一つのものとしてカウントする。

令和6年度GAP導入計画

OGAPの普及推進の基本方針
 JATトマト部会や米麦採取団等の団体を対象としたGAP手法による生産工程管理の定着については、従来どおり継続して取り組む。さらに、第三者認証取得および取得を目指す個人生産者に対しては、取得に向けた自己点検支援等、重点的に支援する

担当 事務所	第三者認証お よび取得済の 団体に属する 組織	組織名	構成 農家数	GAP実践 農家数	品目	GAP導入 状況	令和5年度 GAP導入 計画	①取組の状況		②農場点検の 会 審		③農場点検演習、PDCAサイ クルの実施		いつから 取組始めた か	GAP導入 報告時期	第三者認証取得 状況(例:JGAP、生 産GAP、イオンGA P)	現在の組織の状況 (把握してはいるが 認定で記入して ください)	支援内容
								取組進行 予定 (F1以上)	取組中 (F無し)	合意済み (F2以上)	合意して いない (F1)	実施して いる (F3以上)	実施して いない (F2以下)					
藤岡		JJA多野藤岡トマト部会	23		トマト	2		○		○			H21			同じ種のみとして、講習会で栽培 管理マニュアルの配布、説明、改 善点の洗い出し、項目見直しを 支援。		
藤岡		米麦採取団部会	11		米麦	1		○		○			H24			講習会で栽培管理マニュアルの配 布、説明、内容を説明しているが 回収していない。		
藤岡		JJA多野藤岡なす選果機利用部会	78		ナス	1		○		○			H25			講習会で栽培管理マニュアルの配 布、説明、内容を説明しているが 回収していない。		
藤岡		JJA多野藤岡小麦(さとのそら)生産者	220		小麦	2		○		○			H25			JJAにより農協マニュアル配 布、回収しているが、振り回りを 行っていない。		
藤岡		JJA多野藤岡吉井ナス出荷部会	76		ナス	1		○		○			H26			講習会で栽培管理マニュアルの配 布、説明、内容を説明しているが 回収していない。		
藤岡		JJA多野藤岡吉井施設園芸部会	20		キュウリ	1		○		○			H28			講習会で夏ほたそ両用野菜チェ ックシートを配布し、内容を説明 しているが回収していない。		
藤岡	○	あすばらハウス	1	1	アスパラガス・イチゴ	5		○		○			R1	R1	JGAP	定期的に自己点検支援 P2.3.4 JGAP認証取得 P4.2.13 更新	維持審査に向けてリスク評価、 自己点検支援	
藤岡	○	農事組合法人 キムラ農園	1	1	米麦・ネギ	5		○		○			R3	R3	JGAP	認証取得に向けた支援、継続審 査の実施 P4.2 JGAP認証取得(米・麦・ネ ギ)	維持審査に向けてリスク評価、 自己点検支援	
藤岡		JJA多野藤岡藤岡ねま部会	20		ネギ	1			○				R3			GAP導入(農場点検、チェック シート)について役員会にて了承 を得たが、部会内の合意形成お よびチェックシート配布はR4年度 以降。		

※①～③の○の位置について

- ①取組の状況について
 - GAP手法の導入を定着させるまで、農場点検導入(チェックリストによる点検、チェックリストの回収、改善点の洗い出し)の取組を行う予定の組織
 - GAP手法の導入を後継中で、GAP手法の定着から始める予定の組織
 - 取組を検討中(F無し)
- ②農場点検の合意形成
 - チェックリスト等による改善点の洗い出しに定着していない組織
 - 合意済み(F2以上)
 - 合意していない(F1)
 - F1以下の組織はこの欄に○を付ける。
- ③農場点検演習、PDCAサイクルの実施
 - チェックリスト等により、改善点を洗い出し、改善に活用している(チェックリストを配布、回収、改善点の洗い出し、改善に活用)。
 - 洗い出した改善点をまだ改善に活用していない(実施していない)→実施している(F3以上)、7割未満が実施ある程度実施している(F3以上)。
 - F2以下の組織はこの欄に○を付ける。

GAP導入フェーズ(令和3年度から)

- 1.取組を行う予定の組織
- 2.農場点検導入の合意形成
- 3.農場における点検演習、PDCAサイクルの実施(現状でカウント)
- 4.農場点検の実施、取組先との第二
5.第三者認証済みの組織(過去取得済のカウント)
- 6.第三者認証済みの組織(過去取得済のカウント)
- 7.第三者認証済みの組織(過去取得済のカウント)

※調査GAPについても言及。

※本年度(令和6)は言及しない。

富岡地区農業指導センター

目 次

I 普及活動の方針

1 重点方針	
(1) 農業・農村の現状と問題点
(2) 普及指導活動の重点方針
2 活動の推進方策	
(1) 活動体制
(2) 活動方法
3 体制図・課題整理図	
(1) 組織・活動体制図
(2) プロジェクト支援体制
(3) 「群馬県農業農村振興計画」と「普及課題」の整理図

II 普及活動の計画

1 普及課題	
(1) 課題整理表
(2) 農政重点課題	
ア 環境負荷低減に関する農業の推進
(3) 地域重点課題	
ア 松義台地を核とした中核的農業経営者の育成と畑作振興
(4) 専門課題	
ア 共通
イ 担い手支援係
ウ 生産指導係
エ 農畜産指導係（農畜産課）
オ 園芸指導係（担い手・園芸課）
2 各普及関係事業計画書	
(1) 協同農業普及事業
(2) がんばる新農業人応援事業
(3) 女性農業者活動支援事業
(4) 気象災害対策強化普及推進事業
(5) グリーンな栽培体系への転換サポート事業
参考：1 普及活動実証ほ一覽
2 G A P 導入推進計画

I 普及活動の方針

1 重点方針

(1) 農業・農村の現状と問題点

西部地域は、県の西南部に位置し、「高崎安中地域」「多野藤岡地域」「甘楽富岡地域」の4市3町2村からなり、高速道路や新幹線等の交通網が整備され、首都圏に近く恵まれた立地条件にある。

西部管内の耕地面積(令和3年農林水産省「面積調査」)は14,357ha、総農家数(2020年農林業センサス)は12,165戸である。それぞれ県全体の22%、29%を占めている。また、農家1戸当たりの耕地面積(中山間地域を抱え)は1.2haで県平均(1.6ha)より少ない。

西部管内は、標高60mの平地から900mの山間地まで農地が分布し、各地域それぞれの自然・立地条件の特色を活かし、野菜・果樹・花き・米麦・コンニャク・畜産など多品目にわたる多彩な農業が展開され、関係機関・団体等が一体となって生産振興に努めている。

各部門に共通する問題として、農業者の高齢化、担い手の減少、労働力不足、異常気象の恒常化による病害虫の多発や農作物の品質低下、中山間地域を中心とした耕作放棄地の増加や野生鳥獣による農作物被害があり、その対策支援が重要となっている。また、世界情勢の変化による資材価格の高騰やコロナ後の生活・消費スタイルの変化が地域農業全体に影響を及ぼしてきた。

さらに、管内での特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」や「モモヒメヨコバイ」の発生、天候不順や気象災害の発生、県内畜産での特定家畜伝染病(CSF、鳥インフルエンザ)の発生など、不測の事態に対し、緊急かつ迅速な対応が求められる事案が増加している。

国では令和2年度に新たな「食料・農業・農村基本計画」を閣議決定し、「食料の安定供給の確保」「農業の持続的な発展」「農村の振興」を3つの柱に施策を展開している。

また、令和3年に「みどりの食料システム戦略」が策定され、それを受けて、令和4年6月に国の協同農業普及事業の実施についての考え方(ガイドライン)が改正された。今後、ガイドラインに示された農業のDX化や環境負荷低減に資する栽培体系の推進等、普及指導員の果たす役割は一層重要になっていく。

これら「みどりの食料システム戦略」やガイドライン等の農政の動きを踏まえつつ、群馬県農業農村振興計画2021-2025の目標の実現に向け、担い手の確保・育成のため、市町村など関係機関と連携した就農体制の整備を図る。さらに、環境負荷低減の取組とICT等の先端技術を組み合わせた、本県農業の持続的な発展に向け効果的・効率的な普及活動を展開する。

このような社会状況や課題を踏まえ、各地域での現状や問題点を明らかにし、解決に向けたベストマッチを普及活動計画へ反映していく。

ア 高崎安中地域

高崎安中地域は高崎市と安中市からなり、高崎市街地近郊の平坦地域では、広域麦作農事組合からステップアップした法人経営体への運営支援並びに飼料用米、飼料イネの導入等による水田経営の安定、耕畜連携等が求められている。また、施設園芸では、トマトやイチゴ等の果菜類、シクラメン、花壇苗等の花き類が盛んであり、一部には、環境制御技術の導入や輸出の取組が進んできている。野菜類では、ナス、ネギなど県重点推進品目及びタマネギ、チンゲンサイ、ブロッコリーなど地域推進品目の生産拡大を進めるとともに、GAP、IPM及び環境保全型農業の普及にも取り組んでいる。

榛名山南麓を中心とした中山間地域は、ナシ、ウメ、プラム、モモの生産が盛んで、県内でも有数の果樹産地が形成されている。消費者ニーズにあった高品質果実生産、新品種の導入や改植による生産性回復、6次産業化の推進、販売促進PRが課題となっている。

畜産では、生産基盤を強化するため、特定家畜伝染病対策の徹底、飼養頭数の増加やブランド力向上とともに、輸入飼料価格の高騰に伴う飼料作物の自給、域内生産による利用の拡大が喫緊の課題となっている。

また、高崎市倉渕地区では、有機野菜の組織的な生産が行われており、新規の就農希望者等への支援体制も整っていることから、担い手の確保、有機野菜の生産拡大を進める機運が高まっている。

安中市は、碓氷川、九十九川流域の水田、畑作地帯と中山間地域からなり、野菜、畜産、米麦、コンニャクなどの複合経営が中心である。野菜類は、露地ナス、ネギを重点品目に掲げて推進するとともに、タマネギ等の加工・業務用野菜の拡大やズッキーニ、プチベールなど新興品目の導入・定着に向け、重点的に取り組んでいる。令和2年には310ha規模の松義台地基盤整備事業が完了し、基幹作物のコンニャクを中心に作付されているが、近年は資材価格の高騰によるコスト高や生玉販売価格の低迷により、コンニャク農家は厳しい経営を強いられている。今後、補完作物の導入や生産コスト削減に向けた取組が急務となっている。

イ 多野藤岡地域

多野藤岡地域は、高崎市新町・吉井町、藤岡市、上野村、神流町からなり、比較的平坦な地域と山間地域とに大別される。

高崎市新町・吉井町、藤岡市の平坦地域では、米麦を中心とする水田農業、トマト・キュウリ・イチゴ・洋ラン等の施設園芸、ナス・ネギ等の露地野菜及び畜産（乳牛・肉牛・豚）が主要品目となっている。また、高速自動車道や主要幹線道路の沿線に道の駅や農産物直売所を整備し、直売向け農産物の生産も盛んにおこなわれている。しかし、担い手の高齢化が進み、農業従事者は減少傾向にあるため、新たな担い手の確保・育成、女性農業者の育成・経営能力向上等が求められている。

水田農業では、農事組合法人及び個別経営体の経営安定や体質強化が課題となっている。施設園芸や露地野菜では、安全・安心な農産物の供給、持続的な農業生産を推進していくため、ほ場管理技術、IPM技術及びGAP手法の導入、活用が求められている。これまで、イチゴやトマト、キュウリ、ナス等の果菜類では産地ビジョンの策定と、それに基づいた支援を行ってきたところであるが、さらに生産性向上に向けた支援が必要である。

一方、上野村及び神流町の奥多野地域では、狭く急傾斜な地形で、ほ場条件が悪く生産性が低いことから、農業の担い手の減少や高齢化が顕著となっている。「地域を守るやりがい・生きがい農業」の創出と地域の活性化が課題であり、多様な担い手の確保・育成、並びに地域特産物振興や加工品の開発支援が求められている。

ウ 甘楽富岡地域

甘楽富岡地域は、富岡市、下仁田町、南牧村、甘楽町からなり、標高115mから700mに耕地が広がっており、その面積の8割を畑地が占める中山間畑作地帯である。

本地域は、県内有数のコンニャク産地であるが、その生産の中心は安中市等に基盤整備された耕地（松義台地等）である。園芸部門では、地域特産の下仁田ネギ、その他、ナス、タマネギ、イチゴ、キュウリ、ニラなどの産地が形成され、JAが推進するインショップ販売を利用した、野菜の少量多品目生産が盛んである。果樹では、キウイフルーツ、リンゴ、花きでは、バラ、トルコギキョウ、花壇苗、鉢物ペゴニアなどのほか、山間の高標高

地を利用して、コギク、枝もの、山野草が生産されている。

また、古くから有機農業に取り組む農家が多い地域であり、令和5年10月20日、甘楽町が「オーガニックビレッジ宣言」を行い、県内最初のモデル地区に認定された。オーガニックビレッジの推進に伴い、有機農業者の確保や農産物の流通・販売に関わる支援が求められている。

担い手の高齢化の進展により、就農者の確保がたいへん重要な課題となっており、関係機関との連携をさらに強化し、担い手の確保・定着の体制を盤石なものとする必要がある。また、野菜では、気候変動や消費者ニーズに対応した安定生産技術や環境負荷低減技術の普及が求められており、コンニャクでは、越冬栽培の拡大、経営補完作物の導入による収益力強化が課題となっている。

更には、増加の一途をたどる鳥獣害や耕作放棄地への対策が急務となるだけでなく、特産物の開発・加工等、観光振興と一体となった支援策が求められている。

(2) 普及指導活動の重点方針

農業・農村を取り巻く環境は、国際情勢などを背景に、農業従事者の減少や高齢化の進行、労働力不足、資材価格等の高騰など、大きく変化している。

「群馬県農業農村振興計画 2021-2025」の基本目標である「未来に紡ぐ！豊かで成長し続ける農業・農村の確立」を目指し、「群馬県協同農業普及事業の実施に関する方針（令和3年3月）」を踏まえた、「施策の推進方策」、「西部地域農業の振興方向（地域重点プロジェクト）」等の取組を地域課題として重点化し、さらに“有機農業”を農政重点課題に位置付け、関係機関等との連携を一層強化し、効果的・効率的かつ積極的に活動を展開する。

ア 基本的な課題

- (ア) 農業の持続的な発展に関する支援
- (イ) 農村の振興に関する支援
- (ウ) 食料の安定供給の確保に関する支援

イ 高崎安中地域

- (ア) 榛名地域を核とした果樹産地の活性化
- (イ) 安中市の畑地活用によるコンニャク農家の経営改善
- (ウ) 有機農業の拡大支援

ウ 多野藤岡地域

- (ア) 多野藤岡地域農業の多様な担い手確保と育成
- (イ) 平坦野菜産地（イチゴ・露地ナス）の生産技術強化
- (ウ) 奥多野農村地域の担い手育成と農業振興
- (エ) 消費者理解による安全・安心な農業の推進

エ 甘楽富岡地域

- (ア) 環境負荷低減に関する農業の推進
- (イ) 松義台地を核とした中核的農業経営者の育成と畑作振興

2 活動の推進方策

(1) 活動体制

ア 組織体制

専門活動を効率的に展開するため、担い手支援係、生産指導係を配置する。

なお、畜産・農業経営・果樹・花きについては、西部農業事務所農畜産課及び担い手・園芸課の担当が広域活動を行う。

イ 専門分担活動とプロジェクト活動併用方式

活動体制は、専門的な課題に対応した専門活動と、地域的・総合的・広域的な課題に対応したプロジェクト活動との併用方式とする。

ウ 地域戦略の設置

地域戦略担当（次長）を設置し、国や県の施策を生産現場等への円滑な推進を図る。

エ 市町村担当およびJ A担当の配置

市町村及びJ Aとの緊密な連携を図るため、市町村・J A担当者を設置する。

(2) 活動方法

ア 地区センター内での連絡調整

普及活動の円滑な推進とセンター内の連携強化を図るため、以下の会議等を開催するとともに、各課との調整を図る。

- | | |
|--------------|----------|
| (ア) 普及指導員会議 | 毎月1日 |
| (イ) 普及企画会議 | 毎月25日 |
| (ウ) プロジェクト会議 | 随時 |
| (エ) 係会議 | 随時 |
| (オ) 朝会 | 毎朝8時30分～ |

イ 専門分担活動

専門担当者は専門項目を分担し、農業者や地域課題ならびに農業団体の要請に配慮し、地域の特性を活かした専門活動を展開する。

ウ プロジェクト活動

プロジェクト活動のメンバーは計画に基づいて、各専門担当の立場から課題解決に取り組み、総合力を発揮した活動を展開する。

エ 市町村及びJ Aとの連携

市町村・J A担当者は、各関係機関の窓口として管内の農業振興を円滑に推進するため、緊密な連携のもと連絡調整に当たる。

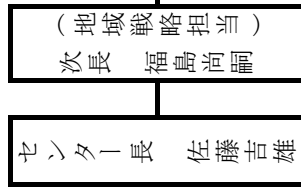
オ 先進的農業者等との連携

多様化する課題に対して、農業経営士、農村生活アドバイザー等を普及指導協力委員に位置づけ効率的な普及活動を展開する。

カ 情報活動の強化

農業者等のニーズに的確に対応するため、D Xの活用により、情報の収集・保管・提供の強化と効率化を図る。

3 体制図・課題整理図
 (1) 組織・活動体制図



係名	職名	氏名	専門担当	市町村 JA担当	主な事務担当
担い手支援係	係長	川端 善彦	担い手	富岡市	農業経営士協議会、学校連携
	主幹	古澤 安紀子	担い手	南牧村	農業青年、農業金融、ホームペーシ、がんばる新農業人応援事業
	主任	横山 薫	担い手	甘楽町	農村女性関係、農村起業（農産加工）
生産指導係	係長	日戸 正敏	野菜	JA甘楽富岡	農業気象災害、気象災害対策強化普及推進事業、試験研究
	主任	丸山 達也	普通作物		経営所得安定対策、土壌肥料、病害虫・農薬
	技師	高橋 陸	工芸作物	下仁田町	こんにやく研究会、スマート農業、鳥獣害対策、農福連携
	主幹専門員	土屋 裕司	野菜		農作業安全、農業機械、公用車管理、GAPの普及推進

西部農業事務所				
課名	係名	職名	氏名	
農畜産課	農畜産指導係	補佐	熊川 保弘	
		主任	横堀 卓人	
担い手支援係	担い手支援係	係長	永井 三重子	
		主任	佐藤 匠	
	園芸指導係	補佐	三ツ石 昌幸	
		主任	斎藤 拓真	
		主任	宮下 直矢	
	担い手・園芸課	園芸指導係	技師	中嶋 俊介
			主幹専門員	小山 千明

(2) プロジェクト支援体制

プロジェクト名	内 容	関係機関	担当
<p>こんにゃく栽培を中心とした松義台地等の農業振興</p> <p>(農業農村振興計画 地域重点プロジェクト A)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の話し合いによる担い手への農地集積・集約の推進 ・ こんにゃく生産組織支援等による中核的農業経営者の確保・育成 ・ 持続可能なこんにゃく栽培技術の定着による栽培・経営支援 ・ 栽培に適した農業用排水路等の利用促進 	<p>市町村</p> <p>J A 甘楽富岡</p> <p>蚕糸特産課</p> <p>農畜産課</p> <p>担い手・園芸課</p> <p>農村整備課</p>	<p>福島</p> <p>日戸</p> <p>高橋</p>
<p>いちご産地活性化</p> <p>(農業農村振興計画 地域重点プロジェクト C)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ いちご新規栽培者の確保・育成 ・ ICT等技術導入による生産性品質向上 ・ IPM 技術導入による環境に優しい農業への取組 ・ GAP 導入による経営改善 	<p>J A 甘楽富岡</p> <p>J A 全農ぐんま</p> <p>野菜花き課</p> <p>ぐんまブランド推進課</p> <p>担い手・園芸課</p> <p>藤岡地区センター</p> <p>農業技術センター</p>	<p>日戸</p> <p>土屋</p>

※プロジェクトは、普及課題（支援事項等）に活動内容が含まれるもののみ記載する。

(3) 「群馬県農業農村振興計画」と「普及課題」の整理図



II 普及活動の計画

1 普及課題

(1) 課題整理表

◎は進行管理者

分類	課題名及び支援事項	担当	国の重点課題	課題番号
重点課題	<p>[環境負荷低減に関する農業の推進]</p> <p>1 有機農業の推進</p> <p>(1)有機農業経営調査</p> <p>(2)有機栽培技術集</p> <p>(3)有機生産者との連携</p> <p>(4)有機米新規取組者への支援</p> <p>(5)有機新規参入者の受入れ</p> <p>2 環境負荷低減による持続可能な農業の推進</p> <p>(1)環境負荷低減技術の普及</p> <p>(2)環境負荷低減の組織支援</p>	◎次長 川端 古澤 横山 日戸 丸山 高橋 土屋	d d	1
地域重点	<p>[松義台地を核とした中核的農業経営者の育成と畑作振興]</p> <p>1 組織活動支援を通じた中核的農業経営者の確保・育成</p> <p>2 持続可能なコンニャク栽培技術の定着及び産地支援</p> <p>3 松義台地における畑作振興と耕作放棄地対策</p>	◎日戸 川端、古澤 高橋、土屋	b、d	2
専門課題	<p>1 耕畜連携の推進</p> <p>2 スタートアップ企業等と連携した新たな技術の導入支援</p> <p>3 農畜産物のブランド化、輸出支援</p> <p>4 気象災害被害防止対策の推進</p> <p>5 農作業安全（GAPの推進）</p> <p>6 農業経営・就農支援センターを活用した経営発展支援</p> <p>7 広域連携体制の強化</p> <p>8 鳥獣被害対策の支援</p>	◎次長 全員	b c a	3
担い手支援係	<p>1 関係機関等連携による 就農支援</p> <p>2 新規就農者の定着支援</p> <p>3 意欲ある経営体の確保育成</p> <p>4 農業農村の男女共同参画推進支援</p> <p>5 地域における女性リーダーの活動支援</p>	◎川端 古澤 横山		4
生産指導係	<p>1 米麦大豆の生産安定と品質向上</p> <p>(1)水稲の品質向上</p> <p>(2)麦の品質向上</p> <p>(3)大豆の生産安定</p> <p>2 イチゴ産地活性化(※4, 7, 10)</p> <p>3 露地ナスの新規栽培者支援と産地技術向上(※5)</p> <p>4 タマネギにおける生産安定</p> <p>5 下仁田ネギの産地維持</p> <p>6 少量多品目産地の維持・強化(※1, 3, 8, 9, 11, 12, 13, 16)</p>	◎日戸 丸山 高橋 土屋	b、d b、d	5
農畜産指導係	<p>1 優良堆肥生産の推進</p> <p>2 WCS用イネの作付推進</p> <p>3 畜産農家の経営分析及び支援</p> <p>4 和牛繁殖経営の安定支援</p>	◎熊川 横堀	e	6

園芸指導課係	1	ウメの生産安定と品質向上	◎三ツ石 斎藤 宮下 中嶋 小山	7
	2	キウイフルーツ産地維持に向けた成木樹の樹勢強化と産地PR		
	3	有機オリーブ産地づくりの推進		
	4	切り花の栽培技術向上と生産安定 (1) 南牧村産地維持のための担い手確保と生産振興 (2) バラの生産性向上 (3) トルコギキョウの生産安定		
	5	各種鉢花生産の経営改善 (1) 難防除病害虫防除によるシクラメンの生産安定 (2) コナジラミ防除による鉢物ベゴニアの生産安定 (3) 鉢物カーネーションの需要期出荷技術支援		
国の重点施策 a:GAP b:スマート農業 c:輸出促進 d:環境負荷低減(みどり戦略) e:水田高収益作物転換				

○ぐんま農業新技術・普及指導員資料に関連する技術

- ※1 C02濃度および湿度の不足を補うことで促成キュウリは増収する (H28ぐんま農業新技術)
- ※2 ネギ黒腐菌核病の感染・発病温度 (H28普及指導員資料)
- ※3 ネギ栽培におけるオオムギ間作による土着天敵を利用したネギアザミウマ密度低減効果
(H28ぐんま農業新技術)
- ※4 イチゴに発生したナミハダニに対する各種薬剤の薬剤感受性 (H29普及指導員資料)
- ※5 露地ナスに発生したナミハダニ黄緑型に対する各種薬剤の薬剤感受性 (H29普及指導員資料)
- ※6 アミスルブロム水和剤とムギ類全面散播被覆栽培との組み合わせによるコンニャク根腐病の防除 (R1ぐんま農業新技術)
- ※7 イチゴ「やよいひめ」を増収するためのC02施用法 (R1ぐんま農業新技術)
- ※8 施設キュウリ抑制栽培で使用される主要品種のキュウリうどんこ病発病の品種間差
(R1普及指導員資料)
- ※9 施設キュウリ促成栽培で使用される主要品種におけるキュウリ褐斑病発病の品種間差
(R1普及指導員資料)
- ※10 イチゴ県育成品種の水分、有機酸、アミノ酸および総ポリフェノールによる分類
(R2普及指導員資料)
- ※11 キュウリ栽培における白黒マルチ被覆の増収効果と留意点 (R2普及指導員資料)
- ※12 環境制御を行っている施設キュウリにおけるかん水・追肥の増量による増収効果
(R2普及指導員資料)
- ※13 環境制御器を導入した施設キュウリ栽培における年間40どり (R2普及指導員資料)
- ※14 高糖分高消化性稲WCSと大麦WCSを組み合わせた乳生産 (R3技術情報資料)
- ※15 コンニャク主要品種「あかぎおおだま」、「みやままさり」におけるカリ吸収量の推移
(R4技術情報資料)
- ※16 ハウスのニラ栽培終了後のニラ残渣に生存するネギネクロバネキノコバエの防除
(R4ぐんま農業新技術)

分類：農政重点課題 課題番号：1

課題名	環境負荷低減に関する農業の推進
支援対象	管内生産者、各生産部会、研究会、富岡市、下仁田町、南牧村、甘楽町、J A甘楽富岡
課題設定の背景及び理由	<p>甘楽富岡地域は、有機農業が盛んな地域で、22名のJ A S有機認証者が活躍している。栽培されている品目は、その多くが野菜であり、次いで果樹（キウイフルーツ）、水稻、大豆にも取り組んでいる。特に、甘楽町では甘楽町有機農業研究会が組織的に活動を行い、県内でも有数な有機農業の産地となっている。昨年10月に甘楽町は、群馬県内初のオーガニックヴィレッジ宣言を行い、有機農業実施計画を策定し有機農業産地として取り組んでいる。</p> <p>有機農業に関しては、経営的・栽培的な技術を取りまとめた知見が少ないのが現状である。そのため、関係機関が協力して推進していくことが重要となっている。</p> <p>環境負荷低減関係では、「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」を活用し、昨年度は、地域特産物である下仁田ネギで「緑肥導入実証ほ」を設置して、土着天敵によるアザミウマ類の発生抑制を確認し、その栽培マニュアルを作成した。今後は、作成したマニュアルを元に環境負荷低減を地域への波及が求められている。</p> <p>また、今年度、新たに水稻で側条施肥技術、コンニャクではネコブセンチュウ対策に取組み、一層の環境負荷低減を目指す必要がある。</p>
支援事項と解決手法	<p>1 有機農業の推進</p> <p>管内有機JAS生産者に対して栽培状況の聞き取りや有機農業に関する情報提供等を行い、連携構築を図る。また、甘楽町オーガニック推進協議会に参画すると共に、有機米新規取組者並びに新規参入者受け入れについて支援を行う。</p> <p>2 環境負荷低減による持続可能な農業の推進</p> <p>コンニャク栽培ではネコブセンチュウ対策の実証ほを設置し、緑肥の導入を図る。また、JA甘楽富岡が行っている特別栽培農産物について、講習会等で生産者へ情報提供を行う。</p> <p>グリーンな栽培体系への転換では、稲作で側条施肥田植機や箱施用型殺虫殺菌剤の実証ほを設置し、作業時間の短縮や肥料の効率的利用について効果を検証する。</p>

<普及指導活動年度計画（令和6年度）>

進行管理：次長

支援事項 【支援対象】	評価指標		担当
	成果指標	活動指標	
1 有機農業の推進			次長
(1) 有機農業経営調査 【堀込農園】	有機農業事例数 1	有機農業者経営調査 1戸	日戸
(2) 有機栽培技術集 【堀込農園】	有機栽培技術取りまとめ数 1	有機農業者技術調査 1戸	丸山
(3) 有機生産者との連携 【コンニャク生産者・野菜生産者・有機栽培生産者】	有機栽培生産者との連携構築 4戸	有機栽培生産者への情報提供 8回 有機害虫対策実証ほ[協同農業] (下仁田ネギ) 1箇所	高橋 土屋
(4) 有機米新規取組者への支援【有機米生産者】	有機米新規取組生産者 2戸	有機米生産者への情報提供 2回	
(5) 有機新規参入者の受入れ【甘楽町オーガニック推進協議会】	有機栽培組織との連携構築 1組織	就農支援情報提供 随時 就農マニュアル作成検討 3回	川端 古澤

<p>2 環境負荷低減による持続可能な農業の推進</p> <p>(1) 環境負荷低減技術の普及</p> <p>ア 工芸作物 【コンニャク生産者】</p> <p>イ 水稲（グリーンな栽培体系への転換） 【丹生湖生産組合】</p> <p>(2) 環境負荷低減の組織支援 【特別栽培農産物生産者等】</p>	<p>緑肥輪作取り組み農家 2戸</p> <p>側条施肥・除草剤・箱施用型殺虫殺菌剤同時施用田植機導入組織 1組織</p> <p>支援組織 1組織</p> <p>支援品目 3品目</p> <p>特別栽培基準値達成農家率 100%</p>	<p>緑肥活用研修 2回</p> <p>ネブセチュウ緑肥効果実証ほ 1箇所 [協同農業]</p> <p>側条施肥・除草剤・箱施用型殺虫殺菌剤同時施用田植機実証ほ設置 [グリサポ] 1箇所</p> <p>講習会 1回</p> <p>実演会 1回</p> <p>視察研修会 1回</p> <p>各種講習会または情報提供 (ニラ、ジャガイモ、タマネギ等) 各組織・品目 1回以上</p>	<p>日戸 丸山 高橋 土屋</p>
<p>関連事業名：有機農業推進事業、グリーンな栽培体系への転換サポート事業</p>			

課題名	松義台地を核とした中核的農業経営者の育成と畑作振興							
支援対象	農業経営士会、農業青年組織、甘楽富岡こんにゃく研究会、Team West、JA甘楽富岡蒟蒻生産部、JA甘楽富岡各生産部会、松義台地耕作者、市町村、JA甘楽富岡							
課題設定の背景及び理由	<p>甘楽富岡地域では、松義台地土地改良区を中心にコンニャクを基幹とした畑作振興を進めている。しかし、近年農業資材費高騰や高齢化により、離農が進んでおり、今後はさらなる担い手の減少が予測されると共に、今後耕作放棄の面積が拡大していくことが予想される。</p> <p>こうした背景において、各種組織活動支援を通じた、地域を担うリーダー的農家の潜在候補者の洗い出しと育成が必要である。また、耕作放棄地対策として現在土地利用型作物として導入されているコンニャクの産地支援を行うとともに、転換品目として新規土地利用型作物の提案や複合品目として導入されている野菜類(上州ネギ、秋冬ネギ等)の作付面積拡大の推進を行う必要がある。</p>							
支援事項と解決手法	<p>1 組織活動支援を通じた中核的農業経営者の確保・育成 組織活動支援を通じて、中核的農業経営者を各種組織構成員や新規就農者等の中から掘り起こしを行い、重点的な栽培指導および経営指導等を行い、中核的農業経営者を確保・育成する。その上で、中核的農業経営者の中から地域を担うリーダー的農家を発掘し、新規農業経営士や青年農業士の確保育成を行う。</p> <p>2 持続可能なコンニャク栽培技術の定着及び産地支援 松義台地等を中心とするコンニャク産地維持のため、環境負荷低減栽培や堆肥活用等の持続可能なコンニャク栽培を推進するとともに、ほ場越冬栽培技術の定着を行う。</p> <p>3 松義台地における畑作振興と耕作放棄地対策 松義台地の遊休農地や耕作放棄地対策として、新たな土地利用型作物の選定および野菜類の作付拡大を推進するために、関係機関と連携した販路確保等を行い、新規土地利用型作物の栽培支援を行う。また、農業事務所内関係部署およびJA、市との連携による農地集積や営農状況等の情報の共有化を図り、産地化を目指す。</p>							
目標年次の姿(ビジョン)	<p>中核的農業経営者を各種組織構成員から掘り起こしを行い、中核的経営者の中から地域を担うリーダー的農家を発掘し、新規農業経営士および青年農業士の確保育成を行う。</p> <p>持続可能なコンニャク栽培のためにほ場越冬栽培及び土壌消毒削減栽培を推進する。</p> <p>松義台地耕作放棄地対策として新たな土地利用型作物の選定を行う。</p>							
	年次	R5	R6		R7		R8	
目標		(現状)	(目標)	(実績)	(目標)	(実績)	(目標)	(実績)
新規農業経営士・青年農業士(名)		0	1		2		3	
土壌消毒削減農家数(名)		0	1		3		6	
コンニャク栽培に占めるほ場越冬栽培率(%)		7	8		9		10	
松義台地耕作放棄地率(%)		14	13		12		11	
新規土地利用型作物(品目)		0	0		1		2	
ビジョン達成までの行程	支援事項【支援対象】	主な活動			R6	R7	R8	
	1 組織活動支援を通じた中核的農業経営者の確保・育成【農業経営士会、農業青年組織、甘楽富岡こんにゃく研究会、Team West、JA甘楽富岡蒟蒻生産部、JA甘楽富岡	各種組織活動支援 農業経営士・青年農業士認定支援 農業経営士・青年農業士候補者リスト作成			←			→
					←			→
					←			→

	各生産部会、市町村】				
2	持続可能なコンニャク栽培技術の定着及び産地支援 【甘楽富岡こんにゃく研究会、JA甘楽富岡蒟蒻生産部】	コンニャク作付・病害調査 ほ場越冬栽培導入支援 土壌消毒削減実証ほ場の設置	←	→	←
3	松義台地における畑作振興と耕作放棄地対策 【松義台地耕作者、富岡市、JA甘楽富岡】	新規土地利用型作物検討会 コンニャク複合化経営マニュアル作成 松義台地作付・病害調査	←	→	←

<普及指導活動年度計画（令和6年度）>

進行管理：日戸

支援事項 【支援対象】	評価指標		担当
	成果指標	活動指標	
1 組織活動支援を通じた中核的農業経営者の確保・育成 【農業経営士会、農業青年組織、甘楽富岡こんにゃく研究会、Team West、JA甘楽富岡蒟蒻生産部、JA甘楽富岡各生産部会、市町村】	組織活動支援を通じた候補者の掘り起こし 3名 新規農業経営士・青年農業士 0→1名	組織活動支援 21回 (地区こんにゃく研究会5回、Team West4回各こんにゃく農研6回、農業経営士3回、農業青年組織3回) 新規農業経営士等候補者巡回 4回 候補者を経営士活動に参加誘導 2回	川端 高橋 次長 古澤 日戸
2 持続可能なコンニャク栽培技術の定着及び産地支援 【甘楽富岡こんにゃく研究会、JA甘楽富岡蒟蒻生産部】	土壌消毒削減農家 0→1名 コンニャク栽培に占めるほ場越冬栽培率 7→8% コンニャク病害10%以上のほ場 27%→22%	土壌消毒削減代替農薬実証ほ場 [グリサポ] 1箇所 土壌消毒削減農家巡回 7回 土壌消毒削減研修会 2回 越冬栽培実証ほ場[協同農業] 1箇所 ほ場越冬栽培新規導入農家巡回 5回 ほ場越冬栽培推進研修会 2回 ほ場越冬栽培生玉流通に係る関係者打ち合わせ 2回 タブレットを活用した作付・病害調査 2回 ドローン空撮を活用した病害診断 3回 種芋選別指導巡回 3回	高橋 日戸
3 松義台地における畑作振興と耕作放棄地対策 【松義台地耕作者、富岡市、JA甘楽富岡】	松義台地耕作放棄地率 14→13% 新規土地利用型作物検討品目 1品目 野菜複合農家の掘り起こし 3人	松義台地関係者打ち合わせ 5回 松義台地営農推進会議 3回 富岡市・JA甘楽富岡営農推進会議 1回 新規土地利用型作物選定会議 5回 新規土地利用型作物候補視察 1回 野菜複合農家調査 1回	高橋 次長 土屋 日戸

	野菜複合農家巡回 野菜複合化展示ほ [協同農業]	7回 1箇所
--	--------------------------------	-----------

関連プロジェクト名：グリーンな栽培体系への転換サポート
農業農村振興計画地域重点プロジェクトA「こんにやく栽培を中心とした松義台地等の農業振興」

年間スケジュール

支援事項	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 組織活動支援を通じた 中核的農業経営者の確 保・育成	【組織活動支援】											
	甘楽富岡こんにやく研究会 総会、夏期研修会、立毛共進会、冬期研修会											
	Team West 試験ほ設置、若手組織合同研修会、視察研修会											
	各地区こんにやく研究会 作況ほ・実証ほ・試験ほの設置、各種研修会											
2 持続可能なコンニャク 栽培技術の定着及び産地 支援	【土壌消毒削減】											
	実証ほの設置・調査											
	●研修会											
	●研修会											
3 松義台地における畑作 振興と耕作放棄地対策	【ほ場越冬栽培】											
	実証ほの設置・調査											
	●推進研修会											
	●関係者打ち合わせ ●関係者打ち合わせ ●推進研修会											
3 松義台地における畑作 振興と耕作放棄地対策	【病害調査】											
	●作付・病害調査 ●作付・病害調査											
	●空撮 ●空撮 ●空撮											
	●富岡市・JA甘楽富岡営農推進会議											
3 松義台地における畑作 振興と耕作放棄地対策	【新規土地利用型作物】											
	●選定会議 ●選定会議 ●選定会議 ●選定会議 ●選定会議											
	●視察											
	【野菜複合】											
展示ほ設置・調査												
●複合農家調査												

(3) 専門課題

分類：専門、共通 課題番号：3

支援事項 【支援対象】	評価指標		担当
	成果指標	活動指標	
1 耕畜連携の推進 【コンニャク生産者・ 野菜生産者】	堆肥等活用による化成肥料減肥農家 1→2戸 研修参加延べ人数 50名	堆肥利用促進研修 3回 堆肥活用情報提供 5回	日戸 丸山 高橋 土屋
2 スタートアップ企 業等と連携した新た な技術の導入支援	新技術の情報収集、連携 1企業 スマート農業支援技術数 1技術	ピッチイベント等への参加 1回 ピッチイベントPR 3回 新技術情報の紹介 2回 マッチング農家支援 2回 直進アシストトラクター情報提供 1回	次長 全員
3 農畜産物のブラン ド化、輸出支援 【管内農業者】	Gアナ品目の支援数 2品目 輸出に向けた課題の洗い出し輸出に 取り組む品目数 1品目	品質向上支援(イチゴ、ナス) 10回 輸出業者との情報交換 2回 (コンニャク) 輸出促進セミナー等の情報提供 2回	次長 全員
4 気象災害被害防止 対策の推進 【施設園芸生産者】	被害発生件数 0件	講習会等による注意喚起 6回 セーフティネット情報提供 2回	日戸 土屋
5 農作業安全(GA Pの推進) 【管内農業者】	農作業死亡事故発生件数 0件 農薬基準値超過事案発生件数 0件	講習会等による注意喚起 30回 JA広報誌における情報提供 2回 各部会講習資料におけるGAP情報提 供 5回	土屋 全員
6 農業経営・就農支援 センターを活用した 経営発展支援 【農業経営・就農支援 センター 重点指導農 業者】	農業経営戦略作成・見直し農業者数 3件	所内支援検討会議 1回/人 支援会議の開催 3回 伴走支援の実施(3人×5回) 15回	次長 全員
7 広域連携体制の強 化 【市町村、JA】	情報の共有化による農業振興支援 (地域計画を含む) 4市町村・JA	甘楽富岡農業振興会議 1回 普及計画説明会(各市町村毎) 4回	次長
8 鳥獣被害対策の支 援 【富岡市相野田地区】 【管内農業者】 【関係市町村】	鳥獣対策実施組織 1組織	加害出没調査 1カ所 巡回指導 3回 被害対策協議会 3回 JA広報誌における啓発 1回	高橋 日戸
関連事業名：資源循環利用推進事業、ぐんまAgri×NETSUGEN共創事業、ニューノーマルに対応した 県農畜産物等PR事業、園芸産地における事業継続強化対策、GAPの普及推進、農業経営・ 就農サポート推進事業、鳥獣害に強い集落づくり支援事業			

支援事項 【支援対象】	評価指標		担当
	成果指標	活動指標	
1 関係機関等連携による 就農支援 【市町村、JA甘楽富岡、 研修受入農業者組織、新 規就農希望者】	就農支援体制の機能強化 1体制 経営モデル案の作成 4モデル 新規就農者数(65歳以下) 12人 認定新規就農者数 1人	担い手担当者等連携会議 1回 担い手担当者就農相談研修会 1回 市町村、JA情報交換会 5回 就農相談 20回 就農・営農相談会 4回 新規就農者実態調査 2回 青年等就農計画作成指導 随時	川端 古澤 横山
2 新規就農者の定着支援 【新規就農者等】	フォローアップ対象農家定着率 100% フォローアップ対象農家の自己評 価向上 7人	地域リーダー等との合同研修会 1回 農業経営者基礎講座 3回 複式農業簿記基礎講座(西部・藤 岡・富岡合同開催) 7回 タブレットを活用した個別指導 7人、各3回以上	古澤 川端 佐藤 全員
3 意欲ある経営体の確保 育成 【認定農業者、市町村】	認定農業者数(更新および新規) 35人 共同申請数(更新および新規) 15人 家族経営協定締結数 新規1戸 (令和5年度末147戸)	経営改善計画作成支援 随時 認定農業者共同申請推進 2回 家族経営協定締結推進 2回	横山 川端 古澤
4 農業農村の男女共同参 画推進支援 【甘楽富岡農村女性会議、 若手女性農業者、女性起 業】	事業計画達成組織 2組織 研修会参加者 延べ28人 農村女性リーダー候補者 1人 女性起業数 18→18起業	活動検討会 2回 組織活動運営支援 随時 男女共同参画研修会 1回 女性農業者研修会 3回 リーダー候補育成支援 1回 タブレットを活用した情報提供 5回 起業活動実態調査 1回 情報提供 随時	横山 川端
5 地域における女性リー ダーの活動支援 【農村生活アドバイザー、 女性農業者】	事業計画達成組織 1組織 農村生活アドバイザー認定 1人	活動検討会 2回 研修会 3回 組織活動運営支援 随時 認定に向けた支援 3回	横山 川端
<p>関連事業名：がんばる新農業者応援事業、女性農業者活動支援事業、新規就農者育成総合対策、就農促進対 策 関連プロジェクト名：農業農村振興計画プロジェクトB「地域ぐるみによる新たな担い手の確保」</p>			

支援事項 【支援対象】	評価指標		担当
	成果指標	活動指標	
1 米麦大豆の生産安定と品質向上 (1) 水稻の品質向上 【水稻生産者】 (2) 麦の品質向上 【麦生産者】 (3) 大豆の生産安定 【かぶら大豆生産者協議会】	米1等比率 4.6→30% ※令和1～5年の玄米検査成績のうち一等比率平均 25% 小麦「さとのそら」1等比率 62→80% ※令和1～5年の「さとのそら」検査成績のうち一等比率平均 45% 単収(慣行栽培) 57→120kg/10a 大豆栽培者数 6→7人	栽培講習会 1回 稲作情報提供 500部×2回 JA広報情報提供 2回 雑草防除、水管理等現地指導 30回 麦作情報提供 5回 雑草防除、適期収穫等現地指導 15回 栽培講習会 1回 視察研修会 1回 現地ほ場巡回 1回 栽培技術情報提供 2回 雑草防除、排水対策等現地指導 15回	丸山
2 イチゴ産地活性化 【JA苺生産部】	生産部出荷販売額 3→3億円 講習会等参加者 のべ 20人 適期定植農家数 16戸 環境制御新規導入検討農家 2戸 新品種育苗特性把握 2品種 育苗期天敵導入農家 3→4戸	栽培講習会等 2回 花芽検鏡 3回 硝酸態等濃度調査 8回 (育苗 3回、本ぼ 5回) タブレットを活用した技術支援 8回 データ駆動型農業情報提供 3回 環境制御モニタリング実証ほ [イノベーション] 3箇所 新品種特性把握実証ほ [協同農業] 1箇所 I P M技術導入支援 6回	土屋
3 露地ナスの新規栽培者支援と産地技術向上 【JAナス生産部】	新規栽培者の平均単収 6t/10a 露地ナス出荷量 1,724→1,730t	新規栽培者向け講習会等 8回 生育ステージ別情報提供 6回	土屋
4 タマネギにおける生産安定 【JA玉葱生産部】	タマネギ出荷量 1,295→1,300t 難防除病害防除対策把握 1事例	栽培講習会 3回 アザミウマ類発生調査 3回 べと病モニタリング調査 3回 難防除病害虫対策等情報提供 2回 難防除病害対策実証ほ [協同農業] 1箇所	土屋
5 下仁田ネギの産地維持 【JA下仁田葱生産部、下仁田葱の会】	栽培面積 70→70ha 緑肥導入 8→10戸	栽培講習会 2回 栽培マニュアル情報提供 5回	日戸 土屋

6 少量多品目産地の維持・強化 【インショップ出荷者、キュウリ・ニラ・オクラ等各種品目栽培生産者】	インショップ等新規出荷者数 6戸 インショップ・各種講習会における新規出席者数 6戸	インショップ栽培講習会等 3回 各種講習会または情報提供等 5回	土屋 日戸
関連事業名：ぐんま農業イノベーション推進事業、気象災害対策強化普及推進事業、グリーンなさ栽培体系への転換サポート、園芸産地における事業継続強化対策、経営所得安定対策、「やさい王国ぐんま」総合支援 関連プロジェクト名：農業農村振興計画地域重点プロジェクトC「いちご産地活性化」			

支援事項 【支援対象】	評価指標		担当
	成果指標	活動指標	
1 優良堆肥生産の推進 【畜産農家】	酪農堆肥特殊肥料登録に向け た働きかけ戸数 1戸 堆肥リスト作成新規登録戸数 1戸	特殊肥料説明会 3回 堆肥分析戸数 10戸 堆肥分析農家に対するリス ト登録の働きかけ 5回	横堀
2 WCS用イネの作付推進 【甘楽富岡WCS用イネ栽培者】 【甘楽富岡WCS用イネ利用畜産農 家】	WCS用イネ栽培面積 甘楽 31.3 → 34.9ha 富岡 11.8 → 10.6ha	つきことか栽培適正実証ほ 設置[協同農業] 1箇所 技術情報提供 2回 実証ほ現地検討会 1回 サイレージ品質検討会 1回 出穂期予測調査 1回 稲こうじ病発生調査 1回 稲こうじ病対策技術情報提 供 1回 タブレットを活用した栽培 管理指導 3回	横堀
3 畜産農家の経営分析及び支援 【酪農家】 【和牛繁殖農家】	酪農家または和牛繁殖農家の 経営分析戸数 1戸	経営分析農家(重点支援対象 者)の選定 1戸 担い手支援スペシャリスト 派遣 2回 タブレットを活用した経営 調査 5回 分析結果情報提供 1回 経営アンケート調査 1回	横堀
4 和牛繁殖経営の安定支援 【渋川家畜市場出荷者】	平均単価以上割合 49→50%	育種価情報提供 17戸 飼養管理技術情報提供 1回	横堀
関連事業名：			

支援事項 【支援対象】	評価指標		担当
	成果指標	活動指標	
1 ウメの生産安定と品質向上 【管内5JAウメ部会】	販売量(3年平均) 442→450t 出荷選外品割合 10%以下 モモヒメヨコバイ防除実施率 70→75%	各種栽培管理講習会 10回 ヨコバイ類防除実証ほ [植防協会] 1箇所	三ツ石 斎藤 小山
2 キウイフルーツ産地維持に向 けた成木樹の樹勢強化と産地PR 【JA甘楽富岡キウイフルーツ生 産部】	フルメット液剤導入農家戸数 10→20戸 適期収穫・出荷達成率 80%以上 産地PR実施組織数 1組織	果実肥大促進剤実証ほ [植防協会] 1箇所 栽培管理・せん定講習会 2回 重点農家指導 10回 産地PR活動 1回	三ツ石 小山 斎藤
3 有機オリーブ産地づくりの推 進 【有機オリーブ栽培農家】	有機オリーブ栽培農家戸数 0→4戸	基礎栽培講習会 1回 病害虫対策講習会 1回 有機栽培講習会 2回 オリーブ有機協議会(仮)検討 会 3回	三ツ石 小山 斎藤
4 切り花の栽培技術向上と生産 安定 (1) 南牧村産地維持のための担い 手確保と生産振興 【南牧村花卉生産組合】	新規栽培者の確保 (R1～累計) 5→6名 新規導入品目 1品目	新規栽培者の掘り起こし 随時 栽培研修会・現地検討会等 4回 新規栽培者重点指導 8回	宮下 中嶋
(2) バラの生産性向上 【JA甘楽富岡バラ部会】	出荷量 49→52千本 A品率 70→80%	LED補光増収技術実証ほ設置 [イノベーション] 1箇所 品質向上(ボリューム増加) のための検討会 2回 タブレットを活用した環境制 御指導 5回	
(3) トルコギキョウの生産安定 【JA甘楽富岡切り花部会】	土壌病害発生割合 30→15%以下	土壌病害実証ほ設置 [協同農業] 1箇所 栽培技術研修会 1回 立枯病対策チェックシート の取組啓発 5戸×1回 病害虫対策指導 5回	

<p>5 各種鉢花生産の経営改善</p> <p>(1) 難防除病虫害防除によるシクラメンの生産安定 【管内シクラメン生産者】</p>	<p>病虫害ロス率10%以下の農家戸数 0→1戸</p>	<p>アザミウマ発生予察に基づく防除指導 3回 病虫害対策指導巡回 10回 病虫害対策チェックシートの取組啓発 2戸×1回 現地検討会 2回</p>	<p>中嶋 宮下</p>
<p>(2) コナジラミ防除による鉢物ベゴニアの生産安定 【管内鉢物ベゴニア生産者】</p>	<p>コナジラミ被害による出荷ロス10%以下の農家戸数 1→3戸</p>	<p>病虫害対策巡回指導 7回 コナジラミ発生予察に基づく防除指導 3回</p>	
<p>(3) 鉢物カーネーションの需要期出荷技術支援 【管内鉢物カーネーション生産者】</p>	<p>鉢物カーネーション適期出荷95%以上の農家戸数 1→2戸</p>	<p>現地検討会 2回 温度管理指導 5回 タブレットを活用した栽培管理指導 3回</p>	
<p>関連事業名：ぐんま農業イノベーション推進事業、病虫害防除対策現地実証事業（植防協会）、GAPの普及推進</p>			

2 各普及関係事業計画

(1) 協同農業普及事業実施計画書

1 普及指導員の活動

(1) 調査研究（実証調査、実験研究、資料調査、実態調査等）の実施

課 題 名	調 査 研 究 内 容	参加普及指導員数
別途報告		9 人
課題数 計 9 課題		

(2) 実証ほの設置、実証モデル農業者等の設定

	課 題 名	実 証 内 容	設置箇所数
実証ほ	コンニャクネコブセンチュウ緑肥効果	緑肥輪作によるネコブセンチュウ防除効果の確認	1箇所
	コンニャク越冬栽培における施肥量の検討	コンニャク越冬栽培における2年目適正施肥量の検討	1箇所
	コンニャク収穫後のネギ類適正栽培	コンニャク後作のネギ類の栽培確認	1箇所
	県育成イチゴ新品種の特性調査(育苗期)	県育成イチゴ新品種の現地適応性についての確認	1箇所
	タマネギ栽培におけるパレード20フロアブルの効果的使用法の確認	タマネギ黒腐菌核病に対するパレード20フロアブルの効果確認	1箇所
	有機ほ場の下仁田ネギにおけるシロイチモジヨトウとネギハモグリバエの発生消長及び被害程度について	有機栽培下でのシロイチモジヨトウとネギハモグリバエの発生消長調査とその被害程度の確認	1箇所
	課題数 計 6 課題		

注 実証ほ、実証モデル農業者等には、

- ① 重点指導の中で特に普及指導活動の拠点として解決策の実証を試みるために設置するもの
- ② 普及指導活動を通じて既にあげられた一定の成果を周囲に波及させるために設置するものの両方を含む。また、個別農業者のほか、法人、集落も含む。

(3) 農業者に対する講習会・研修会の開催

	対 象	講習会・研修会の名称	主 要 な 内 容	開催回数	延人数
講 習 会	・ 水稻栽培農家	育苗・栽培講習会	奨励品種の特性、新技術、農薬適 で正使用	2回	20人
	・ 大豆栽培農家	栽培講習会	病害防除、新技術、農薬適正使用	1回	6人
	・ コンニャク栽培農家	コンニャク栽培講習会	病害防除、新技術、農薬適正使用	20回	250人
	・ 野菜栽培農家	野菜栽培講習会	新技術、推奨品目、農薬適正使用	19回	440人
	・ タラノメ栽培農家	タラノメ栽培講習会	病害防除、新技術、農薬適正使用	1回	15人
				計43回	計731人
研 修 会	認定農業者・新規就農 者等	複式農業簿記基礎講座	伝票利用による複式農業簿記 の記帳方法	7回	70人
			システムを活用した簿記記帳	3回	5人
	コンニャク栽培農家	複式農業簿記実践講座	の実践	1回	30人
		夏期研修会	現地研修会	1回	30人
	丹生湖生産組合	冬期研修会	実績検討会	1回	30人
		視察研修会	先進地視察研修会	1回	30人
	野菜栽培農家	現地研修会	ほ場巡回研修会	1回	8人
	現地研修会	ほ場巡回研修会	3回	25人	
			計17回	計198人	

注 パソコンを用いた講習会・研修会（簿記関連、経営診断関連、インターネット活用、ホームページ作成等）については、その旨を記述する。

(4) 新規就農促進のための交流会、研修会等の開催

	対 象	交流会・研修会等の名称	主 要 な 内 容	開催回数	延人数
研 修 会	・ 野菜の新規就農及び 新規栽培者（ナス、ニ ラ、キュウリ、オクラ、馬 鈴薯、レタス、キャベツ、 ネギ、エダマメ、インゲ ン、タラノメ、ブロッコリ ー、ホウレンソウ、スナッ プエンドウ）	新規栽培者講習会	講習会	4回	34人
			現地研修会	6回	35人
			実績検討会	1回	5人
				計11回	計74人

注 就農後のフォローアップのものも含む。

(5) 農業改良普及推進協議会の開催

	開催箇所数	年間開催回数	備 考
普及指導センター段階	1 箇所 計 1 箇所	1 回 計 1 回	甘楽富岡農業振興会議 構成員：富岡市、下仁田町、南牧村、甘楽町、JA甘楽富岡、農業指導センター 協議事項：気象災害等への対応、普及計画及び地域農業振興について
市町村段階	4 箇所 計 4 箇所	4 回 計 4 回	次年度普及計画説明会 構成員：富岡市、下仁田町、南牧村、甘楽町、JA甘楽富岡、農業指導センター 協議事項：次年度普及計画について (各市町村とJA同席の意見交換)

注1 協議会の範囲が上記以外の場合欄外に注記すること。

注2 備考の欄には、主な構成員、主な協議事項等について記入。

(6) 産休等改良普及員代替職員の設置数 — 人

(7) 普及情報協力者の設置

区 分	設置人数	備 考
1 普及課題収集者	29 人	うち、農業経営士 11 人 青年農業士 7 人 うち、農村生活アドバイザー 11 人
農業関係	18 人	
生活関係	11 人	
その他課題		
2 その他情報収集者 (課題収集者以外)	5 人	うち、気象災害情報農家 5 人

注1 普及課題収集者とは、日頃より普及課題となりうるような情報を提供してくれる人をいう。

2 その他情報収集者とは、気象災害情報、新規就農情報、地域の話題等の情報を提供してくれる人をいう。

3 備考には、内数として農業経営士、青年農業士、農村生活アドバイザーの数を記入すること。

(8) 普及指導協力委員の活動

区 分	委嘱人数
農 業 者	22 人

(2) 令和6年度がんばる新農業人応援事業実施計画書

1 事業実施の基本方針

富岡地区農業指導センターでは、市町村やJA等関係機関及び農村リーダーと連携し、甘楽富岡地域の担い手の確保・育成のため、総合的な就農支援体制の構築を目標としている。近年の就農希望者の傾向として、新規参入者や農業の基礎知識が乏しい方が増えており、仲間づくりを行いながら早期に経営を安定させることが定着の鍵となっている。

そこで、市町村やJA等関係機関の機能強化に向けた研修会を開催するほか、新規就農者を対象に定期的な巡回指導や個別相談による経営課題の把握と解決策の提案を行い、研修等により農業の基礎知識や経営管理能力の向上や地域のつながりを深めるよう定着支援を図る。

◎目指すべき姿

取組事項	現 状【令和5年度】	目指すべき姿【令和6年度】
・ 関係機関等連携による就農支援	・ 関係機関毎に定期的な情報交換会を実施し、連携を強化した。 ・ 新規参入者等が利用可能な農地や施設等の情報が不十分である。	・ 就農相談から就農準備及び定着支援まで総合的に支援を行う。
・ 新規就農者の定着支援	・ 個別支援と集合型研修の実施 ・ 先輩農業者との交流支援 ・ 農業青年組織活動の衰退	・ 栽培技術と経営管理能力の早期習得による経営の安定 ・ 重点支援農家の課題解決支援 ・ 地域に定着する人材の育成

2 事業内容

(1) データを活用した新規就農者に対する経営確立支援

【基本的な考え方】

- ・ フォローアップ対象農家を中心に、営農支援システムを活用し経営や支援状況をデータ共有し、多角的な視点から経営安定に向けてサポートを行う。
- ・ タブレットを活用した情報共有や個別相談により、課題解決を支援する。

① 重点指導対象農家等への個別支援

対象	対象人数
重点指導対象農家	29人
うち、フォローアップ対象農家	7人

実績報告時、別に定める様式による名簿を添付する。

② 新規就農者向け研修会・講座等の開催計画

開催時期	対象人数	活 動 内 容
令和6年9～10月 (全3回)	52人	農業経営者基礎講座 第1回 農作業安全、農業機械点検、園芸共済制度 第2回 農業経営の基礎知識 第3回 農薬適正使用、GAP、土壌肥料の基礎知識

(2) 総合的な就農支援体制の強化

<p>【基本的な考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手担当者会議を開催し、就農支援体制の強化について検討する。 ・農地等の情報収集や提供を効率化するため、人・農地プランの活用等を検討する。
--

総合的な就農支援体制の強化に係る会議、研修会等の開催計画

開催時期	構成員・人数	検 討 内 容
令和6年5月	市町村、JA甘楽富岡、指導センター・ 12人	担い手担当者会議 ・就農相談、新規就農者の支援体制 ・普及及び就農支援関連事業紹介
令和6年5月	市町村、JA甘楽富岡、指導センター・ 12人	就農相談対応研修会 ・就農相談の進め方 (講師案：(一社)群馬県農業公社担当者)
令和6年6～12月	市町村、JA甘楽富岡、指導センター・ 12人	市町村・JAとの就農情報交換会 ・就農相談、新規就農者等の情報共有

(3) 新規就農者同士や地域農業者とのネットワーク化

<p>【基本的な考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者に対する総合的な支援を継続的に行うため、関係機関、地域農業リーダー等と連携した活動を行う。

交流会等の開催計画

開催時期	対象人数	活 動 内 容
令和6年9月	52人	先輩農家の畑を見て歩こう会 (就農10年目程度の先輩農業者及び農業経営士の生産現場の視察及び意見交換)

(3) 女性農業者活動支援事業実施計画書

1 事業実施方針

富岡地区センター管内には、かぶら農村生活アドバイザーの会、JA甘楽富岡女性会、甘楽・富岡農村女性会議等、長年活動している農村女性組織がある。また、こうした組織員や女性農業委員、JA女性理事の力添えにより、若手女性農業者ネットワーク「絹女」が誕生している。

一方で、管内女性農業者は農業の補助的な役割を担っているという意識も根強く、農業経営パートナーとして自立意識を醸成することが重要な課題となっている。

指導センターでは、女性農業者の主体的な経営参画、社会参画及び男女共同参画社会の実現を目指すため、各農村女性組織の研修会、講演会等の学習機会を設ける。また、次代を担う新たなリーダーの育成を行うため、若手女性農業者のネットワーク活動を支援する。

2 男女共同参画推進目標

目標項目	現 状 (令和5年度)	目 標 (令和6年度)	実績値 (令和6年度)	備 考
・家族経営協定締結数	148戸	149戸		
・女性認定農業者の育成	26人	27人		
・農村女性起業数	18組織	18組織		

注1) 家族経営協定締結数、女性(共同)認定農業者数、農村女性起業数、市町村ビジョンの策定目標値を設定し、その他男女共同参画推進に係る目標項目については地域の実情に応じ設定のこと。

注2) 各数値の基準日は、3月末日とする。ただし、それ以外の基準日を用いる場合は、数値の下欄に基準年月日を記載すること。

3 事業実施計画

(1) 女性農業者等の経営参画・社会参画の促進及び男女共同参画推進の環境づくり

ア 男女共同参画推進対策検討会の開催計画

開催時期	構成員とその所属 (専門分野)	検 討 会 内 容	備 考
令和6年6月	甘楽・富岡農村女性会議役員 ①かぶら農村生活アドバイザーの会 ②JA甘楽富岡女性会 ③群馬県農業経営士会甘楽富岡支部 以上①～③団体の会長	○令和6年度の活動検討 ・農業農村男女共同参画講演会について等	

注1) 先進地視察については、視察先を備考欄に記載のこと。

イ 女性の社会参画、経営参画促進のための研修会等の開催計画

開催時期	対象者・人数 (うち男性数)	講師とその所属 (専門分野)	内 容	備 考
令和6年6月	かぶら農村生活アドバイザー、若手女性農業者等 20人	アドバイザー会員	第1回農村女性リーダー研修会 ・リーダー育成（講師経験を通してアドバイザーの更なるリーダーシップの獲得に繋げる） ・情報交換	フラワーアレンジメント講座
令和6年9月	かぶら農村生活アドバイザー 11人		第2回農村女性リーダー研修会 ・視察研修	
令和6年10月	甘楽・富岡農村女性会議会員、若手女性農業者、管内農業者等 20人（5人）	大学教授級	農業・農村男女共同参画研修会 ・男女共同参画事例、労務管理等	
令和6年12月	かぶら農村生活アドバイザー 11人	アドバイザー会員	第3回農村女性リーダー研修会 ・リーダー育成（講師経験を通してアドバイザーの更なるリーダーシップの獲得に繋げる） ・情報交換	寄せ植え講座

ウ 意見交換会の実施計画

開催時期	対象者・人数	内 容	備 考
令和7年2月	管内若手女性農業者ネットワーク（絹女）メンバー 17人	若手女性農業者意見交換会 ・今年度の活動振り返り ・次年度の研修内容、ネットワーク活動の検討	

エ 異業種女性・都市住民等との交流会実施計画

開催時期	対象者・人数 (うち男性数)	内 容	備 考

(2) 次代へ向けた若手女性農業者育成・対策

ア 若手女性農業者等養成講座の開催計画

開催時期	対象者・人数 (うち男性数)	内 容	備 考
令和6年10月	管内若手女性農業者 17人	若手女性農業者研修会 ・農薬の使い方、農業簿記等	
令和7年2月	管内若手女性農業者 17人	若手女性農業者研修会 ・経営事例発表	

イ 若手女性農業者と地域リーダーとの意見交換会・交流会の開催計画

開催時期	参加者・人数 (うち男性数)	内 容	備 考
令和6年6月	若手女性農業者、かぶら農村生活アドバイザー等 20人	若手女性農業者研修会	(1) イの第1回農村女性リーダー研修会と同時開催

(4) 気象災害対策強化普及推進事業計画書

1 事業実施の基本方針

令和5年度は、当初から気温が高く、特に夏期は猛暑日が連続した影響で生育中の作物に様々な障害が発生した。水稻において異常気象が原因となる障害を回避するため、本事業を実施する。

水稻において生育中の気象条件を考慮した適切な栽培管理を、特に水管理・施肥管理に重点を置きながら指導・啓発を行い玄米の品質向上を図る。

2 目標及び導入しようとする新技術

導入しようとする気象災害対策技術の普及率	現 状 令和5年	目 標 令和6年
水稻の適切な栽培管理による一等米比率の向上	4.6%	30%

3 事業内容

(1) 気象災害対策技術の普及推進

ア 技術対策検討会

実施時期	対象人数	対象地域 (作物)	検 討 内 容

イ 先進地調査等の実施

実施時期	対象地域 (作物)	調 査 内 容

ウ 現地実証ほ・調査ほの設置

実施時期	対象地域 (作物)	活 動 内 容

※ 実証・調査ほを設置する場合には「協同農業普及事業実証ほ設置、実証モデル農業者設定要領」の別記様式により、計画書及び実績書を作成し提出すること。

(2) 技術研修会・講習会の開催

開催時期	対象人数	研 修 内 容
4月	20人	水稻：気象条件を考慮した適切な栽培管理

(5) グリーンな栽培体系への転換サポート実施計画書

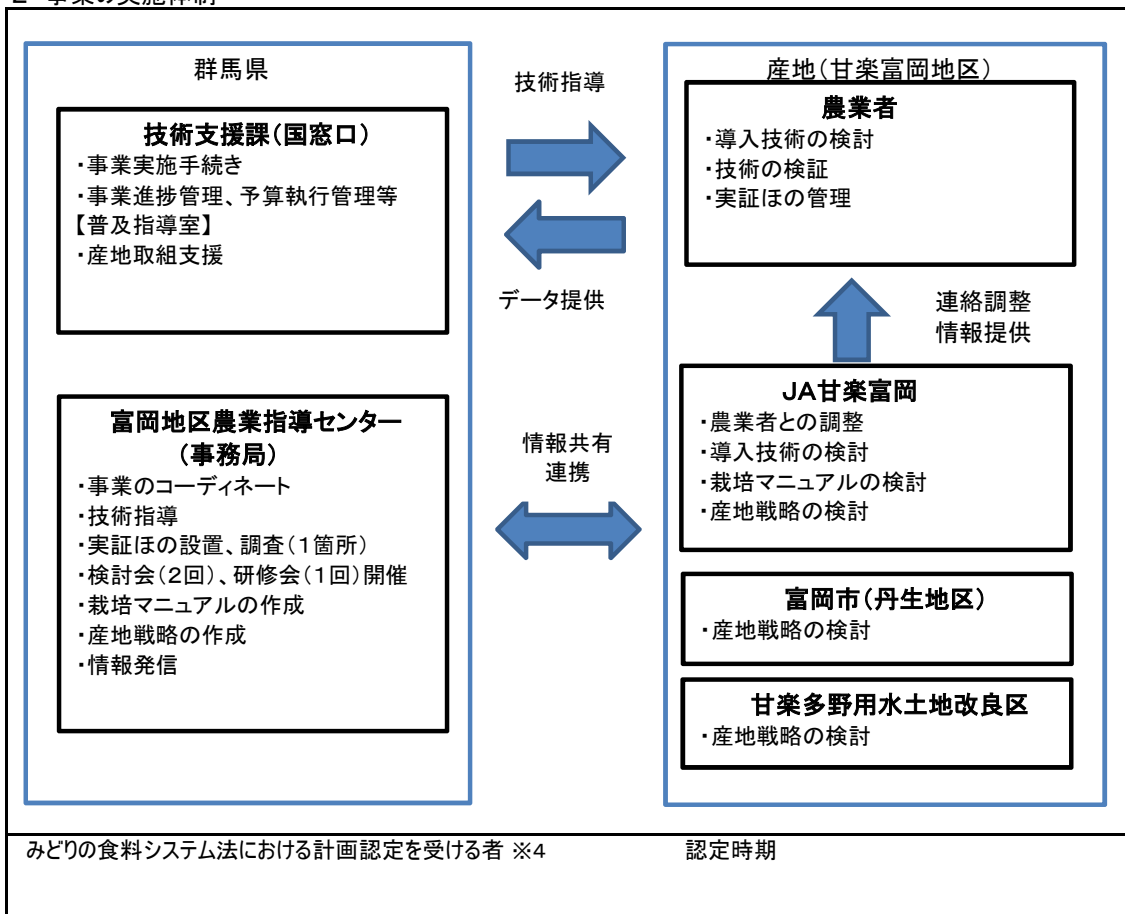
第1 事業内容

1 事業の目的

甘楽富岡地域では、稲作農家の高齢化による労働力不足や後継者不足による遊休農地の増加が地域的な課題になっている。
 環境にやさしい栽培技術として側条施肥田植機により化学肥料使用量を低減できる。また、省力化に資する技術として側条施肥田植機に除草剤散布・箱施用剤施用可能な装置を装着した田植作業・施肥・除草剤散布・箱施用剤散布を同時に行うことによる労働時間の削減を目指す。

- ※1 地域の課題を踏まえた目的、期待される環境負荷低減への効果及び地域への普及の見込み等を記載。
- ※2 消費者理解の醸成の取組を行う場合は、その目的及び効果の見込み等を追記すること。
- ※3 事業実施期間を複数年又は目標年度を事業実施期間の最終年度の翌年度とする場合は、その理由を簡潔に追記すること。

2 事業の実施体制



- ※1 事業の実施体制について、事業に関わる者の名称及び役割を明示し、責任体制が把握できるように記載すること。
- ※2 実施体制は、次の①②について都道府県が確認済みであるものを記載すること。
- ※3 スマート農業機械等の導入等を行う場合は、当該機械の利用者を明示すること。
- ※4 みどりの食料システム法における計画認定を受ける者の欄には、事業に参加する者(協議会の構成員を含む。)のうち、「環境負荷低減事業実施計画」の認定を受ける生産者、「基盤確立事業実施計画」の認定を受ける事業者が含まれる場合に当該計画の認定を受ける者の名称を記載すること。

3 事業の概要

(1) 取組概要

取組内容	実施時期	回数	対象者・人数	備考
〈 検討会の開催 〉				
取組計画の検討	4月	1回	丹生湖生産組合員・指導センター職員・甘楽多野用土地改良区職員・13名	
実績検討会	12月	1回	丹生湖生産組合員・指導センター職員・甘楽多野用土地改良区職員・13名	
〈 グリーンな栽培体系の検証 〉				
側条施肥田植実演会	6月	1回	丹生湖生産組合員・指導センター職員・甘楽多野用土地改良区職員・13名	1箇所で実証 丹生湖生産組合ほ場
箱施用型殺虫殺菌剤の田植同時処理	6月	1回	丹生湖生産組合員・指導センター職員・甘楽多野用土地改良区職員・13名	丹生湖生産組合ほ場
〈 栽培マニュアル・産地戦略の策定 〉				
栽培マニュアルの作成	2月	1回		
産地戦略の作成	2月	1回		
〈 情報発信 〉				
ホームページ	3月	1回		
〈 消費者理解の醸成 〉				

※ 事業実施期間を複数年とする場合は、参考として前年度の実績及び次年度以降の計画を上記に準じて追記すること。ただし、次年度の計画は、年度をまたがない品目かつ〈グリーンな栽培体系の検証〉の内容が事業実施年度と同一の場合は省力してよい。

(2)グリーンな栽培体系の検証内容

区分	作業段階	新たに取り入れる技術とその効果	検証内容等
<input checked="" type="checkbox"/> 環境にやさしい栽培技術	<input checked="" type="checkbox"/> 省力化に資する技術 施肥	(取り入れる技術) 側条施肥田植機 (環境負荷低減／省力化の効果の見込み) 基肥の施用量2割削減 基肥施用に係る作業時間9割(0.8h→0.08h)削減 (地域の慣行) ・人力(手蒔き)による肥料散布	2カ所で実証する。 【生育調査】稈長、穂長、穂数、千粒重を調査 【収量調査・品質調査】10a収量を調査、検査等級を調査 【作業時間調査】基肥の施用時間を調査
<input type="checkbox"/> 環境にやさしい栽培技術	<input checked="" type="checkbox"/> 省力化に資する技術 病害虫管理	(取り入れる技術) 箱施用型殺虫殺菌剤の田植同時処理 (環境負荷低減／省力化の効果の見込み) 箱施用剤の散布時間の9割(0.58h→0.06h)低減 (地域の慣行) ・甘楽富岡地域全体としては箱施用剤が普及しつつあるが、実証ほを設置する丹生地域ではあまり普及していない。また、箱施用剤については田植え前に手作業で散布している。	【作業時間調査】箱施用剤の散布時間を調査
<input type="checkbox"/> 環境にやさしい栽培技術	<input checked="" type="checkbox"/> 省力化に資する技術 除草剤散布	(取り入れる技術) 田植除草剤同時散布 (環境負荷低減／省力化の効果の見込み) 除草剤散布時間の9割(1.35h→0.13h)低減 (地域の慣行) ・甘楽富岡地域全体としては田植同時処理が普及しつつあるが、実証ほを設置する丹生地域ではあまり普及していない。	【作業時間調査】除草剤の散布時間を調査

※1 事業実施2年目以降の場合は、旧様式の該当部分に替えて記載して良い。

※2 「作業段階」の欄は、「施肥・土づくり」「耕起」「播種」「追肥」「雑草管理」「病害虫管理」「収穫」「収穫後作業」「栽培期間全般」

※3 (地域の慣行)の欄は、(取り入れる技術)に対する地域の慣行の技術等を記載すること。ただし、(取り入れる技術)が慣行の栽培

※4 「検証内容等」の欄は、栽培マニュアル・産地戦略の策定に当たっての(取り入れる技術)の検証方法、データの収集方法などの事業

※5 (取り入れる技術)の環境負荷低減又は省力化の効果が一般に認知されていないと地方農政局等又は都道府県が判断する場合

※6 配分基準の⑧のiii)を選択する場合は、輸出事業計画の作成年月及び輸出先国の求める生産物に対応するための栽培体系を検討することが分かる資料を添付すること。

(3)取組面積

	現状年(事業開始前年) (令和 5 年度)		事業実施年 (令和 6 年度)		普及目標年※1 (令和 11 年度)	
対象品目の作付面積	20	ha	20	ha	20	ha
グリーンな栽培体系の取組面積	-	ha	0.3	ha	20	ha
環境にやさしい栽培技術の取組面積	0	ha	0.3	ha	20	ha
省力化に資する技術の取組面積	-	ha	0.3	ha	20	ha
加工・業務用向け割合	-	%	-	%	-	%

※1 「普及目標年」は、産地戦略実施期間の最終年度のことを指す。

※2 「対象品目の作付面積」のうち「事業実施年」及び「普及目標年」は空欄でも構わない。

※3 「グリーンな栽培体系の取組面積」「環境にやさしい栽培技術の取組面積」「省力化に資する技術の取組面積」について、「事業実施年」の欄は本事業における検証面積とする。なお、「普及目標年」は、原則、「事業実施年」より拡大することとする。

※4 「環境にやさしい栽培技術の取組面積」の「現状年」は、配分基準の⑨のソ又はタを選択する場合には必ず記載すること。

※5 「加工・業務用向け割合」は、配分基準の⑨チ又はツを選択する場合には必ず記載すること。

(4)検証に必要なスマート農業機械等の導入の概要 ※導入する機械毎に別紙の導入計画書を添付すること。

農業機械名	台数	活用する技術検証内容	機械管理者	導入/リース導入

参考1 普及活動実証ほ等一覧

課題名	事業名又は実施主体	対象作物	担当者	箇所数
1 コンニヤクネコブセンチュウ緑肥効果	協同農業普及事業	コンニヤク	高橋	1箇所
2 コンニヤク越冬栽培における施肥量の検討	協同農業普及事業	コンニヤク	高橋	1箇所
3 コンニヤク収穫後のネギ類適正栽培	協同農業普及事業	コンニヤク	高橋	1箇所
4 県育成イチゴ新品種の特性調査(育苗期)	協同農業普及事業	イチゴ	土屋	1箇所
5 タマネギ栽培におけるパレード20フロアブルの効果的使用法の確認	協同農業普及事業	タマネギ	土屋	1箇所
6 有機ほ場の下仁田ネギにおけるシロイチモジヨウトとネギハモグリバエの発生消長及び被害程度について	協同農業普及事業	下仁田ネギ	日戸	1箇所
7 作況ほ 水稻	主要農作物作況ほ設置事業	イネ	丸山	1箇所
8 作況ほ コンニヤク	主要農作物作況ほ設置事業	コンニヤク	高橋	2箇所

○実証ほとは、その地域における新技術を現地導入する際に効果を実証するほ場(一般的な実証ほ)のほか、展示ほ(農業者に向けて栽培技術を確認してもらうほ場)や試験ほ、作況ほ等も含む。

○協同農業普及事業、協同農業普及事業関連予算、県単事業、その他団体等予算等で設置・運用した実証ほの箇所数を記入する。

※「協同農業普及事業関連予算」：中山間地ルネッサンス推進事業、ぐんま農業イノベーション推進事業、グリーンな栽培体系への転換サポート 等

※「県単事業」：気象災害対策強化普及推進事業、農業技術センター関連事業(適応性試験等)、耕畜連携・資源循環型農業推進事業、農業農村振興計画推進費、鳥獣害に強い集落づくり支援事業、農村整備課関連事業 等

※「その他団体等予算」：全国農業システム化研究会事業、米麦大豆振興協会現地実証ほ設置事業、JA中央会現地実証ほ設置事業、JA予算、植防疫協会事業、協議会・研究会予算 等

なお、その他団体等予算で行う場合は、主たる設置者に普及が関与し、運用や結果とりまとめ・公表主体に普及組織の名称が入るような場合は対象とする。

※上記には、報償費や必要費、使賃料等が伴わない予備試験的な実証ほも含む。

○実証ほの箇所数のカウント方法は、「品目」技術体系「実施箇所」等でカウントを行う。

※品種比較は一つの品目に対する実証と捉えカウントする。(同園地において違う品種を実証する場合は区別してカウントしない。)また、対照区と試験区は通常セットとして考えられるためこれらを一つのものとしてカウントする。

参考2

令和6年度GAP導入推進計画

OGAPの普及推進の基本方針

OGAPの普及推進にあたっては、JA広報誌、各部会講習資料における情報提供、個別指導により生産者のGAPの理解並びに取組を促進し、経営改善を図る。
 ※普及計画の認証レベル産地はこれまで畜産GAPを除いてカウント

担当 事務所	第三者認証志 よび取引先の 認証取得し得る 組織	組織名	構成 農家数	GAP実践 農家数	品目	GAP導入 状況	令和5年度 GAP導入 実績	①取組の状況		②農事点検の合 意		③農場点検講習、 PDCAサイクルの 実施		国際水 産GAP の取組	いつ頃から取 組始めたか	GAP導入 報告時期	第三者認証等取得 状況(例:JGAP、生 産GAP、イオンGA P)	現在の組織の状況 (把握している範囲で記入してく ださい。)	支援内容
								取組を 行 う予 定 (F1以上)	取組を 行 う予 定 (F1以上)	取組を 行 う予 定 (F2以上)	取組を 行 う予 定 (F2以上)	取組を 行 う予 定 (F3以上)	取組を 行 う予 定 (F3以上)						
富岡		JA甘葉富岡ニラ生産者	82	2	ニラ	1	1	○	○	○	○	○		H25	H25			チェックシートの配布	
富岡		JA甘葉富岡ナス生産部	172	2	ナス	1	1	○	○	○	○	○		H26	H27			チェックシートの配布	
富岡		JA甘葉富岡こんにやく生産部	71	2	こんにやく	1	1	○	○	○	○	○		H27	H29			チェックシートの配布	
富岡		甘葉富岡地区イチゴ生産者	33	3	イチゴ	2	2	○	○	○	○	○		R1	R1			チェックシートへの配布、改善点の 洗い出し	
富岡		JA甘葉富岡特別栽培タマネギ生産者	66	2	タマネギ	1	1	○	○	○	○	○		R1	R1			チェックシートの配布	

※①～③の○の位置について

- 取組を行う予定の組織
- 農場点検済みの組織(第三者認証取得済)
- 農場点検済みの組織(第三者認証取得済)
- 農場点検済みの組織(第三者認証取得済)
- 第三者認証済みの組織(過去取得済のみカウント)
- 第三者認証済みの組織(過去取得済のみカウント)

※畜産GAPは含まれる。
 ※林産物(キノコ)GAPについては含まない。

- 取組の状況について
 - GAP手法の導入を達成済みで、農場点検済みの組織(第三者認証取得済)
 - GAP手法の導入を達成済みで、農場点検済みの組織(第三者認証取得済)
 - GAP手法の導入を達成済みで、農場点検済みの組織(第三者認証取得済)
 - GAP手法の導入を達成済みで、農場点検済みの組織(第三者認証取得済)
 - GAP手法の導入を達成済みで、農場点検済みの組織(第三者認証取得済)
- 農場点検済みの組織
 - 農場点検済みの組織(第三者認証取得済)
 - 農場点検済みの組織(第三者認証取得済)
 - 農場点検済みの組織(第三者認証取得済)
 - 農場点検済みの組織(第三者認証取得済)
 - 農場点検済みの組織(第三者認証取得済)
- 第三者認証済みの組織
 - 第三者認証済みの組織(第三者認証取得済)
 - 第三者認証済みの組織(第三者認証取得済)
 - 第三者認証済みの組織(第三者認証取得済)
 - 第三者認証済みの組織(第三者認証取得済)
 - 第三者認証済みの組織(第三者認証取得済)